



始



713k-29

京都帝國大學
農學部附屬

演習林概要

昭和三年十月

京都帝國大學農學部附屬演習林



京都帝國大學
農學部附屬 **演習林概要**

昭和三年十月

京都帝國大學農學部附屬演習林



1421-617

演習林の概要を書き記しました故御覽に供
します。

俄かに思ひつきて筆を執り其上に色々な事
情で脱稿を急ぎましたので幾分書き殿りの
點もあり精粗一様ならぬ憾もありますが御
諒恕を願ひます。

御氣付きの點は何なりとも御申越し下さら
ば幸甚に存じます。

昭和三年十月

京都帝國大學 演習林長 市河三祿
農學部附屬

京都帝國大學農學部附屬 演習林概要 目次

第一篇 緒 言

第二篇 演習林本部

- 第一章 職制ノ大要
- 第二章 事業ノ大綱
- 第三章 基本的諸調査
- 第四章 造林係ノ業務
- 第五章 利用係ノ業務
- 第六章 施業係ノ業務
- 第七章 調査係ノ業務
- 第八章 林務係ノ業務

第三篇 本部試験地

- 第一章 概 況
- 第二章 地 況
- 第三章 林 況
- 第四章 施 業
- 第五章 造 林
- 第六章 保 護
- 第七章 利 用
- 第八章 土 木 建 築
- 第九章 演 習
- 第十章 調 査
- 第十一章 雜

第四篇 上賀茂試験地

- 第一章 概 況
- 第二章 地 況
- 第三章 林 況
- 第四章 施 業
- 第五章 造 林
- 第六章 保 護
- 第七章 利 用
- 第八章 土 木 建 築
- 第九章 演 習
- 第十章 調 査
- 第十一章 雜

第五篇 芦生演習林

- 第一章 概 況

第二章 地 況

- 第一節 位置地形境界及面積
- 第二節 地質及氣象
- 第三節 交通其他
 - 第一、林外交通 第二、林内交通

第三章 林 況

- 第一節 植 物 調 査
- 第二節 林 況 ノ 概 要
- 第三節 林 況 調 査 表

第四章 施 業

- 第一節 既往ノ施業概要
- 第二節 施業ノ根本方針
 - 第一、「スギ」ニ關スル各般ノ研究 第二、潤葉樹ノ利用 第三、大植物園トシテノ經營 第四、他演習林トノ比較試験
- 第三節 現在ノ施業方法
 - 第一、森林ノ區劃 第二、施業種類別區域決定

第五章 造 林

第六章 保 護

第七章 利 用

第八章 土 木 及 建 築

- 第一節 道 路
 - 第一、路網計劃 第二、既成道路
- 第二節 建 築
- 第三節 雜 工 事

第九章 演 習

第十章 調 査

第十一章 雜

第六篇 和歌山演習林

- 第一章 概 況
- 第二章 地 況
- 第三章 林 況
- 第四章 施 業
- 第五章 造 林
- 第六章 保 護
- 第七章 利 用
- 第八章 演 習
- 第九章 調 査

第十章 土木建築
第十一章 雜

第七篇 樺太演習林

第一章 概況
第二章 地質及氣象
第一節 位置地形境界及面積
第二節 地質及氣象
第三節 交通其他
第三章 林況
第一節 植物調查
第一、常綠針葉樹林 第二、落葉針葉樹林
第三、闊葉樹林 第四、河畔植物 第五、山火跡地 第六、海岸植物
第二節 演習林及其附近植物目錄
第三節 林況ノ概要
第一、古丹岸關地 第二、亞屯關地 第三、既往ノ施業ヨリ得タル結果 第四、稚樹ニ關スル調査結果
第四節 林況調査表
第四章 施業
第一節 既往ノ施業概要
第二節 施業ノ根本方針
第三節 現在ノ施業方法
第一、森林區劃 第二、伐採量 第三、伐採上ノ注意 第四、其他
第四節 將來ノ施業方法
第五章 造林
第一節 天然更新
第一、伐採跡地 第二、未伐採地
第二節 人工造林
第六章 保護
第一節 火災
第二節 境界
第三節 蟲害
第七章 利用
第八章 土木建築
第一節 道路
第二節 建築
第九章 演習
第十章 調査
第十一章 雜

第八篇 朝鮮演習林

第一章 概況
第二章 地質及氣象
第一節 位置地形境界及面積
第二節 地質及氣象
第三節 交通其他
第三章 林況
第四章 施業
第一節 既往ノ施業概要
第二節 施業ノ根本方針
第一、人工造林地域 第二、林相改良區域
第三、除地
第三節 現在ノ施業方法
第一、森林區劃 第二、施業ノ一般
第四節 將來ノ施業方法
第五章 造林
第六章 保護
第一節 境界
第二節 火災
第三節 盜伐
第四節 綠肥及燃料ノ採取
第五節 火災
第六節 其他
第七章 利用
第八章 土木建築
第一節 道路
第二節 建築
第三節 雜工事
第九章 演習
第十章 調査
第十一章 雜

第九篇 臺灣演習林

第一章 概況
第二章 地質及氣象
第一節 位置地形境界及面積
第二節 地質及氣象
第三節 交通其他
第三章 林況
第四章 施業
第一節 既往ノ施業概要

第二節 施業ノ根本方針
第一、下部帶 第二、中部帶 第三、上部帶
第四、各帶共通事項其他
第三節 現在ノ施業方法
第一、施業按編成前決定ヲ要スル事項 第二、森林ノ區劃 第三、施業ノ一般
第五章 造林
第六章 保護
第七章 利用
第八章 土木建築
第一節 道路
第二節 建築
第九章 演習
第十章 調査
第十一章 雜
挿圖 自第1圖 至第7圖 計7圖
寫真 本部試驗地 3圖 上賀茂試驗地 3圖

菅生演習林	32圖	和歌山演習林	5圖
樺太演習林	73圖	朝鮮演習林	18圖
臺灣演習林	13圖	計	147圖
附圖 本部試驗地	1葉	上賀茂試驗地	1葉
菅生演習林	1葉	和歌山演習林	1葉
樺太演習林	1葉	朝鮮演習林	1葉
臺灣演習林	1葉	演習林圖式	1葉

寫真ノ下=(武田)(山本)(栗田)(丁野)(小林)トアルハ原版所有者ガ夫々本學講師理學博士武田久吉大學院學生山本吉之助、學生栗田勳、學生丁野次男、學生小林義秀ナル事ヲ示ス、茲ニ貴重ナル寫真ノ掲載ヲ快諾セラレシ上記諸君ニ深甚ナル謝意ヲ表ス
其他ノモノハ孰レモ演習林ノ原版ニシテ(演)ト記シテアル。



第一篇 緒言

京都帝國大學農學部附屬演習林ノ概況ニ關シテハ各演習林毎ニ稍々詳細ニ之ヲ記述スベク夫々編輯中ナルモ演習林ヲ通ジテ其全體ニ亘リテ概要ヲ輯録スルノ便ナルヲ感ジタルガ故ニ幾分精粗不同ノ憾アルモ茲ニ本書ヲ刊行スルニ至リタルモノデアツテ今後ナルベク定期的ニ版ヲ重ネ逐次其内容ノ充實ト整頓トヲ期シ度ク思フ。

抑々京都帝國大學農學部附屬演習林ナルモノノ設置セラレタルハ京都帝國大學ニ農學部ノ置カレタル後デアリ夫ハ大正13年ノ事デ未ダ僅ニ5星霜ヲ經タルニ過ギヌ。尤モ明治42年ニ臺灣總督府ヨリ本學基本財産林トシテ現在ノ臺灣演習林ノ交付ヲ受ケ續イテ朝鮮演習林、樺太演習林等ノ或ハ貸付或ハ移管等ヲ受クルニ及ビ之ガ經營ハ1日モ忽ニスベカラザルヲ以テ専門學者、技術者ニ囑託シテ之ガ調査ヲ行ヒ引續キ諸般ノ施設經營ヲ爲シ來リタルモ之等ハ全ク農學部設置ヲ見ル迄ノ消極的管理ノ範圍ヲ脱セズ。漸ク5年前農學部創立セラレタルモ尙創設ノ時代ヲ終ラズシテ教官未ダ其員ニ備ハラズ學生亦多シトセス諸般ノ施設漸ク其緒ニ就カントスルノ状態ニアルヲ以テ未ダ充分ニ演習林ノ機能ヲ發揮スル能ハザルハ頗ル遺憾ニ思フ處デアリ殊ニ創設ノ際諸般ノ事業ノ記録未ダ具體ヲ整フルノ暇無クシテ本書ノ編輯上頗ル困難ヲ感ジタルモ斯クノ如キハ前記セル如ク逐次改訂セント欲スル處デアル。

演習林ハ合計7個所、内5個所ハ演習林ト稱シ2個所ハ試驗地ト稱シテ居ル、即チ

本部試驗地	上賀茂試驗地	芦生演習林
和歌山演習林	樺太演習林	朝鮮演習林
臺灣演習林		

本部試驗地ハ農學部構内ニ在ル小面積ノ地ニシテ教授上日常必要ナル標品ヲ配置スルニモ足ラズ、依リテ農學部ヲ距ツル約1里上賀茂ニ試驗地ヲ置キテ之ガ不足ヲ補ヘルモ尙未ダ日常觀察ヲ要スル精密ナル研究及演習ヲ行フニハ充分ナル能ハズ、機ヲ見テ之ガ擴張ヲ必要トスル。

内地ニ於テハ其位置ヨリ云ヘバ少クトモ寒帶、溫帶、暖帶、熱帶ノ4帶内ニ、樹種ニツキテ云ヘバ少クトモ「スギ」「ヒノキ」「マツ」「タケ」闊葉樹ヲ主トスル5乃至6種ノ林相ヲ成立セシムルニ適當ナル地ニ、學術ノ分科上ヨリ云ヘバ普通林業地ノ外ニ特殊ノ林業地例ヘバ砂防工學ノ研究、森林ノ間接利用ニ關スル研究等ニ適スル地ノ若干ヲ、而シテ尙其外ニ特殊ノ研究ニ適スル小面積ナルモ多數

ニ亘ル森林ヲ演習林トシテ欲スルモ之等ノ諸條件ノ一々ニ就キ演習林ヲ設クルハ云フベクシテ容易ニ實現セラル、處ニ非ザルガ故ニ成ルベクハ一森林ニテ諸般ノ條件ヲ具備シ而モ經營上、研究上、演習上ノ便否等ヲモ考慮シタル結果、暖温兩帶ニ跨リ「スギ」ノ郷土ニシテ尙潤葉樹ニ富メル地トシテ菅生演習林ヲ設ケ、暖帶ニシテ「ヒノキ」ノ生育ニ適シ針葉樹及潤葉樹ノ天然林ニ近キモノヲ見本のニ所有シ尙日本3大林業地ノ1タル吉野ニ近接セル地トシテ和歌山演習林ノ設ガアリ共ニ現在京都ヨリ1日又ハ1日半ノ行程ニアルモ近キ將來ニ於テハ1日行程ヲ以テ容易ニ到達シ得ラル、管デアル。而シテ「マツ」及「タケ」ハ京都ヲ以テ日本ノ中心地ト稱スルモ適言ニ非ザルモ之ヲ特色トスル森林ハ未ダ得ル能ハズ。寒帶林、熱帶林及特殊林業地ト共ニ速カニ演習林ニ加フルノ要アルヲ信ジテ居ル。

所謂植民地ニ演習林ヲ有スルハ諸般ノ關係上必要缺クベカラザル處デアルガ幸ニ樺太、朝鮮、臺灣ニ夫々1ヲ有シ而シテ前述ノ内地演習林ノ不足ハ其幾分ヲ之等植民地ノ演習林ニ於テ補フ事トシテ居ル例ハ寒帶林ハ樺太ニ於テ、熱帶林ハ臺灣ニ於テ、而シテ温帶林、特殊林業及「マツ」ニ關スル研究ハ不充分ナガラ朝鮮ニ於テ代行スル事ガ出來ル。勿論内地ノ寒帶ト樺太ノ寒帶トハ其趣全ク異リ彼此代用ヲ許サスモノデアルガ内地ニ適當ナル寒帶演習林ヲ有セザル間ハ蓋シ止ムヲ得ザル事デアラウ。而シテ之ハ臺灣、朝鮮等ニ就キテモ同様デアル。

各演習林ニハ夫々主任トシテ助手ヲ置キ(之ハ逐次助教授ヲ充ツル事トスバク目下計劃中)主任ハ若干ノ雇員ニ仕事ヲ分擔セシムルモ其演習林ニ於ケル總テノ事業ヲ實行スル。但特殊ノ事業ハ別ニ其ノ事業ニ限リテ主任ノ代行ヲ爲ス者ヲ置ク事ガアル。

以上ノ各演習林及試験地ヲ總括スル爲ニ大學内ニ演習林本部ヲ置ク。以下本部及各演習林ニ就キ順次記ス事トスル。

第二篇 演習林本部

第一章 職制ノ大要

各演習林ノ事業ヲ計劃シテ實行セシメ之ヲ監督スルハ林長ノ任デアルガ便宜學内ニ演習林本部ヲ置キ本部内ニ林務係、施業係、造林係、利用係、調査係ノ5係ヲ置キ、各係主任ハ成ルベク林學關係ノ教官ニ囑託シ専門ノ事項ヲ分掌スル。之等係ノ取扱フ事項次ノ如シ。

演習林本部處務内規 (昭和三年四月一日改正)

第一條 演習林本部ニ林務係、施業係、造林係、利用係及調査係ヲ置ク。

第二條 林務係ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル。

- 一、職員ノ進退、身分ニ關スル事項
- 二、文書ノ取扱ニ關スル事項
- 三、臺帳ニ關スル事項
- 四、演習林ノ管理ニ關スル事項
- 五、豫算、決算其他會計ニ關スル事項
- 六、國有財産及物品(林産物品ヲ除ク)ニ關スル事項
- 七、他ノ係ノ主掌ニ屬セザル事務上ノ事項

第三條 施業係ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル。

- 一、施業案ノ編成檢訂照査ニ關スル事項
- 二、毎年度施業計劃ニ關スル事項
- 三、演習林ノ各種ノ境界及測量ニ關スル事項

第四條 造林係ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル。

- 一、植生調査ニ關スル事項
- 二、造林ニ關スル事項
- 三、見本林ニ關スル事項
- 四、林地ノ利用ニ關スル事項

第五條 利用係ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル。

- 一、演習林ノ伐採ニ關スル事項
- 二、産物及製品ニ關スル事項
- 三、土木ニ關スル事項
- 四、建築ニ關スル事項

第六條 調査係ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル。

- 一、學生ノ演習ニ關スル事項
- 二、圖書及標本ニ關スル事項
- 三、統計ニ關スル事項
- 四、演習林報告、演習林概要、演習林月報等ノ編輯及出版ニ關スル事項
- 五、他ノ係ノ主掌ニ屬セザル事項

附 則

本内規ハ昭和二年十一月十五日ヨリ施行ス。

序ニ昭和三年九月末日現在演習林職員ヲ示セバ次ノ如シ。

演習林長 教授 市河三祿

演習林本部

林務係	囑託 中里正(主任)	書記 永上邦三郎(庶務)
	囑託 野間達志(會計)	囑託 河村禮吉(會計)
	雇 玉置巳之助(兼務)	雇 植野壽夫(物品)
施業係	助教授 太田宣孝(主任)	囑託 鈴木民作(測量)
	助手 上田弘一郎	囑託 吉川繁藏(兼務)
造林係	教授 佐藤彌太郎(主任)	助手 永松莞爾
利用係	囑託 中里正(主係兼務)	助手 豊田三郎
	助手 下平三雄(土木建築)	雇 玉置巳之助
調査係	教授 沼田大學(主任)	助手 尾中文彦(兼務)
	助手 原六郎(兼務)	囑託 山本吉之助
	雇 木下貞二	雇 小林輝子
樺太演習林	技手 坂勲(主任)	囑託 五味武雄(兼務)
	雇 欠員	雇 伊藤駒太郎
朝鮮演習林	技手 日比昌(主任)	雇 半田史郎
	雇 岩田矩男	雇 大槻福男
	雇 蘆米吉	雇 玉木一雄(馬川勤務)
臺灣演習林	技手 井上五四雄(主任)	雇 家入永年
	雇 市原彌勝	
芦生演習林	助手 翠末吉(主任心得)	雇 村上頼
	雇 藤原敏雄	
和歌山演習林	(造林係直屬トシ主任ヲ置カズ)	
本部試験地	助手 尾中文彦(主任)	雇 橋本英二
上賀茂試験地	助手 尾中文彦(主任兼務)	雇 小川彌
	雇 鹽小路彦一	

定夫以下及特殊ノ囑託ハ前表ニ於テ之ヲ省略シタ。

第二章 事業ノ大綱

演習林ノ事業ハ施業案ニ基キ之ヲ行フ。即チ施業係主任ハ當該演習林主任ト合議ノ上施業案原案ヲ編成シ之ヲ施業案會議ニ附議シテ決定スル、施業案ハ10年ヲ1期トスルガ故ニ精密ニ過グレバ實行上不都合ヲ生ジ易ク大體ノ指示ニ止ムレバ融通ガ利キ過ギテ弊害ヲ伴フヲ一般トスル。依リテ演習林ニ於テハ施業案ハ單ニ大綱ヲ示スニ止メ置キテ毎年之ニ準據シ更ニ精密ナル施業計劃ヲ樹立スル之亦特ニ其爲ニ開カル、會議ノ議題トシ決定ノ上ハ茲ニ其年度ノ事業豫定案ガ出來ル、此事業豫定案ニ從フテ各演習林主任ハ事業ヲ實行シ而シテ實行ノ結果ハ其都度施業時報トシテ、月別ニハ施業月報トシテ年別ニハ施業年報トシテ各演習林ヨリ本部ニ報告スル、本部ニ於テハ各係之ヲ照査シ施業係之ヲ集計シ爾後ノ施業ノ參考トモナリ又研究及演習ノ材料(或ハ結果)トモナル。研究ノ結果ハ調査係之ヲ輯成シテ演習林報告トシテ出版シ又ハ他ノ方法ニヨリ適宜之ヲ發表シテ林學林業ニ裨益スル事アラシムル様ニ心懸ケテ居ル。以上ハ極メテ概略ノ筋道デアアルガ詳細ハ下記ノ内規ヲ見レバ明白デアラウ。

演習林施業内規 (昭和三年四月一日改正)

- 第一章 總 則
- 第一條 演習林ノ施業ハ別ニ定メアルモノヲ除クノ外本内規ニ依リ之ヲ行フ
- 第二條 演習林ノ經營ハ學術ノ研究ニ資シ尙學生ノ演習ニ供スルヲ以テ目的トス
- 第二章 施 業 案
- 第三條 施業係主任ハ各演習林ニ就キ施業案ヲ編成シ十箇年毎ニ之ヲ檢訂ス、但シ豫期外ノ原因ニ由リ施業案ヲ修正スルノ必要ヲ生シタル場合ニハ臨時檢訂ヲ行フ
- 第四條 施業案ハ施業案査定會議ニ於テ決定ス
- 第五條 施業案査定會議ハ施業係主任、造林係主任、利用係主任、調査係主任及當該演習林主任ヲ以テ議員トシ林長議長トナル
- 第六條 施業案査定會議ニ於テ協議調ハサル事項ハ林長之ヲ決定ス
- 第三章 毎年度施業計劃
- 第七條 施業係主任ハ施業案ニ準據シ造林係主任、利用係主任及調査係主任ト合議ノ上毎年度施業計劃ヲ編成シ前年度十二月中ニ各演習林ニ通知ス
- 第八條 各演習林主任ハ施業計劃ニ準據シ演習林事業内規ニ基ク豫定案ヲ編成シ林長ニ提出スヘシ
- 第九條 豫定案ハ豫定案査定會議ニ於テ決定ス
- 第十條 豫定案査定會議ハ毎年四月之ヲ開キ本部各係主任、各演習林主任ヲ以テ議員トシ林長議長トナル
- 第十一條 豫定案査定會議ニ於テ協議調ハサル事項ハ林長之ヲ決定ス
- 第四章 施 業 照 査
- 第十二條 施業係主任ハ演習林事業内規所定ノ施業時報ニ基キ當時施業照査ヲ行フヲ要ス

造林及保護豫定案

番 號	種 別	事 業 區	林 小 班	當 初 實 行 年 月	樹 種	數 量	面 積 ha.	經 費				摘 要
								種 目	數 量	單 價	金 額	

利 用 豫 定 案

番 號	對 照 番 號	事 業 區	林 小 班	資 材				生 産 處 分				經 費				備 考		
				樹 種	材 種	材 積	單 價	價 額	種 類	處 分 點	數 量	單 價	價 額	摘 要	種 目		數 量	單 價

土 木 及 建 築 豫 定 案

番 號	事 業 區	名 稱	種 類	數 量		經 費				備 考	
				林 班	林 班 別 數 量	種 目	數 量	單 價	金 額		

演習林事業内規ニ基ク諸案簿表調製方法 (昭和三年五月二十六日決定)

1 豫 定 案 (事業内規第三條)

通 則

- 1 施業内規所定ノ番號毎ニ取經メ特別ノ場合ヲ除クノ外林班毎、箇所毎ニ一記入トナスベシ
- 2 記入毎ニ計、内規所定ノ番號毎ニ合計、最後ニ總計ヲ附スベシ
- 3 記入番號ハ内規所定ノ番號ノ末尾ニ附スベシ 之ヲ以テ豫定案番號トス
例ヘバ 11001, 11002,.....11010, 11011,.....11098, 11099.
21201, 21202,.....21210, 21211,.....21298, 21299.
21301, 21302,.....21310, 21311,.....21398, 21399.
等ノ如シ

- 4 記入番號ハ内規所定ノ番號毎ニ繰返スモノトス
前條ノ例ヲ參照スベシ
- 5 金額ハ總テ圓位、材積ハ立方米ニ止メ以下四捨五入スベシ、但シ之ガタメ不都合ヲ生ズル俱アル場合ハ適宜端數ヲ附スベシ

收 獲 豫 定 案

- 1 同一箇所ニ於テ二種以上ノ樹種ノ收穫ヲ豫定スル場合ハ樹種毎ニ計上スベシ
- 2 種別欄ニハ主産物ニアリテハ皆伐、擇伐、間伐等伐採方法ノ名稱ヲ記入シ副産物ニアリテハ記入セザルモノトス、副産物ノ種類ハ樹種欄ニ記入スベシ
- 3 關係番號欄ニハ關係豫定案ノ番號ヲ記入スベシ
例ヘバ收穫物ガ利用ノ資材ニ供セラルトキハ當該利用豫定案ノ番號ヲ記入スルモノトス
- 4 賣拂ノタメノ收穫ニアラザルモノ例ヘバ利用資材ノ如キモノハ價格ヲ朱書シ森林撫育其他必要ノタメ伐採スルモノニシテ特殊ナル理由例ヘバ搬出關係等ニヨリ價格ナキモノハ其價格ヲ零トシテ本豫定ニ計上スベシ
- 5 本數欄ハ標準地調査ニアリテハ記載ヲ要セズ
- 6 摘要欄ニハ地況、林況、既往ノ施業、材積並ニ單價調査方法、跡地ノ施業方法其他參考トナルベキ事項ヲ記入スベシ
林況ハ標準地調査ヲナセル場合ハ標準地面積、樹種別徑級別本數材積ヲ記載スベシ
- 7 摘要欄ニテ説明シ能ハザル事項ハ事業内規第三條ニヨリ説明書ニ記載スベシ

造 林 及 保 護 豫 定 案

- 1 苗圃ニアリテハ播種、一回床替、二回床替等床替年度ノ異ルモノ及苗圃雜費、造林ニアリテハ人工植栽、人工播種、林地直挿、下刈、蔓切、間伐等、保護ニアリテハ防火線新設修繕等作業ノ種別毎ニ更ニ記入番號ヲ附スベシ
- 2 種別欄ニハ上記作業名ヲ記入スベシ
- 3 當初實行年月欄ニハ苗圃床替ニアリテハ播種、更新ニアリテハ伐採、手入ニアリテハ更新ノ年月又ハ最近手入ノ年月、保護設備ノ修繕ニアリテハ新設年月ヲ記入スルモノトス
- 4 植栽用苗木ニシテ演習林養成ノモノハ朱書シ價格ハ費用價ヲ計上スベシ
- 5 摘要欄ニハ地況、林況、従來ノ施業經過、作業方法、功程、苗木種子ノ產地其他參考トナルベキ事項ヲ記入スベシ
- 6 説明書ニハ事業ノ方針、各事業間ノ連絡等ヲ説明シ尙摘要欄ニテ説明シ能ハザル事項其他參考トナルベキ事項ヲ記載スベシ

利 用 豫 定 案

- 1 對照番號欄ニハ生産ニアリテハ收穫又ハ最初ノ利用豫定案番號 (例ヘバ本年度椎茸ノ生産ヲ行フ場合其資材ハ一昨年度採セルモノナルトキハ伐採セルトキノ利用豫定案番號) 處分ニアリテハ生産ノ番號ヲ記入スルモノトス
- 2 生産價格ハ當該資材價、經費及共通費ノ按分額ノ合計トス、即チ生産ノ費用價ナリ
- 3 椎茸ノ栽培ニアリテハ椎茸栽培ノ終了ヲ以テ生産ノ終了トス
- 4 生産未了ノモノハ未了部ニ相當スル數量及費用價ヲ一記入ノ記事ノ最下欄ニ朱書シ翌年度ニ越スモノトス椎茸枡木ノ翌年度越ノ數量ハ枡木ノ材積、價格ハ椎茸ノ年度別收量豫想、枡木ノ腐敗程度等ヲ參酌シ適當ノ價格ヲ其年ノ生産費ニ計上シ殘額ヲ翌年度ニ越スモノトス
- 5 前年度ヨリ越ハ資材欄ニ墨書シ括弧ヲ附スベシ
- 6 摘要欄ニハ共通費、資材價ノ按分額其他ノ事項ヲ記載スベシ
- 7 備考欄ニハ實行方法、目的、諸因子算出ノ基礎其他參考トナルベキ事項ヲ記載スベシ
- 8 説明書ニハ起業ノ理由、事業ノ收支關係、備考欄ニテ説明シ能ハザル事項其他參考トナルベキ事項ヲ記載ス

ベシ

土木及建築豫定案

- 1 施業内規所定ノ番號毎ニ區分シ箇所毎、工事毎ニ一記入トナスベシ
- 2 名稱欄ニハ林道其他ノ工事又ハ建築物ノ名稱ヲ記入スベシ
- 3 種類欄ニハ工事ノ種類ヲ記入スベシ
- 4 數量欄中林班欄ニハ關係セル林班名ヲ數量欄ニハ其數量ヲ記入シ一記入毎ニ計ヲ附スベシ
- 5 金額ハ單價同一ナル場合ハ林班別、數量毎ニ記入スルヲ要セズ
- 6 備考欄ニハ目的、施工方法、功程等參考トナルベキ事項ヲ記載スベシ
- 7 複雑ナル工事ニアリテハ別ニ説明書ヲ作り仕様、經費明細、起工理由等ヲ説明スベシ

調査豫定案

- 1 本豫定案ニハ別ニ形式ヲ定メザルヲ以テ適宜調製スベシ

2 實行簿（事業内規第十三條）

收穫實行簿

- 1 本實行簿ハ搬出期間、跡地検査要領ヲモ記載スルモノナルヲ以テ一記入毎ニ相當ノ空行ヲ殘存シ後日ノ記載ニ便ナラシムベシ
- 2 處分月日番號欄ニハ賣拂ノ場合ノミナラズ利用資材トシテ拂出シタル場合決議ノ月日番號ヲモ記入スベシ
- 3 搬出延期ヲナシタル場合ハ搬出期間欄ニ追記シ許可年月日、番號ハ處分月日番號欄ニ記入スベシ
- 4 検査要領欄ニハ跡地ノ狀況及收穫豫定案摘要欄ニ記載セル事項ノ妥當ナルヤ否ヤヲモ検討シ其結果ヲ記載スベシ

造林及保護實行簿

- 1 豫算金額ハ最初ノ行殘額欄ニ記載シ置クベシ
- 2 無經費ニテ實行セル場合ト雖モ其ノ月日數量ヲ記載シ置クベシ
- 3 演習林本部拂ハ朱書スベシ
- 4 事業ヲ實行セル月ハ月計及累計ヲ附スベシ
- 5 備考欄ニハ事業着手終了月日、事業ノ經過等實行ニ關聯セル總テノ事項ヲ記載スベシ

利用實行簿

生産

- 1 豫算金額ハ最初ノ行殘額欄ニ記載シ置クベシ
- 2 生産欄ニハ生産終了ト同時ニ記入スベシ
但シ生産終了トハ豫定案所定ノ數量全部ノ生産ヲ終了セル場合ノミノ謂ニアラズ
- 3 生産價格ハ豫定案ニ於ケル場合ト同様ニ算出シ未確定ナル場合ハ見込ヲ以テ計上シ實行完了ト共ニ生産價格計ノ各種經費ノ計ト同額ナラシムベシ
但シ共通費ニシテ其ノ性質上全記入ヲ完了スルニアラザレバ之レヲ各記入ニ配算シ得ザル場合ハ暫ク配算ヲ見合せ完了ト共ニ配算シ生産欄最下行ニ記入シ計ヲナスベシ
- 4 經費欄ニハ支拂部度記入シ摘要欄ニハ其使途(例ヘバ伐採、搬出、堆草乾燥等)ヲ記入スベシ
- 5 無經費ニテ實行セル場合ト雖モ月日、數量ヲ記載シ置クベシ
- 6 演習林本部拂ハ朱書スベシ
- 7 事業ヲ實行セル月ハ月計及累計ヲナスベシ
- 8 生産未了ハ未了部分ヲ生産欄ニ朱書スベシ、算出方法ハ豫定案ニ準ズ
- 9 備考欄ニハ着手終了年月日、事業ノ經過等實行ニ關聯セル總テノ事項ヲ記載スベシ

處分

- 10 受入欄ハ生産終了シ受入決議ノ都度貯藏所毎ニ記入スベシ

- 11 受入價格ハ生産實行簿生産價格ニヨルモノトス
- 12 前年度ヨリノ越製品ハ受入欄ニ括弧ヲ附シ記入スベシ
- 13 受入摘要欄ニハ生産豫定案番號、受入品ノ品質等ヲ記入スベシ
- 14 拂出ハ處分決議ノ都度記入スベシ
- 15 事業ヲ實行セル月ハ月計及累計ヲナスベシ
- 16 保管轉換ノ場合ハ處分欄ニ朱書スベシ

共通又ハ處分經費

- 17 豫算金額ハ最初ノ行殘額欄ニ記載シ置クベシ
- 18 支拂ノ都度記入スベシ
- 19 演習林本部拂ハ朱書スベシ
- 20 事業ヲ實行セル月ハ月計及累計ヲナスベシ

土木及建築實行簿

- 1 豫算金額ハ最初ノ行殘額欄ニ記入シ置クベシ
- 2 支拂ノ都度記入スベシ
- 3 無經費實行ノ場合ト雖モ記入ヲ要ス
- 4 演習林本部拂ハ朱書スベシ
- 5 事業ガ數箇林班ニ亘ル場合ハ終了後備考欄ニ林班別數量(例ヘバ道路ノ如キハ林班別延長等)ヲ記載スベシ
- 6 事業ヲ實行セル月ハ月計及累計ヲナスベシ

調査實行簿

別ニ様式ヲ定メザルヲ以テ適宜調製シ隨時豫定案トノ對照ニ便ナラシムベシ

3 施業時報（時業内規第十四條）

No.

林班	番號	原當	受	發
			年	年
			月	月
			日	日
備考				

- 1 施業時報ハ本部施業係ニ提出スベシ
- 2 施業時報ハ林班別、事項別ニ之ヲナスベシ
- 3 二個以上ノ林班ニ亘リ發生シタル事項ハ各林班別ニ報告シ備考欄ニ其旨記入スベシ
- 4 報告スベキ事項ハ演習林ニ於テ施業セル總テノ事項ノ外ニ尙林内ニ於テ自然的ニ又ハ人爲的ニ發生シタル事項ノ殆ド總テニツキ特ニ調査シタル場合ハ勿論偶然知リ得タル事項ト雖モ之ヲ報告スベシ
- 5 報告ハ事件發生ノ都度即報スルヲ要ス、數日ニ亘ル場合ハ着手並ニ終了ト同時ニ報告シ長期間繼續スル場合ハ一段落毎ニ又ハ少クトモ一週間毎ニ取纏メ報告スルモ不可ナケレドモ成ルベクハ毎日報告スルヲ可トス
- 6 微細ナル事項モ漏ササルヲ要スルガ故ニ報告ノ要ノ有無ヲ判断スル前ニ寧ロ報告スルヲ可トス

- 7 報告ハ施業係ニ於テ整理スルモノナルガ故ニ記入ニ遺漏又ハ過誤アリタル場合ハ後ニ追加訂正報告ヲナセバ可ナリ、要ハ報告ノ手續ヲナルベク簡單トシ以テ出來ルダケ容易ニ出來ルダケ多クノ事項ニツキ細大漏ナキ報告ヲナスヲ要ス
- 8 施業時報ノ事項ト同一事項ヲ別途報告スル場合ニ於テ兩者ノ辻褄ヲ合ハスタメ特ニ工夫スベカラズ
- 9 請頁ニヨル事業ト雖モ報告スルヲ要ス
- 10 必要トスル場合ニハ圖面ヲ添付スベシ(成ルベク林業圖ヲ用フルコト)
- 11 標本ニヨリ説明ヲ要スル場合ハ施業時報ト共ニ標本ヲ送付シ其旨備考欄ニ記入スベシ
- 12 記入ニ關スル注意事項下ノ如シ
 - a 林班欄ニハ事業區及林班番號ヲ記入スベシ
 - b 番號欄「原」「當」ニハ各原豫定案及當年度豫定案番號ヲ記入スベシ、但シ「原」番號記入ハ省クコトヲ得豫定案以外ノ事項ハ本欄抹消スベシ
 - c 番號ノ右空欄ハ本部施業係ニ於テ演習林名ヲ記入ス
 - d 發欄ノ年月日ハ各演習林ニ於テ受欄ハ施業係ニ於テ記入スルモノトス
 - e 報告ハナルベク監督者、發見者又ハ調査者之ヲ行ヒ右下隅ノ空欄ニ捺印シ各地演習林主任ハ其上欄ニ捺印スベシ 其左欄即受欄ノ下ハ本部施業係ニ於テ捺印ス
 - f 記事欄ニ於テハ事件ノ内容ヲ説明シ
 - イ 豫定案ノ實行ハ實行年月日、數量、使役人夫數、作業方法ノ簡單ナル説明其他參考事項ヲ
 - ロ 被害ノ場合ハ種類、發見月日、發生終了日時、面積、被害物件ノ種類、數量、被害價格、處理經過並ニ善後策等
 - ハ 學術上其他參考トナルベキ各種ノ事項ニツキテハ發生、發見ノ日時ヲモ記入スベシ
- 13 詳細ナル説明ヲ要スル場合ハ更ニ別途報告シ其旨備考欄ニ記載スベシ

4 施業月報 (事業内規第十五條)
(様式) 美濃紙

收穫施業月報		月分		發 演第 號		昭和 年 月 日		
				受 演施第 號		昭和 年 月 日		
豫定案番號	種別	終手月日	本月實行濟			實行濟累計		備 考
			林小班	面積	數量	價格	數量	

施業月報 月分

發 演第 號		昭和 年 月 日						
受 演施第 號		昭和 年 月 日						
豫定案番號	種別	着手月日	本月實行濟			實行濟累計		備 考
			林小班	數量	使役人夫數 男 女	經費	數量	

- 1 施業月報ハ收穫、造林及保護、利用、土木及建築、調査ノ各事業別ニ取調メ翌月十日迄ニ報告スベシ
- 2 林小班欄ニハ事業區、林小班番號ヲ記入スベシ
- 3 其月實行濟ナルモ數量、經費未確定ノモノハ見込ヲ以テ計上シ其旨備考欄ニ記入スベシ
- 4 上記見込額ガ精算ト誤差ヲ生ジタル場合ハ發見セル月ノ月報累計欄ヲ訂正シ其旨備考欄ニ説明スベシ
- 5 累計ハ一番號毎ニ行フベシ
- 6 同一番號中種類ノ異ルモノハ各別ニ記入シ一番號毎ニ計ヲ附スベシ
- 7 收穫豫定案ニ屬スル事項ハ賣拂完了、利用資材又ハ造林保護其他ノ資材トシテ伐採セルトキ報告スルモノトス 搬出期限ハ備考欄ニ記入スベシ
- 8 數量欄ニハ面積、材積、延長、重量等ノ内其主ナル數量ヲ記載スベシ 但シ併記スルモ妨グズ
- 9 請頁ニヨル事業ハ經費ノ記載ヲ要セズ 但シ請頁ニ付シタル月ノ月報ニハ經費ノ記載ヲ要ス
- 10 伐採跡地檢査ハ所屬豫定案番號、搬出期限、檢査年月日、檢査要領、檢査者名ヲ適宜收穫施業月報ノ末尾ニ記載スベシ
- 11 數字ニテ記載困難ナルモノハ記事ヲ以テ當該施業月報ノ末尾ニ於テ説明スベシ

5 施業年報 (事業内規第十六條)

- 1 施業年報ハ翌年度六月三十日迄ニ報告スベシ
- 2 様式ハ豫定案ト同一ニシ實行ノ總括ヲナシ豫定案トノ對照ニ便ナラシムベシ
- 3 經費ノ流用ハ備考欄ニテ説明スベシ
- 4 施業ノ成績ニ鑑ミ將來ノ施業ニ對スル意見ヲ添付スベシ

第三章 基本的諸調査

以上ハ大體ニ亙リテノ事デアルガ以下各種事項ニツキ順次ニ示ス、事業ノ根本ヲ爲スモノハ測量

テアル、境界査定、面積測量ハ實ニ基本的必要性ヲ有ツ、從來ハ不完全ナル方法ニヨリ大體ヲ概測スルカ又ハ必要ナル部分ヨリ逐次測量ヲ實行シ來リタルモ既ニ根本的精測ノ必要ヲ認ムルニ至リタルヲ以テ昭和3年度ヨリ測量ノ専門家ヨリ成ル測量班ヲ編成シ先ヅ若生演習林ヨリ着手シタ、陸地測量部三角點ノ使用許可ヲ受ケ三角測量ヨリ始メタルヲ以テ若生演習林ノ基本圖ノミニ2ヶ年ヲ要スベク逐次他ノ演習林ニ移ル豫定ナルヲ以テ現在ノ計劃ニ於テハ誠ニ前途遼遠ナルヲ恐レテ居ル。測量ニ關スル假規程ハ次ノ如シ。

演習林測量及製圖假規程 (昭和三年五月一日決定)

第一章 標 識

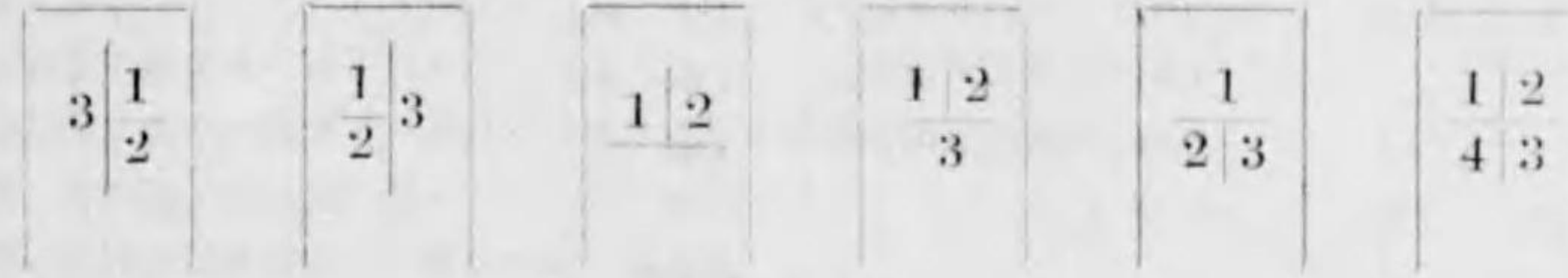
- 1 界標ハ石標(コンクリートヲ以テ代用スルコトヲ得)、固着岩石標及木標トス
- 2 石標ハ十二極角、長七十五極トシ上部約五分ノ一ヲ平削シ以下ハ約十五極角荒削リトス 其頂面ハ平削シテ對角線形ヲ藥研彫トナス
- 3 固着岩石標ハ移動ノ虞ナキ固着岩石ヲ撰ビ約十二極角ニ對角線ヲ刻ス 石標ヨリ大型ナル天然石ヲ以テ固着岩石標ニ代用スルコトヲ得
- 4 木標ハ大小二種トシ大型ノモノハ十極角ニシテ長七十五極トス 小型ノモノハ六極角ニシテ長七十五極トシ何レモ上部三分ノ一ニ白ペンキヲ塗抹ス 但シ長サハ地質ニ依リ多少ノ増減アルモ差支ヘナシ
- 5 演習林界ノ標識ハ主トシテ大型ノモノヲ用フ 但シ山脊ノ如キ天然界ハ小型ノモノヲ以テ代用スルコトヲ得 尙河川界ニシテ岩石地ナルトキハ露出岩ニペンキヲ以テ單ニ又形ヲ施スモ差支ナシ
- 6 林班界ノ標識ハ主トシテ小型ノモノヲ用フ 但シ林班ノ分歧點ノ如キ主要點ニハ特ニ大型ノモノヲ用フベシ
- 7 凡ソ標識ハ石標ニアリテハ頂部對角線ノ交叉點ヲ以テ木標ニアリテハ中央ニ鐵釘ヲ打込ミテ點位トス
- 8 主要點ノ隣接點ニハ必ズ主要點ト同大ノ標識ヲ用フベシ 但シ隣接點ガ二十米以內ニ在ルトキハ更ニ次點以下ニ及ブベシ
- 9 石標ハ十五極、木標ハ二十五極ヲ地上ニ露出セシメ埋設ニ際シテハ其移動ヲ防グタメ緊着ヲ嚴ニスベシ
- 10 主要點ニシテ界標ヲ設置シ能ハザルカ或ハ標識ノ所在ヲ明カナラシムル要アル場合ニハ適當ノ距離ニ指導標ヲ設置シ以テ界標搜出ノ便ニ供スベシ
- 11 指導標ノ形狀大小等ハ界標ニ準ズベシ 但シ立木又ハ塚ヲ以テ代用スルコトヲ得

第二章 番 號

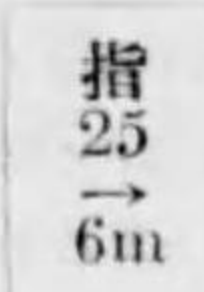
- 12 凡ソ界點ニハ總テ番號ヲ附スベシ
- 13 番號ハ顯著ナル地形若クハ林班界ノ分歧點ノ如キ位置ヲ選ビテ一號トシ其地ニ向ヒテ左方ヨリ右方ヘ附ス 既ニ番號ノアルモノニ對シテハ其部分ヲ飛番號トシ原番號ヲ襲用スベシ 但シ帳簿ニハ林班番號ヲ原番號ニ附記スベシ
- 14 番號ノ數千位以上ニ上ル見込トキハ適宜ニ分割シテ甲、乙、丙……ヲ用ヒテ冠字トシ更ニ一號ヲ附スベシ 但シ帳簿上ニハ冠字ヲ附スルモ實地界標ニハ便宜省略スルヲ得
- 15 番號ハ黑「ペンキ」ヲ用ヒ「アラビヤ」數字ヲ以テ番號ノ若キ方ニ向ヘル側面ヘ認ムベシ 其様式次ノ如シ 但シ十位迄ハ堅書トシ百位ハ横書トスベシ



16 林班界ノ分歧界標ニハ各方面ノ林班番號ヲ記載スベシ其様式次ノ如シ



- 17 演習林界標ニハ更ニ外面ニ「大」字ヲ記入スベシ
- 18 指導標ニハ次ノ様式ニ從ヒ指導スベキ測點ノ番號ヲ記入シ該點ノ位置ヲ示スタメ 矢印(→)及本標ヨリノ距離ヲ記入スベシ



第三章 測 量

- 19 測點ニ使用スル標識ニシテ保存ノ要アリト認ムルモノハ其大小、形狀等ハ界標識ニ準ジテ設置スベシ
- 20 測點ノ番號ハ界標番號ヲ襲用シ然ラザル場合ハa, b, c……ヲ用ヒ界番號ヲ冠セシムベシ
1a 2a 2b 2c……
- 21 同一界點ヨリニツ以上ノ測點ヲ生ジタルトキハ 2a' 2b'……或ハ 2a'' 2b''……ヲ用ヒ測量系統ノ紛亂ヲ避クベシ
- 22 界點ノ位置ヲ決定スルニハ縱横距離ヲ以テスベシ
- 23 各演習林ノ縱横距離點ハ林長ノ指定ス
- 24 陸地測量部若クハ他ノ精確ナル測量ノ成果ハ演習林測量原點ニ換算スベシ 其算式ハ別ニ之ヲ例示ス
- 25 各演習林ノ方位角ハ原點ヲ通過スル子午線トス
- 26 方位角ハ陸地測量部及其他ノ三角點ノアル箇所ニ於テハ其成果ヲ襲用シテ眞方位ヲ用ヒ且適當ノ箇所ニ於テ二乃至三點ノ磁針偏差ヲ觀測シ置クベシ
- 27 眞方位ナキ場合若クハ獨立小測量ニハ磁針方位ヲ用フルコトヲ得
- 28 演習林界及林班界ノ角度ノ測定ハ夾角測量トシ其以下ノ測量ハ方位角測量トスルコトヲ得
- 29 距離ノ測定ハ「スタヂヤ」測量ニ據ルヲ原則トシ尙必要ニ應ジテ傾斜距離ノ測量ヲ行フベシ
- 30 凡ソ測量ハ誤差ヲ發見シ得ル様ニ立案計劃スベシ
- 31 演習林界及林班界測量ニ於テハ必ズ正反兩位ノ觀測ヲナスベシ
- 32 方位角測量ニ於テハ特ニ機械ノ整齊ヲ勵行シ毎日第一點ニ於テ必ズ精査スルヲ要ス
- 33 「スタヂヤ」測量ノ乘定數ハ面積ニ於テ至大ナル影響ヲ及ボスカ故ニ測者自ラ充分ノ精査ヲナスベシ
- 34 陸地測量部其他信據スベキ三角點ハ成ルベク襲用シ尙必要ノ場合ハ補足トシテ三角點ヲ設定スベシ之ヲ次三角點ト稱ス
- 35 次三角點ハ簡易三角計算ニ據ルベシ 計算例ハ別ニ之ヲ例示ス
- 36 次三角點ノ名稱ハ界點番號若クハ之ニA, B, C, ヲ加ヘテ用フ
- 37 演習林界及林班界測量ニハ成ルベク約五十點内外ニ於テ誤差ノ照査ヲ行フヲ要ス
- 38 前項五十點内外ニ於テ誤差ヲ行フ能ハザル場合ト雖モ角度ノミニ照査ヲ行フヲ要ス
- 39 夾角若クハ方位角ニ於ケル誤差式ハ次ノ如シ

免 諒 限 界 $1.5 \sqrt{n}$ (平地)
 $2 \sqrt{n}$ (險地)

誤 差
 角 和 $-(n\pi + 2\pi)$ (外角)
 角 和 $-(n\pi - 2\pi)$ (内角)
 $n = \text{角 數}$

40 縦横距離=於ケル誤差式ハ次ノ如シ

免 諒 限 界 $0.01\sqrt{4(S)+0.005(S)^2}$ (平 地)

$0.01\sqrt{6(S)+0.0075(S)^2}$ (山 地)

$0.01\sqrt{8(S)+0.01(S)^2}$ (峻 地)

誤 差 $\sqrt{x^2+y^2}$

S = 總距離

- 41 既則ノ林班測量ノ成果數=結合シテ誤差ガ超過スル場合ハ既測觀測件ヲ製用シテ新タニ計算スルヲ得而シテ尙誤差過大ナル場合ハ改測ヲナスベシ
- 42 演習林界及林班界測量ノ成果ハ成ルベク製用スル=勉ムベシ
- 43 林班界以下ノ測量モ成ルベク其測地ノ位置ヲ明カナラシムル爲メ前測既定點=結合スルコト=勉ムベシ
- 44 演習林界及林班界測量=際シテハ其界線ノ左右約五十米以上ノ地形ヲ見取測量シテ地形圖製作製ノ便=供スベシ
- 45 林班界測量=於テハ携帶見取圖板ヲ用ヒ前項ノ地形ヲ薄美濃紙上ニ見取スルコトヲ得但シ見取圖=用フル境界線ハ次ノ記號ヲ用フ



- 46 見取圖ノ縮尺ハ二千分ノ一トス
- 47 見取地形ヲ表ハスニハ等高線式ヲ用フ 但シ等高線ハ必シモ接合ヲ要セズ
- 48 地形見取圖ニハ顯著ナル樹木、岩石若クハ林相ヲ記入シ置クヲ要ス
- 49 測量觀測件ハ黒「インキ」ヲ用ヒ誤測訂正ノ場合ハ赤「インキ」ヲ以テ黒書ヲ消シ更ニ其上ニ黒書スベシ
- 50 前項ハ林班測量以下ニ於テハ鉛筆ニ代フルヲ得
- 51 測量手簿ハ別ニ定ムル様式ニ據ルモ林班界以下ノ測量ニ於テハ便宜ノ手簿ヲ使用スルコトヲ得
- 52 凡ソ測量手簿ハ精粗ノ奈何ヲ問ハズ永久ニ保存スベキモノトス

第四章 計 算

- 53 凡ソ數字ハ眞數ハ「コムマ」ヲ用ヒ對數ニハ「ピリオッド」ヲ用ヒ三位ヲ以テ分列スベシ
 - 54 演習林界及林班界測量ニ於ケル觀測秒數ハ十分ノ一分ヲ以テ表記スベシ
 - 55 三角點ノ成果換算ニハ七位對數表ヲ用フベシ
 - 56 演習林ノ三角測量計算ニハ六位對數表ヲ用フベシ
 - 57 縦横距ノ計算例ハ別ニ之ヲ例示ス
 - 58 水平、高程、距離ハ米ヲ單位トシ小數二位迄トシ以下中數ニ於テハ第二位ノ數ガ偶數タルベク取捨スベシ
- 例ヘバ 12.3450 ハ 12.34
- 12.3350 ハ 12.34
- 12.3451 ハ 12.35
- 12.3449 ハ 12.34 ノ如シ

- 59 演習林界及林班界ノ面積計算ハ縦横距ノ成果數=基キテ別ニ定ムル計算表ニ據リテ算定スベシ 其以下ノ測量ニ於テモ成ルベク計算表ヲ使用スベシ 計算例ハ別ニ例示ス
- 60 演習林界及林班界測量ニハ高程數ヲ算出スベシ
- 61 高程ハ標識ノ頂部釘頭トス

第五章 製 圖

- 62 演習林ノ圖面ハ基本圖、林業圖、林相圖及地形圖トス

- 63 基本圖ハ縮尺二千分ノ一若クハ五千分ノ一トス
- 64 基本圖ノ圖幅ハ次ノ大サトス(略)
- 65 基本圖未製ノ場合ニハ林業圖ヲ以テ代用ス
- 66 林業圖及地形圖ハ一萬分ノ一若クハ二萬分ノ一ノ縮尺トス
- 67 林業圖、林相圖、地形圖ハ成ルベク一枚ニ製圖スベシ
- 68 基本圖ハ縦横距離ヲ計點シテ點位ヲ定ムベシ
- 69 凡ソ圖面ニハ經緯度數ヲ記入スベシ
- 70 製圖記號ハ凡テ演習林圖式ニ據ルモ尙不足ノ場合ハ陸地測量部地形圖々式ヲ參考シテ適宜記入スベシ
- 71 等高線ハ二千分ノ一圖ニアリテハ五米、五千分ノ一圖ニアリテハ十米毎ニ記入スベシ

第六章 整 理

- 72 整理ノ順序ハ凡ソ次ノ如シ
 - A 說 明 書
 - イ、地勢 ロ、地形 ハ、林相 ニ、交通 ホ、經費ノ精算 ヘ、使用人夫内譯表 ト、天候 チ、測量點數 リ、水平距離ノ總和 ス、測器ノ種類 ル、測器ノ價值
 - 等荷モ將來事業ノ參考トナルベキ事項
 - B 陸地測量部其他成果表及換算表
 - C 三角測量手簿及計算表
 - D 「スタヂヤ」乘定數檢査表
 - E 多角測量手簿附見取圖及測系圖添付
 - F 縦横距離算定表附高程ノ計算
 - G 面積ノ計算表及計算系圖添付
 - H 略圖 卷首ニ添付
- 以上ハ總テ追頁ヲ附シテ整頓スベシ
- 73 以上整理シタルモノヲ本簿トシ別ニ寫ヲ作リテ副本トシ關係演習林ニ備付ケ製用ノ便ニ供スベシ

第七章 標識ノ管理及保護

- 74 事業ニ際シ標識破損ノ虞アル場合ハ適當ノ保護ヲナスベシ
- 75 獸害其他ノ爲メ標識ノ毀損ヲ發見シタルトキハ適當ノ修理ヲ爲スベシ
- 76 記載番號等ノ剝脫シタルヲ發見シタルトキハ適當ノ修理ヲ爲スベシ
- 77 前項ノ破損、修理等ノ事項ハ遲滞ナク報告スベシ
- 78 各種ノ報告ヲナスニ際シ附近ニ界標アル場合ハ成ルベク界番號ヲ記載スベシ

附 言

測量法式、計算法式、製圖法式ハ別ニ例示ス
 製圖ニ關スル圖式ノ一部ハ附圖トシテ添付シテアル

次ニ基礎的調査トシテハ植生調査ガアル、之亦從來ハ所謂林況調査ト稱シテ主タル林木ノ本數、材積、年齡、生長等ヲ調査スルニ止マリタルモ此程度ノ調査ヲ以テシテハ到底大學演習林施業ノ基本ト爲スニ足リス、依リテ農學部創立以來各演習林ニツキ植生調査ヲ開始シタノデアルガ此種調査ハ完了ト云フ時ガ無イ、依リテ大體ノ結果ヲ順次發表スルノ方針ヲ執リ若生及樺太ニ關シテハ本年度中ニ出版スル豫定デアリ即若生ノ分ハ印刷中ニ屬シ樺太ノ分ハ編輯中ニ屬スル。

氣象其他ノ基礎的の必要ヲ有スル調査亦古クヨリ實行シテ居ルガ漸次觀測ヲ増加シ或ハ方法ヲ進歩

セシメツ、アルヲ以テ統計的ニ示スニ困難ヲ伴フガ大體ニ關シテハ後ニ夫々各演習林ニツキ記載スルデアラウ。氣象觀測ニ關スル規程ヲ次ニ示ス。

氣象觀測法並ニ氣象月報記載方 (昭和三年九月二十八日改正)

第一章 氣象觀測法

- 1 各演習林ハ特ニ定ムル場合ノ外次ノ事項ニ亙リテ氣象ノ觀測ヲ行フベシ
氣溫、濕度、地溫、降水量、雲量、積雪量、風向及風速、天氣、雜象、季節
- 2 觀測時及回数 特ニ定ムル場合ノ外一日一回午前十時トス
- 3 氣溫 百葉箱内ニ於ケル寒暖計ヲ讀ミトルベシ
(注意)
イ 日盛ハ度ノ十分ノ一迄讀ミトルベシ
ロ 眼ト水銀線ノ頭トヲ連ヌル直線ガ寒暖計ノ細管ニ直角ナル様ニスベシ
ハ 顔面其他ノモノヲ近ヅケザル様手早く讀ムベシ
ニ 最高、最低寒暖計ニテ示針ヲ用ヒシモノハ示針ノ上下ヲ誤ラザル様注意スベシ 且復度モ忘ラズ記帳シオクベシ
- 4 濕度 百葉箱内ノ乾濕計ノ示度ヨリ濕度表ニテ檢索スベシ
(注意)
イ 濕球水結スル時季ニアリテハ絲ヲ取り除キオキ觀測時約十分前水又ハ微温湯ニテ輕ク球ヲ潤シ表面薄水ヲ以テ覆ハレ示度定マルニ及ビテ讀ミトルベシ
ロ 零度以下ニテ濕球ノ水結セザル時輕ク扇ゲバ水結ヲ初ム 而シテ白色ヲ帶ビ溫度降リ示度定ムルニ至リテ讀ミトルベシ
ハ 濕球ノ示度乾球ノソレヨリ高キトキハ乾球ノ示度ヲ正シトシ濕球ハ之ニ等シト見做ス
ニ 濕球水結セル時ハ野帖ニ其ノ旨記入シオクベシ 之檢索表ヲ異ニスルヲ以テナリ
寒地等ニテ乾濕計ノ使用不便ナル場合ハ毛髮濕度計ニヨルモ妨ゲズ
- 5 地溫 地中寒暖計ノ球部ノ深サヲ正シク所期ノ深サヲラシメ其ノ讀ミトリハ特ニ迅速ナルヲ要ス
- 6 降水量 雨量計ヲ用フ
(注意)
イ 硝子樽ニテ雨水ヲ測ル時雨水ノ面ヲ丁度眼ノ高サニオキ其ノ面ノ最低キ部分ニ相當スル日盛ヲ讀ミトルベシ
ロ 雪、雹、霰等ノ受水器中ニ積レル時ハ既知容量ノ温湯ヲ以テ之ヲトカシ後其量ヲ減ズベシ
ハ 多雪ノ地方ニテハ便宜上直徑二十釐、高サ四十釐ノ圓筒ヲ吹雪ノ吹キ込マザル様適當ナル臺上ニオキテ測定スベク且其ノ量ハ重量ニテ測定スルモ可ナリ
- 7 雲量 雲ニ覆ハレタル天空ノ割合ヲ言フ 滿天雲ヲ布ク時ヲ10トシ雲ノ濃淡ニ關セズ、雲量ノ測定ハ全天ヲ四象限ニ分チ各々ニ就キ目算シテ之ヲ平均スルヲ便トス
- 8 積雪量 一般ニ十時ニオケル積雪ノ深サヲ以テアラハス、降雪ノ量ト混同スベカラズ、降雪少ク十時ニ於テ積雪ヲ見ル事稀ナル場合ハ一日中最深ヲ其ノ時刻ト共ニ記入スベシ
積雪多キ地方ニテハ豫メ日盛ヲナセル木桿ヲ適當ノ所ニ立テオクヲ便トス、雪面ハナルベク平ラカナル所タルヲ要ス
- 9 風向及風速 風向ハ風ノ來ル方向ヲ言フ、風信器ヲ用ヒテ其方向ヲ北(N)、東北(NE)、東(E)、東南(SE)、南(S)、南西(SW)、西(W)、西北(NW)ノ八方向ニ分ツベシ、風速ハ風力計ヲ具ヘザル場合ハ便宜上ノ解説ニ從ヒ七風級ニ分テ觀測スベシ

風級	名稱	記號	解説	相當風速(米/秒)
0	靜穩	0	煙直上ス	0-1.5
1	軟風	/	風アルヲ感ズ	1.5-3.5
2	和風	/	樹ノ葉動ク	3.5-6.0
3	疾風	/	樹ノ枝動ク	6.0-10.0
4	強風	/	樹ノ大枝動ク	10.0-15.0
5	烈風	/	樹ノ幹動ク	15.0-29.0
6	颯風	/	樹ヲ折り抜き家ヲ倒ス	29.0-

何レモ其ノ時刻ノ大勢ニヨリテ記入スベシ

- 10 天氣 全日中ノ氣象狀態ヨリ概括シテ次ノ如ク天氣ヲ分ツ
イ 雲量ニ依ル場合 全日平均雲量ニ以下ナルヲ快晴(○)、八以上ナル時ヲ曇(◎)、其他ヲ晴(⊙)トス、日照降水ノ有無ニ關係ナシ
ロ 降水ノ種類ニ依ル場合 全日中降雨勝ナルトキハ雨(●)、降雪多キ時ハ雪(⊖)、霧多キ時ハ霧(⊙)、可ナリ強キ雷雨アル時ハ(⊚)
- 11 雜象 主トシテ次ノ項目ニ就テ全日ニ亙リ觀測シ特ニ記スモノノ外多少ニ拘ラズ記入スルヲ要ス
イ 雨(●)
ロ 雪(×)
ハ 霰(△)
ニ 雹(▲)
ホ 霜(⊖)
ヘ 露(⊙) 微弱ナルモノヲ除ク
ト 霧(⊙) 百米以上ノ地點ヲ望見シ得ル程度ノモノヲ除ク、便宜百米附近ノ地點ノ建物、樹木等ヲ以テ標準トセバ便ナラン
チ 霜柱(⊖)
リ 水結(⊖)
ヌ 吹雪(⊖) 地上ノ雪ガ風ニ卷キ上ゲラル、風雪ト混同スベカラズ
ル 暴風(⊖) 強風以上ヲ言フ
ヲ 電雷(⊖) 遠雷ニシテ降雨ヲ伴ハザルモノヲ除ク
ワ 地震(⊖)
以上ノ外雨水(〜)、霧水(V)等林業上其他興味アル事項ハ報告スルヲ可トス
- 2 季節 特ニ定ムルモノノ外次ノ事項ヲ觀測シオクベシ
イ 初霜、初氷、初雪及初霜柱
ロ 望ミ得ル地點例ヘバ高山等ニオケル初雪
ハ 流水ノ去來
ニ 初燕、初蟬等動物季節
ホ 開花、萌芽等植物季節
上記ノ中(ロ)(ニ)(ホ)等ハ各演習林ニテ適宜ノモノヲ選ビ毎年同一ノモノニ付觀測ヲ繼續スベシ

第二章 氣象月報記載方

- 1 一般注意
イ 時刻ハ24時制ヲ用ヒ常用時ノ午前零時ヲ0時トシ午後一時ヲ13時トス
ロ 風向、風速、天氣、雜象等ノ記載ハスベテ記號ヲ用フベシ
ハ > > ノ記號ハ次例ニヨリ用フベシ

>25ハ25ヨリ上ニシテ25ヲ含マズ

≥25ハ25ヲ含ミ夫レ以上ヲ指ス

= 氷點以下ノ溫度ハ100ヲ加ヘテ記スベシ

例ヘバ(-1.5)ハ(98.5)トスルガ如シ

ホ 缺測ニハ斜線、事項ナキ時ハ横線ヲ入レ混同ヲ避クベシ

2 氣溫欄

イ 平均 乾濕計ノ乾球溫度ヲ記入ス

ロ 最高及最低 最高ヲ前日ノ欄ニ最低ヲ當日ノ欄ニ記入ス、之最高ハ普通14時即午後二時頃來リ最低ハ日出前ニアルヲ以テナリ

ハ 較差 前項最高最低ノ差ヲ記入ス

3 濕度欄 關係濕度ヲ記入ス、濕度表檢索ニ當リテ濕球示度ノ十分數ハ四捨五入スベシ、且濕球ノ氷結セル場合トセザル場合ノ表ヲ混同スベカラズ

4 地溫欄 地溫ハ前述氣溫ト共ニ攝氏ノ度ヲ以テ表スベシ

5 降水量欄 當日ノ觀測値ヲ前日ノ欄ニ記入ス、之主トシテ前日ノ降水量ナルベキヲ以テナリ
降水量アルモ0.1耗ニ達セザル時ハ0.0ト記入ス、但シ露、霧、霜ノミニヨル降水量ハ0.1耗以上ニ達スル場合ノミ本欄ニ記入シ且其ノ記號ヲ併記スベシ

6 雲量欄 0-10ノ數字ヲ以テ記入スベシ

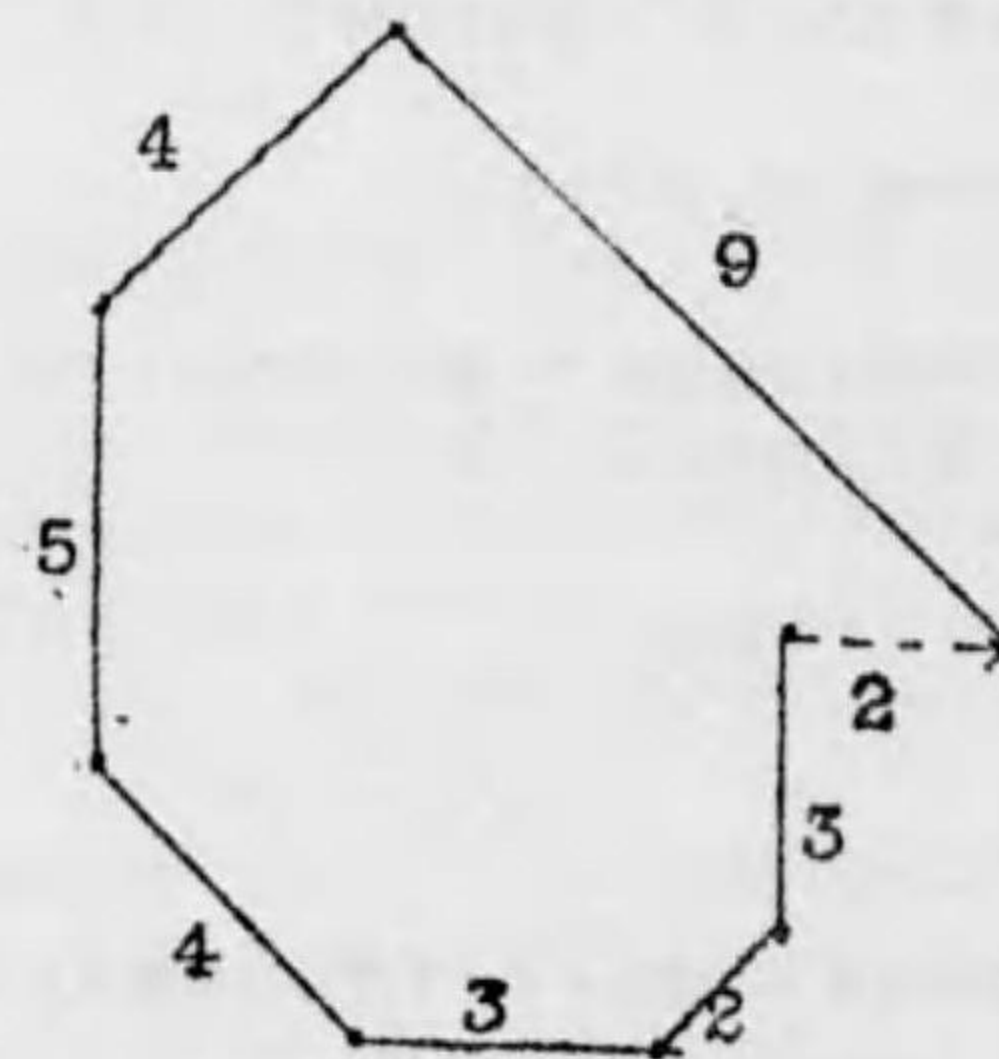
7 積雪量欄 米單位ニテ百分ノ一迄記入スベシ

8 雜象欄 本欄ヲ更ニ風向及風速、天氣、降水量ノ種類、雜象ノ四欄ニ分ツ

イ 風向及風速 風向ヲアラハスニ圖上ニオケル矢ノ方向ヲ以テスベシ、即北ハミ、北東ハヅ、東ハートスルガ如シ

平均風向ハ圖法ニテ風級1以上ノ回數ニヨリテ求ムベシ、即圖ノ如ク回數ヲ直線ノ長サニテ表シ北方ヨリ順次連絡シテ最後ノ點ヲ最初ノ點ト結び其方向ハ平均方向、其ノ長サハ平均回數ヲ示スモノトス

(例) N=3 NE=2 E=3 SE=4
S=5 SW=4 W=0 NW=9 トスレバ



觀測回數30ナルヲ以テ平均風向ハ

Wノ2/30ナリ

ロ 天氣 雲量ニヨル快晴、晴、曇及降水ノ種類ニヨル雨、雪、霧、雷雨ノ二様ニ記入スベシ

ハ 降水ノ種類 前章二項雜象中降水ニ屬スル雨、雪、霧、雹、霰、霜、霧ヲ此ノ欄ニ記入ス

= 雜象 前項以外ノ雜象ヲスベテ本欄ニ入ル

本項及前項ノ雜象ノ起レル時刻ハ野帖ニ記載スルニ止メ月報ニハ之ヲ要セズ

雜象記號ニハナルベク其ノ強度ヲアラハスベシ、之ニハ記號ノ右肩ニ0(弱度)、1(普通)、2(強度)ノ數字ヲ付ス

9 合計及平均

イ 特ニ記スモノノ外各欄下ニ月合計及平均ヲ算出シオクベシ

ロ 溫度ノ頁數ノ場合100ヲ加ヘタルヲ以テ合計ニ際シ其ノ數ヲ減ゼザルベカラズ、而シテ合計及平均ニテ頁數トナルモノハ頁數ヲ付スベシ

ハ 最高及最低氣溫月平均ノ差ハ較差ノ月平均ニ一致スベキ筈ナルヲ以テ檢算シオクベシ

ニ 降水量及積雪量ハ平均ヲ要セズ只前者ニ就テハ累計ヲ求メオクベシ

ホ 風向ハ各方向ニ對スル觀測回數及平均風向ヲ求メオクベシ

ヘ 天氣 降水及雜象欄ヲ併セテ次ノ天氣日數ヲ求メオクベシ

- a 快晴日數
- b 晴天日數
- c 曇天日數
- d 降水日數 降水量0.1耗以上アリタル日、但シ露、霜、霧ノ量ハ本項日數ニ算入セズ
- e 降雪日數
- f 降霰日數
- g 降雹日數
- h 結霜日數
- i 結露日數
- j 霧日數
- k 霜柱日數
- l 氷結日數
- m 吹雪日數
- n 暴風日數
- o 電雷日數

ト 疑ハシキ觀測値ハ?號ヲ付シ合計及平均ニ算入スベカラズ

チ 平均氣溫、較差、地溫ハ月中ニ於ケル最高値下ニ二本ノ赤底線、最低値下ニ一本ノ赤底線ヲ入レ最高氣溫、降水量、積雪量、風速ハ最大量下ニ二本ノ赤底線、最低氣溫、溫度ハ最低値下ニ一本ノ赤底線ヲ入ルベシ

10 季節上ノ觀測ハ施業時報ヲ以テ報告シ氣象月報ニハ只其時報番號ノミヲ備考欄ニ記入シ參考ニ供セシムベシ

之等基礎的諸調査ノ結果學術上ノ參考トシテ永遠ニ保存スルヲ要スルモノヲ發見スル、學術上ノ價值ニ於テ國寶的取扱ヲ爲サント欲スルモノ又ハ少クトモ天然記念物ノ取扱ヲ爲サント欲スルモノサヘモアル。但基本的調査未ダ不充分ナルガ故ニ保存物件亦今尙懸案中ニ屬スルモノガ多イガ其既ニ決定セルモノハ各演習林ニツキ後ニ夫々記ス積デアル、而シテ保存物ニ關シテハ次ノ如キ内規ヲ設ケテ居ル。

保存木並ニ保存林ノ設定ニ關スル件 (昭和三年四月三十日決定)

一、演習林内ニ於ケル自生又ハ培養ノ樹木又ハ林分ニシテ稀有又ハ異常且學術研究ノ參考トナルベキモノハ之ヲ保存ス

尙樹木ノ過去ノ歴史ヲ明瞭ニ記載シオクコトハ諸般ノ研究及演習上必要少カラザルヲ以テ歴史ノ分明セルモノニツキテハ或ハ單木毎ニ或ハ林分トシテノ樹籍簿ヲ作り其歴史ヲ明瞭ニ記載保存スルコトニ勉メテ居ル、其様式次ノ如シ。

No.

科
學名
產地
植付年月日
植付前ノ歴史
植付ノ位置

年月	樹齡	直徑 (地上高 m)	樹高 m	樹冠ノ直徑 m	摘要

尙天然ノ儘ニ保存スル代リニ之ヲ標品トシテ保存スル爲ニ植物ニ於テハ腊葉、材鑑、寫眞、模型動物ニ於テハ剝製其他種々ノ方法ヲ執ツテ居ル、之ニ關スル取扱法ノ一例トシテ材鑑ニ關スルモノヲ示セバ次ノ如シ。

標本用材鑑採取方 (昭和三年五月二十一日決定)

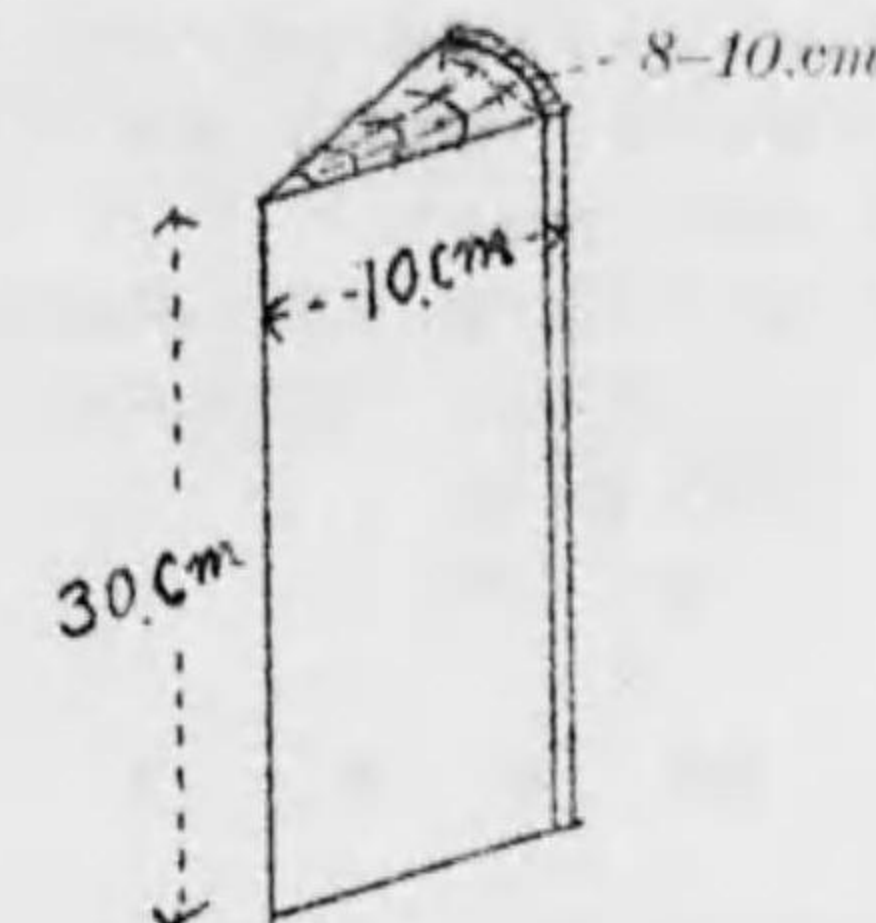
材鑑ヲ甲乙二種ニ分ツ。甲種ハ當該演習林ノ主要林木ニシテ其ノ大サ、形狀ハ次ニ示スガ如シ。乙種ハ當該演習林ノ凡テノ木本植物トス。從ツテ甲種ニ屬スル樹種モ之ヲ含ムモノトス。其ノ大サ、形狀等別掲ノ如シ。

材鑑甲種

- 一、大サ 直徑四〇釐内外、長サ二米
- 一、形狀 皮付丸太(運搬ニ當リ皮ヲ剝ササル様注意スルコト、又割裂ヲ防グタメ心去リヲナスコト)
- 一、數量 一本宛

材鑑乙種

- 一、大サ 長サ三〇釐、底邊ノ長サ一〇釐、弦ノ長サ八乃至一〇釐
- 一、形狀 イ 一面ハ柱目ナルコト
ロ 皮付ナルコト
ハ 中年以上ノモノナルコト
ニ 灌木、小喬木ニアリテハ大ナルモノヨリ採ルコト



- 一、大サ 形狀ハ平均ヲ示シタルモノナリ、從テ幅ニアリテハ是レヨリ大又ハ小ナルモ差支ヘナシ。但シ長サハ三〇釐ニ一定スルコト
- 一、伐採時期 適當ナル時期(落葉期若クハ冬期)
- 一、數量 各同一樹種三組以上、但シ同一樹種ノ老幼等ニテ三重複スルヲ妨グズ
- 一、保存箇所 一種ヲ當該演習林ニ保存シ二種ヲ本部ニ送致スルコト 本部ハ一種ヲ標本トシテ陳列又ハ適當ニ保存シ殘一種ヲ「ダブリケート」トシテ保存又ハ解剖等ノ研究ニ資ス

各種ノ標本、寫眞等ハ出來得ル限リ二通ヲ作製シ一ハ本部調査係ニ保存シ他ハ當該演習林ニ保管スル、之ニ關シテハ夫々略々上述セル諸様式ニ類似セル取扱方法ヲ執ツテ居ル。

第四章 造林係ノ業務

以上述べタルハ基本的ノ諸調査デアルガ之ニ基キテ演習林ノ事業ノ根本ヲ爲ス所ノ施業案其他ガ決定セラル、ノデアリ之ニ關シテハ前既ニ第二章ニ於テ述べタルバ省略シ愈々事業實行ニ入りタル後本部各係ガ如何ニ仕事ヲスルカト云フ事ヲ順次ニ述ベル。

先ヅ造林係ニ於テハ各地演習林ガ豫定案通りニ實行シ得ル場合ニ於テモ詳細ノ點ニ就キテハ常時各演習林主任ト打合ハスベキ事ガアル、況ンヤ其年ノ氣象關係、勞力關係、一般經濟關係等ノ爲ニ豫定案ノ變更追加等ヲ要スル場合ガ少クナイノデ之等ハ施業係ト合議ノ上適當ニ處置シテ行ク、而シテ其間常ニ各演習林ヨリノ報告又ハ係員出張視察ノ結果ニヨリ實行ヲ照査シ又次年度ノ計畫ヲ進メテ行ク造林ニ關シテハ造林臺帳ヲ作り各演習ヨリノ報告ニ基キ之ニ記入シ保護ニ關スル事項中被害報

告ハ特ニ重要ナルヲ以テ別ニ次ノ規程アリテ之ヲ整理スル。

森林被害報告ニ關スル件 (大正十四年一月二十一日決定)
(昭和三年六月五日改正)

- 1 各演習林主任ハ演習林又ハ其產物ニ被害發生シタル時ハ第一號様式ニヨリ演習林長ニ報告スベシ
- 2 附近林野ノ被害ニシテ演習林ニ關係ヲ有スルモノハ第二號様式ニ依リ演習林長ニ報告スベシ
- 3 様式ハ被害ノ性質ニヨリ適宜其項目ヲ増減スルコトヲ得
- 4 特ニ重大ナル事件ハ該様式ニ依ラズ即報スベシ
- 5 様式中直チニ調査報告ノ困難ナル項目ハ後日精査ノ上報告スルモ妨ゲナシ
- 6 報告ハ一件毎トス
- 7 事件ノ内容ニ應ジ適當ナル圖面ヲ添付スベシ
- 8 必要ニ應ジ適當ナル被害標本添付スベシ

(様式 第一號)

第 號

演習林被害報告

昭和 年 月 日

主任氏名印

演習林長殿

記

被害ノ種類
箇 所 事業區、林班(小班)
面 積
林班及林相別面積 事業區、林班、林相、面積
發生又ハ發見時
消 滅 時
發 生 箇 所
原 因
加害者、病蟲、獸名等
狀 況
被害亡失物件ノ種類、數量、價格
被害現存物件ノ種類、數量、價格
損 害 額
從來及當時監守狀況
處 置 及 善 後 策
備 考

(様式 第二號)

第 號

附近林野被害報告

昭和 年 月 日

主任氏名印

演習林長殿

記

被害ノ種類 火災(又ハ何々)
箇所及所有別 何縣何郡何村字何々國有林
林相及面積 何々林、何々ha.
時

原 因
狀 況

演習林ニ及ボス影響

(注意) 事業區ハ「ローマ」數字、林班ハ「アラビヤ」數字、小班ハ平假名ヲ以テ記スベシ
損害額ハ被害亡失及現存物件ノ價格ノ合計ヲ以テシ費用價又ハ賣買價ヲ以テ記スベシ

植生調査其他比較の精細又ハ特殊ノ試驗ニツキテハ多クハ係員自ラ出張シテ實行スルヲ常トスル。而シテ1ヶ月毎ニ大凡次ノ項目ニ分チテ各演習通ジテノ總括的報告ヲ作製シテ林長ニ提出スル。

係豫算、各演習林ニオケル關係豫算ノ變更追加

豫定案ノ變更追加 豫定事業ノ進捗度及見込

火災統計 其 他

又毎年十月頃迄ニ次年度ノ計畫原案ヲ樹テ各演習ノ間ニ協議ヲ進メ以下第二章ニ於テ記シタル順序ニ從フテ次年度ノ造林、保護豫定案ガ出來ルノデアル。

第五章 利用係ノ業務

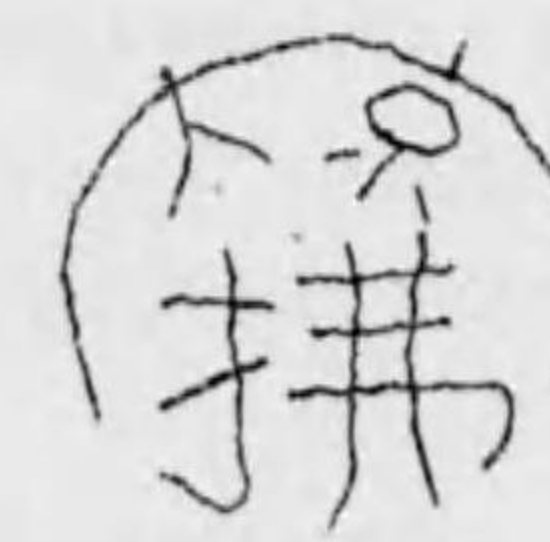
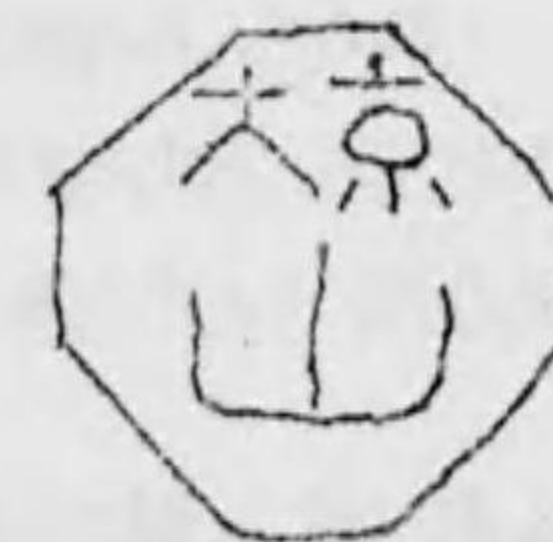
常時ノ仕事トシテハ造林係ニ於テ述べタルト同様ニ豫定案實行上ノ諸監督デアルガ伐採、產物製品ノ處分等ハ會計ノ仕事ト特ニ密接ナル關係ガ多イ、時トシテハ各演習林ニ於テ處分セズシテ本部ニ於テ處分スルヲ便トスル場合モアルノデ實行業務ヲ行フ場合モ乏シク無イ、利用關係内規中最重要ナルモノ、一トシテ次ニ極印規程ヲ掲ゲル。

演習林產物極印規程

第一條 演習林產物ニ使用スル極印ハ左ノ二種トス

山 極 印

拂 極 印



(鋼鐵製徑九分)

第二條 處分ノ目的ヲ以テ立木板株及柚材ノ調査ヲ爲ス場合ニハ左ノ區分ニ依リ山極印ヲ使用ス

- 一、毎木調査ニ在リテハ樹幹目通
- 二、區域調査ニ在リテハ其區域ヲ表示スル外縁立木ノ目通及根際又ハ標抗ノ見易キ位置並ニ區域内除外立木ノ目通及根際、但シ除外木カ處分木ト區別明瞭ナルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 三、柚材及根株ニ在リテハ断面又ハ側面見易キ位置

第三條 竇拂又ハ讓與ヲ爲シタル立木根株及柚材ヲ引渡ス場合ハ左ノ區分ニ依リ拂極印ヲ使用ス

- 一、毎木引渡ニ在リテハ其根際
- 二、區域引渡ニ在リテハ其區域ノ内縁ニ存スル適當ナル處分木ノ根際
- 三、柚材ニ在リテハ山極印近接ノ位置

第四條 引渡立木ノ伐跡検査ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ山極印ヲ使用ス

- 一、毎木検査ニ在リテハ其伐根断面
- 二、區域検査ニ在リテハ拂極印ヲ捺用セル立木ノ伐根断面、棄權ノ爲引渡立木ノ殘存セルモノアルトキハ押捺シタル拂極印ヲ抹消スヘシ

第五條 盜伐材及其伐根又ハ官有物ナルコトヲ立證スル必要アル場合ハ第二條ニ準シ山極印ヲ使用スヘシ

第六條 積雪其他ノ理由ニ依リ所定ノ位置ニ極印ノ押捺困難ナルトキハ適宜ノ位置ヲ選フコトヲ得

第七條 極印ハ黒肉ヲ以テ押捺ス、但シ盜伐ノ場合ハ朱肉ヲ用フ

既押極印ノ抹消ヲ爲ス場合ニ於テハ山極印ヲ用ヒ異種ノ印肉ヲ以テス

第八條 極印ハ庸人ヲシテ使用セシムルコトヲ得ズ

第九條 極印ハ演習林本部ニ在リテハ物品會計官吏、各演習林事務所ニ在リテハ主任ノヲ保管ス

第十條 極印ハ之ヲ使用セザルトキ常ニ相當取締アル場所ニ藏置シ使用ノ都度交付スヘシ、但シ詰所員ニハ山極印ニ限リ當時交付シ置クコトヲ得

第十一條 極印保管者ハ極印授受簿ヲ備ヘ極印授受ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

附 則

本規程ハ昭和三年一月一日ヨリ施行ス

土木及建築ニ就キテハ其業務ノ特殊ナルガ爲ニ大學營繕課又ハ他官廳トノ關係モ多ク尙之ガ實行ハ各演ニ於テ行フヨリモ寧ロ本係直接行フ場合ノ方ガ多イ。

毎月大凡次ノ事項ニツキ各演ヲ通ジテノ總括的報告ヲ作製シテ林長ニ提出スル。

係豫算、各演習林ニオケル關係豫算ノ變更追加

豫定案ノ變更追加 豫定事業ノ進捗度及見込

其 他

次年度豫定計畫ニ關シテハ造林係ニ於テ述ベタルト同様デアルガ土木建築ニ關シテハ本學演習林ハ其歴史短カキヲ以テ急ヲ要スル幾多ノ仕事ガ未ダニ成サレテ居ラス、其大部分ハ蓋シ農學部創設ノ際施行セラレナケレバナラナカツタモノデアラウクレドモ如何ナル理由ニヤ創立費ヲ以テ當然行ハルベキ仕事ガ演習林ニ於テノミ少シモ行ハレテ居ラス、其内著シキモノヲ舉グレバ

1、演習林本部建物

之ハ現ニ全然存在セズ、林務係ト利用係トハ大學本部ノ一隅ニ、造林係ト施業係トハ林學標本室内ニ、而シテ調査係ト施業係ノ一部分トハ本部試驗地事務所、上賀茂試驗地事務所等ノ内ニ在リテ執

務シテ居ル、貴重ナル標品、圖書等ヲ容ル、倉庫モ無ク況ンヤ之ヲ陳列スル室ハ無イ、遅クモ昭和5年度ニハ完成シ度イト計畫シテ居ル。

2、上賀茂試驗地温室

熱帶植物ノ常時ノ研究及演習ニ充ツル爲ニ之亦昭和5—6年度ニ完成ヲ期シテ居ル。

3、芦生演習林宿舍、學生寄宿舎、研究室、倉庫等

附近ニ部落ヲ有セザル演習林ニ於テハ在勤者宿泊ニ充ツル宿舍ヲ要シ定員ノ増加ニ伴ヒ増設ヲ要スルハ勿論ニシテ學生ノ演習ニ必要ナル研究室、學生寄宿舎ハ從來全然缺如シ辛フジテ人夫小屋、天幕等ニヨリ之ヲ行フテ居ル有様デ之ガ新築ハ最焦眉ノ急ニ迫レルモノデアアル、即昭和4年度以降逐次新築増築ノ計畫デアリ又事業進捗ニ伴ヒ倉庫其他ノ増設ヲ要スル事勿論デアアル。

4、樺太演習林宿舍、學生寄宿舎、研究室、倉庫等

前述セル處ニ同ジ、之亦焦眉ノ急ニ迫レルモノアリ昭和4年度以降逐次新築増築ヲ計畫シテ居ル。

5、朝鮮演習林宿舍、學生寄宿舎、研究室、倉庫等

之亦前述セル處ニ同ジク焦眉ノ急ニ迫レルモ經費其他ノ關係上昭和5年度以降逐次建設ヲ計畫シテ居ル。

6、臺灣演習林宿舍、學生寄宿舎、研究室、倉庫等

之亦前述セル所ニ同ジキモ經費ノ關係上昭和5—6年度以降逐次建築ノ豫定デアアル。

7、和歌山演習林宿舍、學生寄宿舎、研究室、倉庫等

之亦前述セル所ニ同ジキモ經費ノ關係上數年間ハ或ハ附近民家ノ借入、山小屋、天幕等ニ據ル外途ナカルベキヲ恐レル。

8、上賀茂試驗地道路

上賀茂試驗地ニ赴クニハ現在畔道ヲ傳フテ辛フジテ達シ得ルニ過ギヌ、極メテ最近ニ於テ築道ヲ計畫シテ居ル。

9、各演習林内及附近道路及防火線

孰レモ各演ニ就キ後ニ詳細ニ記メデアラウ。

以上ハ孰レモ特ニ急ヲ要スル主要ナル土木建築工事デアリ之等ヲ一時ニ創設スルヲ至當ト信ズルモ經費關係ヲ考慮シテ前後ヲ案配シ豫算ニ適應スル様計畫ヲ樹テ、居ル。

第六章 施業係ノ業務

本係ノ最重要ナル任務ハ施業案ノ編成檢訂デアリ實ニ本係主任カ其中心トナルデアアル、現在各

演習林ノ施業案進捗度ハ次ノ如シ。

施業案完成セルモノ	樺 太
部分的施業案成レルモノ	
全施業案編成中(昭和3年度内完成ノ見込)	朝 鮮
全施業案編成期未定	芦 生
施業方針ヲ以テ施業案ニ代ユルモノ	
部分的施業案編成中(昭和3年度内成案ノ見込)	臺 灣
全施業案編成期昭和4年度ノ見込	和 歌 山
施業案ヲ編成セザル見込	試 驗 地

施業案編成ノ事ハ前述セル故略ス、毎年度施業計畫ハ各係原案ヲ作り本係ニ於テ集成シ既述方法ニヨリ決定スル、照査ノ方法モ既ニ屢々述ベタル故略スルモ要スルニ本係ガ中心トナリ各係ハ其専門的立場ヨリ協力スル迄デアル、外ニ本係ハ境界及測量ニ關スル事項ヲ分掌シ之ハ特殊技能ヲ要スル故重大ナルモノハ係員自ラ實行スル、月別ニ各演ヲ通ジテ次ノ事項ヲ總括シテ林長ニ報告スル。

- 係豫算、各演習林ニオケル關係豫算ノ變更追加
- 施業案關係事項ノ概略 境界及測量ニ關スル事項ノ概略
- 施業時報月報年報等ニ關スル概略ノ事項 其 他
- 要スルニ本係ハ演習林ノ技術上ノ諸事業ヲ總括スルモノデアル。

第七章 調査係ノ業務

先ヅ學生ノ演習ニ就キテ之ヲ云ヘバ農學部規程ニ從フテ林學教室内ニ學課ノ内規ガアリ之ニヨル時ハ實習ト演習トノ2種ニ分レ實習中演習林ニ關係深キハ

植物學實習	造林學實習	測樹學實習	地質學實習
測量學實習	森林經理學實習	森林利用學實習	森林工學實習
林學實習			

等デアリ演習ノ内ニハ

專攻科目演習	演習林演習
--------	-------

ノ2ガアル。

以上ノ内學生ノ都合ニヨリ又ハ演習林ノ設備未整頓ナル爲從來已ムヲ得ズ演習林外ニ於テ行ヒタ

ルモノモアルガ現今デハ其内ノ一二ヲ除ケバ全部演習林ニ於テ行フテ居ル、即植物學實習ハ常時本部及上賀茂ノ兩試驗地ヲ用ヒ毎年7月初旬ニハ芦生ヲ用フルヲ例トシ造林學實習亦常時兩試驗地ヲ用ヒ每年初夏ニハ主トシテ芦生ヲ用ヒ測樹學實習ハ毎年6月末、經理學實習ハ毎年7月初芦生ニ於テ行ヒ森林利用學實習亦略々之ト同様ニ芦生ニ於テ行ヒ林學實習ハ主トシテ兩試驗地及芦生ヲ用ヒ專攻科目演習ハ專ラ卒業論文ノ製作ニ關シ從ツテ學生各自異ルモ從來兩試驗地、芦生、樺太等ガ最多ク利用セラレ演習林演習ハ演習林經營上ノ實務ヲ學生ヲシテ實行セシムルモノデ之亦兩試驗地、芦生及樺太ガ從來用ヲ爲シテ來タ。而シテ其他ノ演習林ハ間接ニ研究材料ノ提出位ニ留マリ居タルハ1ハ學生數ノ著數少ク之ガ指導教官モ海外留學中ノモノ多クシテ實行不可能ナリシ事ト2ニハ演習林ノ設備未整頓ナリシニ由ルモノデアルガ逐次學生モ數ヲ増シ教官モ漸次歸朝シ來レル者アルヲ以テ一方學生演習ニ關スル設備ヲ急グト共ニ今後ハ學生ノ在學3ク年間ニハ必ズ全演習林ニ於テ演習ヲ爲シ得ル様ニ企劃中デアル。例ヲ舉ゲテ之ヲ説明スレバ各實習ハ年ニヨリ其施行地ヲ異ニスル事次ノ例ノ如シ。

	第1年目	第2年目	第3年目	第4年目	第5年目
植物學實習	芦生、樺太	和歌山、朝鮮	芦生、臺灣	和歌山、樺太	以下略
造林學實習	朝 鮮	臺 灣	樺 太	朝 鮮	
測樹學實習	樺 太	朝 鮮	臺 灣	樺 太	
經理學實習	臺 灣	樺 太	朝 鮮	臺 灣	
利用學實習	臺 灣	樺 太	朝 鮮	臺 灣	
林學實習	和歌山、朝鮮	芦生、臺灣	和歌山、樺太	芦生、朝鮮	
演習林演習	各 演	各 演	各 演	各 演	

同様ノ例ヲ學年級別ニ示セバ次ノ如クニナル。

	第1年目	第2年目	第3年目	第4年目	第5年目
第1學年	芦生、樺太	和歌山、朝鮮	芦生、臺灣	和歌山、樺太	以下略
第2學年	和歌山、朝鮮	芦生、臺灣	和歌山、樺太	芦生、朝鮮	
第3學年	臺 灣	樺 太	朝 鮮	臺 灣	

上ノ例ニ於テ兩試驗地ハ常時使用スル故省略シタ、尙演習林演習ハ毎年全演ニ亘リテアルモ其種類ト學生ノ性質希望ニ從ヒ適宜學生ヲ分配スルコト、シ專攻科目演習亦略々之ト類似ノ關係ガアル、此學生演習ハ殆ド總テノ場合林學教官同行指導ノ任ニ當ルモ之ニ關スル諸準備、事務ハ調査係ガ林學教室ト協同シテ事ニ當ル。

(第3號様式)

演習林長 林務係 主 査

演第 號		昭和 年 月 日			何々演習林主任		
演習林長 殿		豫算差引月報			昭和 年度 月分		
科 目	豫算額	支 拂 濟 額			本月分推算 未 拂 額	残 額	前渡資金残額
		前月迄	本月分	累 計			
農場及演習林費							
備 品							
圖書及印刷							
消 耗 品							
通 信 運 搬							
實 驗 費							
動 物 費							
肥料購買費							
種苗購買費							
内 國 旅 費							
給 與							
雇 員 給 料							
備 人 服 費							
雜 費							
備 考							

事務費經理手續 (昭和3年9月29日改正)

- 1、各演習林主任ハ毎年度事業豫定案所定外ノ經費ニ付別紙様式ノ事務費豫定案ヲ編成シ毎年2月15日迄ニ林長ニ提出スベシ
- 2、事務費豫定案ハ各節毎ニ内詳明細ヲ記載スベシ
- 3、事務費豫定案ハ豫定案査定會議ニ於テ決定ス
- 4、豫定案確定後ニ豫定事項ノ追加變更ヲ要スルトキハ追加若クハ變更豫定案ヲ編成ス
- 5、前項ノ追加又ハ變更豫算額各節豫算ノ2割以内ニシテ事務費豫定案内ニ於テ支拂シ得ベキモノハ追加又ハ變更豫定案ノ編成ヲ要セズ、但雇員給及給與剩餘額ノ流用又ハ原豫定ト著シク性質ヲ異ニスル事項ノ追加ハ此限リニアラズ
- 6、各演習林主任ハ事務費豫定案ニ據リ事務費豫算ヲ執行スベシ、但シ事務委任ノ範圍ヲ超エテ專行スルコトヲ得ズ
- 7、各演習林主任ハ事務費實行簿ヲ備ヘ各節毎ニ其ノ實行ノ記載スベシ

8、各演習林主任ハ毎年度實行シタル事務費ニ付翌年度6月30日限リ事務費實行年報ヲ提出スベシ實行年報ノ記載方ハ豫定案ノ例ニ準ズ

(様式)

何 年 度
事 務 費 豫 定 案
何々演習林

科 目	名 稱	單 位	數 量	摘 要	經 費		備 考
					單 價	總 額	

本係亦他係ト同様毎月全演ヲ通ジテノ月別總括表ヲ次例ニ準ジテ作り林長ニ提出スル

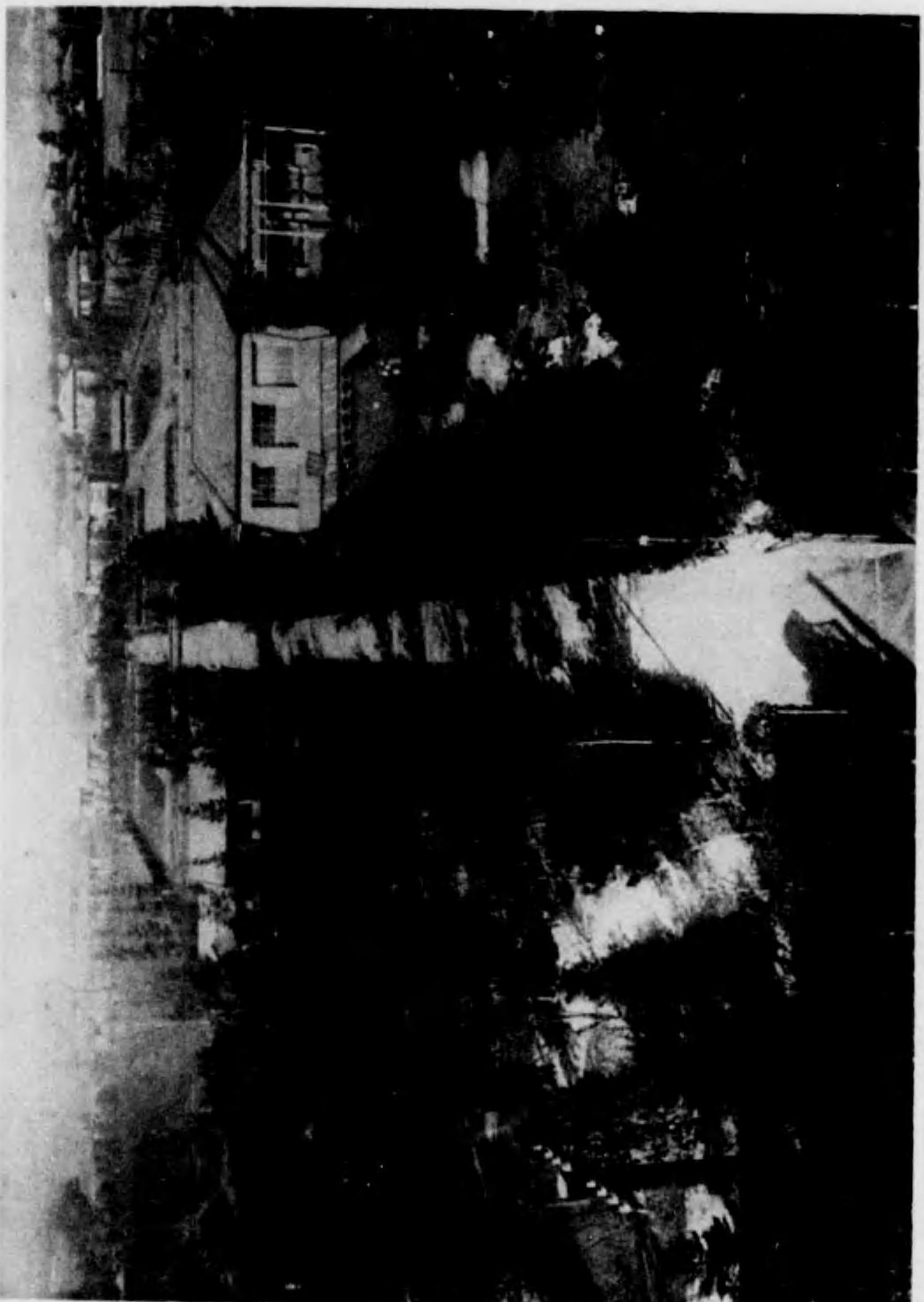
係豫算、各演習林事務費豫算ノ變更追加

敘任辭令 出張歸任 職員動靜

例規類ノ制定改廢 豫算推算(決算)ノ概略

演習林全豫算ノ變更追加 其 他

演習林ノ收支ニ關シテハ各演習林ニツキ夫々後ニ掲出スルガ全演習林ヲ通ジテノ既往ノ收支ヲ次表ニ示ス、但農學部創設以前ハ演習林ノ事務ハ會計課ノ所管ニ屬シ其時代ノ收支ハ取調べ得ラル、ダケ詳細ニ調査シタルモ尙不明ノ點アリ蓋シ直接會計課ノ支出ニ拘ハル演習林關係經費ハ相當ノ額ニ上ルベキモ不明ナルモノハ一切省略シタ、農學部創設後モ最初ハ各演習林ノ支出ヲ本部ニ於テナシタルモノ多ク之等ハ各演習林ニ分配シテ示スヲ可トスルモ其煩ニ堪ヘザルモノアルヲ以テ其儘本部經費中ニ計上シタ、尙演習林ノ豫算以外ニ於テ演習林ノ爲ニ支出セラレタルモノハ一切省キテ記サズ、但其多クハ旅費、調査費、實驗費等デアル。



演習林收支一覽表 (單位圓)

年次	種		朝		鮮		著		簿		産		生		和		上		本		總			
	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出		
40	0	0	0	0	0	0	0	0	297	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
41	0	330	0	0	0	0	0	0	1,436	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,806	
42	0	130	0	0	0	0	0	0	2,378	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,728	
43	0	0	0	0	0	0	0	0	1,563	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,563	
44	0	130	0	0	0	0	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	325	
45	0	0	0	0	0	0	0	0	910	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,135	
元	0	0	0	0	0	0	0	0	133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,050	
2	0	0	0	0	0	0	0	0	717	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,399	
3	0	0	0	0	0	0	0	0	1,116	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,399
4	0	0	0	0	0	0	0	0	748	2,502	346	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,502	
計																							1,716	

本部支出農場及演習林費ノ内譯ハ次ノ通りデアルガ大正11年度以前ノ内譯ハ不明ニツキ省ク

年 度	農 場 及 演 習 林 費 内 譯													
	備 品	圖書印刷	消耗品	通信運搬	賃金費	動物費	肥料購買	種苗購買	内國旅費	給 與	職員給	備入料	被服費	雜 費
大 正 12	2,902	0	418	230	0	0	0	0	3,290	3,625	1,002	230	27	100
13	5,746	0	739	208	0	0	0	0	6,430	4,686	1,579	225	27	151
14	6,772	0	1,322	335	0	0	0	0	7,398	5,722	2,132	614	48	197
15	952	381	804	385	0	0	0	4	4,492	6,640	1,931	582	25	239
昭 和 2	13,155	5,191	1,903	341	350	0	6	21	4,083	7,356	1,085	1,327	39	134
計	29,527	5,572	5,186	1,439	350	0	6	25	25,665	28,029	7,729	2,978	106	821

第三篇 本部試験地

第一章 概 況

京都帝國大學農學部附屬演習林本部試験地ハ農學部構内ニ在リテ初メ林學苗圃ト稱シタルモノデアルカ事業ノ性質上演習林ニ於テ管理シ學生常時ノ演習中小規模ニシテ特ニ細密ヲ要スルモノ、教官其他ノ平素ノ研究ニシテ不斷ノ精密ナル觀測ヲ要スルモノ等ヲ此地ニ於テ實行スル外尙演習林ノ試験ニシテ特殊ノ裝置ヲ施シ綿密ニ行フヲ要スルモノ例ヘバ土壤試験、種子發芽試験ノ如キヲ各演習林ニ代リテ實行シ或ハ試験ノ性質上必ズシモ各演ニ於テ行フヲ要セズシテ材料ヲ送附シ研究機關ノ完備セル場所ニ於テ行フヲ可トスルモノ、如キ亦此所ニ於テ行フ事トシテ居ル。之等ノ事業ハ數頗ル多ク其重要性モ頗ル大ナルモノアルヲ以テ到底本部試験地ノ面積1ha397ヲ以テシテハ足ラザルガ故ニ先ニ上賀茂試験地ヲ設置シテ順次事業ノ一部ヲ之ニ移スコト、シタ、依リテ現在此試験地ニ於ケル諸事業ノ概略ハ次ノ如クデアル。

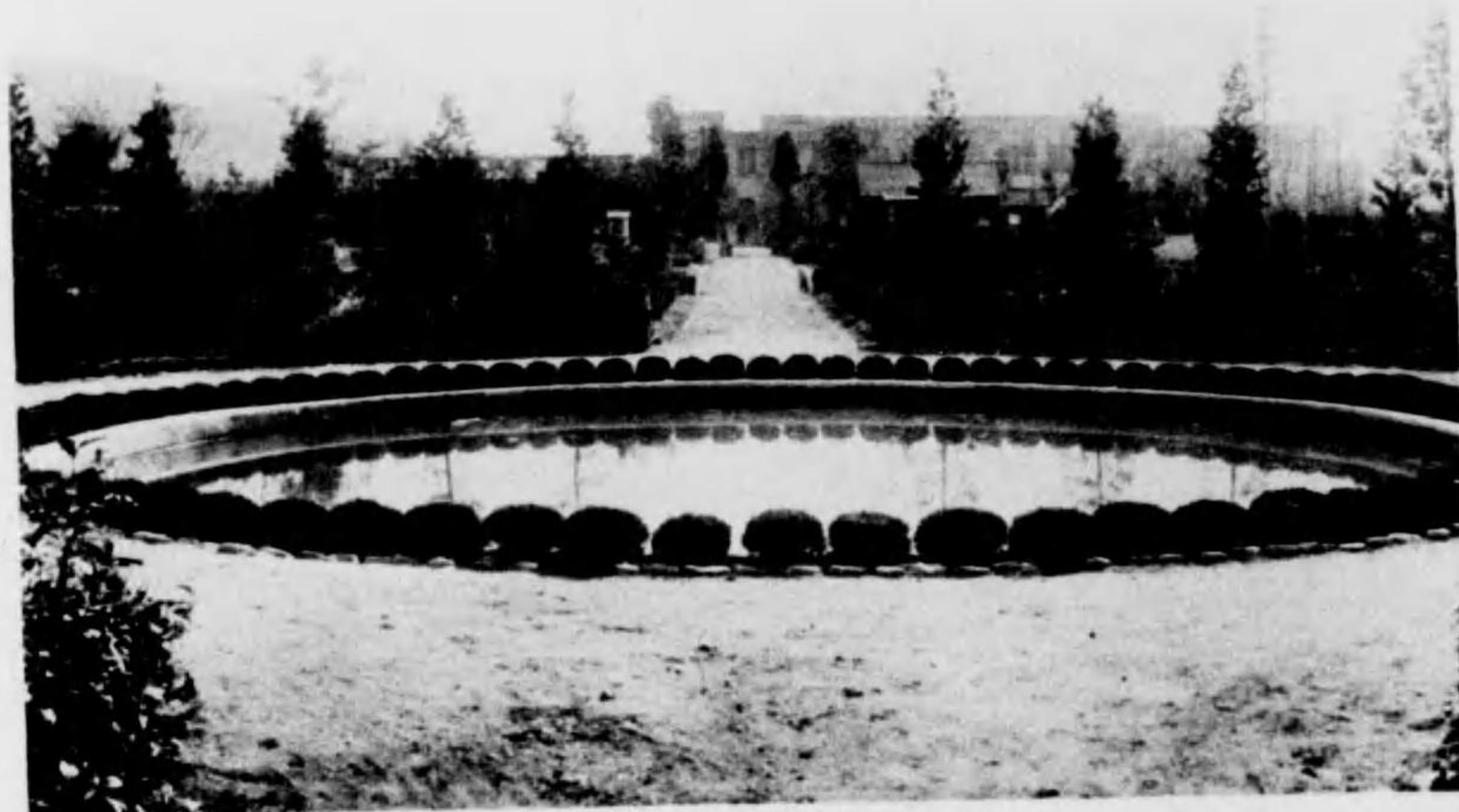
第二章 地 況

東ハ運動場ニ西ハ農物ニ南ハ農學部建物ニ夫々道路ヲ距テ、接スル略々長方形ノ區域ト、之ニ一部分接續シテ農學部ノ北界及西界ノ一部分ニ幅6~7mノ狹長ナル地帯トヨリ成リ面積總計1ha397始平坦ニシテ砂質壤土ヨリ成リ大正13年ニ試ミタル表土ノ物理的分柝ノ結果ハ

細 土	0.01mm以下	24.90%
	0.01~0.05	14.92
	0.05~0.10	16.82
	0.10~1.00	23.43
	1.00~4.00	19.93
原 土	4.00 以上	5.50

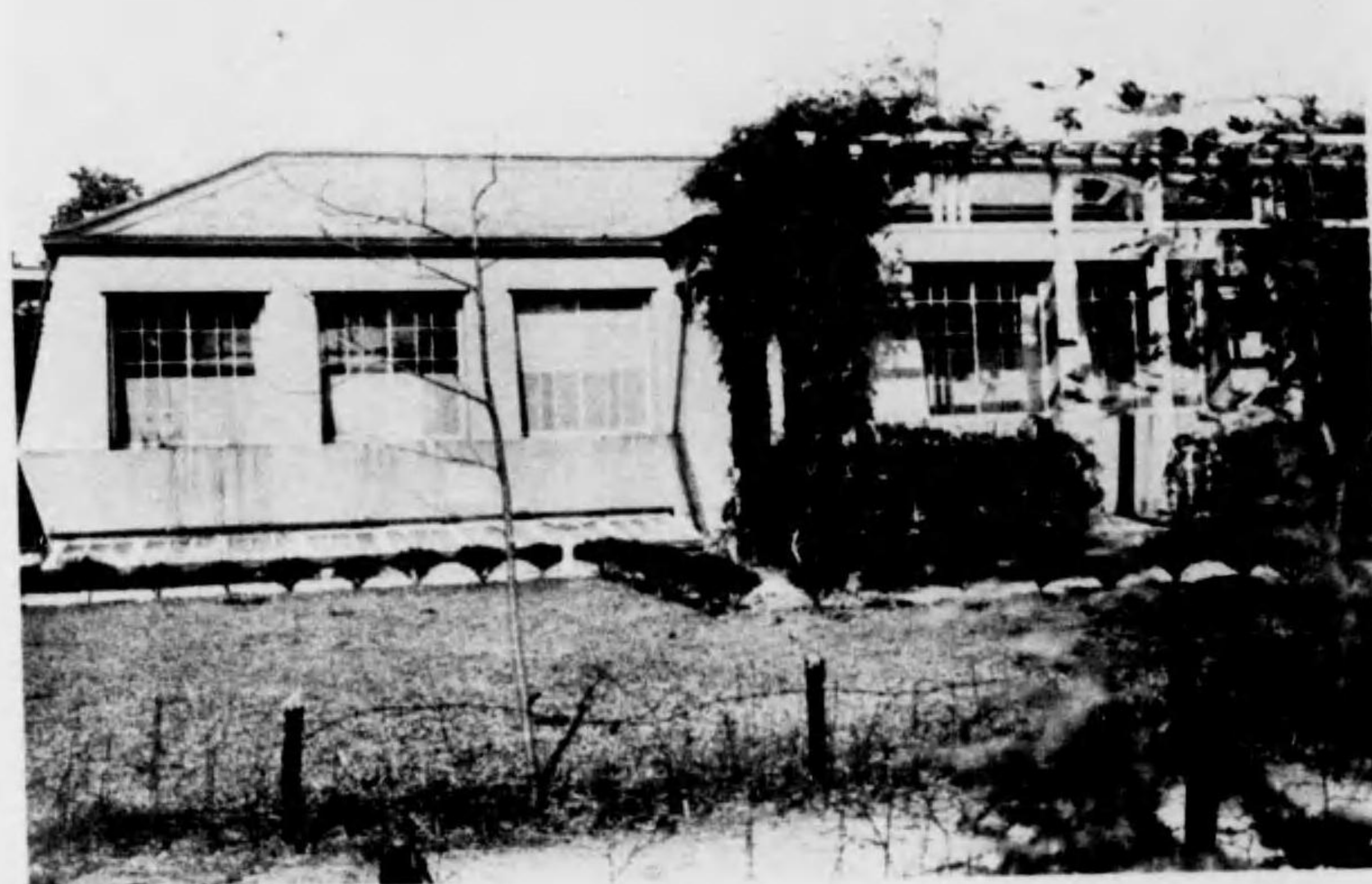
同ジク化學的成分ハ

N	0.2660%	SO ₂	0.0535%
P ₂ O ₅	0.3200	Al ₂ O ₃	6.1300
K ₂ O	0.1585	Fe ₂ O ₃	2.9500



本部試験地内養魚池 (正面ノ建物ハ農學部本館)

(演)



本部試験地内作業室

(演)

Na ₂ O	0.1660	SiO ₂	0.1312
CaO	1.8100	Insol. matter in hot HCl.	21.8000
MgO	0.0942		

Humusハ認めズ、N₂Oハ2.6500%デアル。(但風乾土トス)

氣象ニ就キテハ下ニ其年報ヲ折込表ニテ掲ゲル。

第三章 林 況 (略)

第四章 施 業

全區域ヲ三大別シ農學部境界ニ沿フ狭長ノ區域ヲ邦産樹種見本園ニ宛テ東北ヨリ西南ニ向ヒテ寒地産ヨリ暖地産ノ順序ニ各樹種ヲ1乃至10本、平均2~6本位宛植栽スル、之ハ孰レモ相當ノ大サニ達シタルモノ、ミトシ其他ハ苗圃内ニ於テ育成ノ上適當ノ時期ニ達スレバ植出ス、昭和3年9月現在ノ種類ハ次ノ如ク總計170種デアル。

區 樹 名	區 樹 名	區 樹 名
1	22	43 ナツツバキ
2	23	44 ブ ナ
3	24 ミヅナラ	45 イヌブナ
4 トママツ	25 ムラサキシキブ、ムラサキツリバナ	46 リヤウブ
5	26 ムラサキシキブ、ムラサキツリバナ	47 ミツバウツギ、ヤマウルシ
6	27 ウラジロハコヤナギ	48 オホツミ、タムシバ
7	28	49 マンサク、カツラ、メギ
8	29 ノリウツギ	50 ユクノキ、イヌエンジュ、アヲハダ
9	30 アツキナシ、ウラジロノキ、ナナカマド	51 マユミ、ツクバネノキ、コマユミ、ニシキギ
10	31 キハダ	52
11 カラマツ	32 ヤチダモ、タラノキ、メタラ	53
12	33	54
13 ゴエウマツ	34	55
14 テウセンゴエウマツ	35 トガサワラ、カウヤマキ	56
15	36 アスナロ	57
16	37 ヒノキ	58
17 アヲモリトママツ	38 ネツコ	59
18 オニグルミ	39 サハラ	60
19	40 スギ	61
20	41 サハグルミ	62 ヤマハンノキ
21	42 オホバアサガラ	63 ヒメヤシャブシ

累年本都試驗地概況 (1926-1927)

所在地 (京都市北白川西町)

北緯 35° 1' 東經 135° 46' 測候所海面上ノ高さ 60m 晴雨計海面上ノ高さ 60m 雨量計地上ノ高さ 0.20m 風力計地上ノ高さ 6.30m

種目	月												計平均	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
氣	平均	3.16	3.59	6.69	12.96	18.09	23.21	26.33	29.10	24.45	17.45	15.65	5.78	15.53
	最高	7.19	7.71	10.61	17.50	22.91	26.20	31.27	31.30	27.34	20.71	12.37	9.59	18.65
	最低	2.85	1.14	0.70	5.95	10.74	14.89	21.23	22.25	18.35	10.05	4.99	8.85	9.66
	較差	8.47	8.87	9.90	11.73	11.27	11.30	8.89	9.00	5.41	10.69	10.59	9.16	9.61
	最大日	13.90	17.40	19.60	21.80	19.40	17.70	13.30	13.20	16.70	22.50	16.10	19.70	22.50
溫 (°C)	最高	27 2.6	27 15	26 31	27 21	26 3	26 4	26 11	27 13	26 30	26 19	27 1	26 5	26 X 19
	最低	14.90	13.50	19.40	26.60	27.40	33.80	34.80	35.00	33.50	25.90	20.90	18.90	35.00
	極大日	27 16	26 10	27 30	27 30	26 11	26 6	27 30	26 13	26 14	27 23	27 1.2	26 5	26 K 13
	極小日	— 6.50	— 7.40	— 4.70	— 1.10	1.50	6.20	13.40	17.60	9.00	0.80	— 0.60	— 11.00	— 11.00
	較差	27 24	27 9	27 7	26 13	26 17	26 3	26 8	26 8	26 29	26 31	26 16	26 26	26 M 26
水蒸氣張力 mm	平均	3.48	4.52	5.50	16.59	17.85	20.42	19.89	18.90	19.90	17.95	14.52	17.74	14.77
	最大日	9.29	8.35	11.30	15.67	19.96	18.47	26.63	26.08	24.51	17.69	12.76	10.26	26.63
	最小日	2.96	2.15	2.23	3.82	5.28	8.04	2.04	14.39	10.62	6.17	3.83	0.86	0.86
	最大日	27 20	27 13	27 2	27 30	27 31	27 17	27 16	27 31	27 19	26 30	26 11	26 8	26 V 8
	較差	19.90	15.20	22.08	25.80	25.30	23.15	18.10	16.35	23.75	23.25	20.95	26.95	21.81
濕度 %	平均	76.42	73.30	70.78	70.78	68.73	63.65	71.83	71.91	71.48	72.80	76.65	71.44	71.66
	最大日	53.00	40.00	37.00	27.00	24.00	37.00	40.00	59.00	37.00	55.00	28.00	35.00	24.00
	最小日	27 20	27 13	27 2	27 30	27 31	27 17	27 23	26 3	26 27	27 19	27 3	27 1	26 28
	最大日	761.18	761.60	760.19	757.88	756.79	754.92	755.25	754.84	756.13	759.51	761.94	747.94	757.34
	較差	39.25	54.30	124.10	149.35	214.70	90.85	139.20	135.30	186.45	74.85	69.65	72.45	109.02
降水量計 mm	最大 (24h)	17.00	39.00	36.60	46.80	78.10	71.80	33.20	94.40	72.80	38.80	61.70	23.70	94.40
	最大日	26 10	26 26	27 20	26 3	26 30	27 16	26 4	27 5	27 28	26 16	27 5	26 2	27 W 5
	雲量平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	平均	—	—	—	—	5.66	2.56	3.68	1.02	1.15	2.29	1.19	2.38	—
	最大日	—	—	—	—	75.91	44.33	40.25	26.83	32.67	53.08	38.50	53.66	—
風	平均	—	—	—	—	ESE	E	NNW	SW	NW	SE	W	W	—
	最大日	—	—	—	—	28	24	24	10	3	2	14	30	—
	平均	—	—	—	—	WSW	SE	ESE	SE	WSW	WSW	SSW	ESE	—
	日照時間 h	91.70	76.90	133.40	177.95	366.15	196.25	166.55	149.75	126.90	145.40	120.95	83.90	152.98
	蒸發量平均 mm	1.96	1.81	2.56	3.90	3.65	4.69	4.81	4.64	3.27	2.41	1.79	1.34	39.71
積雪量	最大日	0.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.10	0.10
	最大日	26 9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	26 24	26 M 24
	深さ 0.1 m	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	0.2 m	2.94	3.14	5.34	10.59	15.34	19.79	24.59	25.82	22.94	16.30	5.56	5.75	13.17
	0.3 m	3.77	3.89	5.92	10.84	15.47	19.68	24.35	20.94	23.21	17.01	11.47	6.79	13.59
地溫 (°C)	0.5 m	5.33	5.29	6.93	11.61	15.99	20.35	24.29	26.22	24.22	19.14	13.72	8.72	15.14
	1.0 m	7.73	6.48	7.33	10.49	14.30	18.48	21.90	24.10	23.69	20.23	15.78	11.45	15.16
	2.0 m	11.28	9.27	8.73	9.79	12.22	15.59	18.73	20.95	21.88	20.45	17.48	14.34	15.05

64 ヤシャブシ	94 イヌエンジュ	124 シラカシ
65	95 イヌコリヤナギ	125 ヤ ッ デ
66	96 ア セ ビ	126
67 ウリハダカヘデ	97 ウコギ、キフジ	127
68 ハリギリ、コセウノキ	98 ミヅキ、ハコネウツギ	128 ア ナ キ
69 イ テ フ	99 クマノミヅキ、ヒウガミヅキ、 ガマズミ、コバノガマズミ、ヤ ブデマリ	129 ウバメガシ
70 イヌガヤ	100 ネヂキ、ニハトコ、ガマズミ ヤマシバ	130
71 アカマツ	101 ク サ ギ	131 トベラ、ソヨゴ
72 モ ミ	102 エゴノキ	132
73 ツ ガ	103 ク コ	133 イヌビハ、クス
74 ビャクシン	104 ノブノキ	134
75 ネヅミサシ	105 エノキ	135
76 クマシデ、ネコヤナギ	106 ムクノキ	136 オガタマノキ
77	107	137
78 イヌシデ、アカシデ	108 ダンカウバイ、クロモジ	138 カクレミノ
79	109 カチノキ、シキミ	139
80	110 カナクギノキ、アマチヤ	140
81 アベマキ、クスギ	111 ス ル デ	141 イスノキ
82 コ ナ ラ	112 ツゲ、イヌツゲ、ウメモドキ	142 カナメモチ
83	113 ツバキ	143
84 ク リ	114 サンシユ、ケンボナシ、ザク ロ、サイカチ	144 マ サ キ
85	115 ナ ギ	145 ネヅミモチ
86 アキユレ	116 マ キ	146
87 ケヤキ	117 クロマツ	147 アヲギリ
88 ホノキ、コブシ	118 ウメモドキ	148
89 フサザクラ	119 アカメヤナギ	149 ム ベ
90 ザイフリボク、ヤマブキ	120	150 チャケツイバラ
91 ヤマザクラ、ウハミヅザクラ、 ネムノキ	121 シ ヒ	
92 ウルシ、クワ	122 マテバシヒ	
93 タニウツギ	123	

矩形區域ノ南隅ハ賞玩用樹木、外國樹種(主トシテ賞玩用ノモノ)ノ見本園トス、昭和3年9月現在

ノ種類次ノ如シ。

シ ユ ロ	イ テ フ	マ キ	朝鮮	マ キ	ナ ギ
カ ヤ	キ ャ ラ	黄金	キ ャ ラ	モ ミ	ヒマラヤハリモミ
ドイツタウヒ	ツ ガ	ツガ	カナデンシス	オレゴン	バイン
レバノンシーダー	セ コ イ	ア(セン	ベル)	ス	ギ(丹波)
スギ(本曾)	シ ロ ス	ギ	エンコウスギ	イト	スギ
サツマスギ	ビャクシン	斑入	ビャクシン	ハヒビ	クシン
鉛筆ビャクシン	ヒ ノ キ	ロー	ソン	ヒノキ	イトヒバ

黄金イトヒバ	斑入イトヒバ	スキリウヒバ	孔雀ヒバ	チャボヒバ
カマクラヒバ	斑入カマクラヒバ	シノブヒバ	サハラ	ベニヒ
ニホヒバ	アスナロ	マアテ	クサアテ	コノテガシハ
廣葉杉	ランダイスギ	落羽松	カラマツ	クロマツ
多行松	一葉松	ヒメコマツ	朝鮮五葉松	琉球松
テーダマツ	ストロブマツ	大王松	ディヅアリカマツ	マリティママツ
シルヴェストリスマツ	リギダマツ	バンクシアナマツ	カツラ	ケヤキ
ムクノキ	エノキ	アヲギリ	トナ	シナノキ
ポブラ(ニグラ)	エンジュ	ハリエンジュ	カタルバ(ビグノニオイデス)	
カタルバ(オヅァダ)		ハンテンボク	スマカケ(オクシデンタリス)	
スマカケ(オリエンタリス)		カシハ	クス	大クリ
シラカシ	マテバシイ	テウチゲルミ	オニグルミ	アメリカナニレ
ユグラン	ネコヤナギ	イヌコリヤナギ	ヤマハンノキ	マカンバ
シラカンバ	クミノミヅキ	トサミヅキ	イヨミヅキ	ケンボナシ
センダン	ハリギリ	キハダ	ヤチダモ	ヌルデ
オホバノアサガラ	ナツツバキ	トベラ	月桂樹	サンゴジュ
カキ	カヘデ	トウカヘデ	ウリハダカヘデ	ネグンドカヘデ
花ザクラ	一重花ザクラ	シダレザクラ	ラウバイ	ニハウメ
ハナウメ	ボケ	ユスラウメ	サルスベリ	赤サルスベリ
赤キョウチクトウ	白キョウチクトウ	シモクレン	シデコブシ	ヒメコブシ
ザクロ	サンシユ	ハナエンジュ	キソケイ	サマンカ
カイドウ	ムクゲ	ムクゲ(白)	ムクゲ(赤)	ムクゲ(紋)
ゲンショウゲ	白ゲンショウゲ	クチナシ	大葉クチナシ	小葉クチナシ
斑入クチナシ	ドウダンツバジ	黄花ドウダン	黄レンゲツバジ	ツバキ
紋大神樂ツバジ	シャクナゲ	フヨウ	ヤマブキ	アヂサキ
西洋アヂサキ	赤花エニシダ	テマリバナ	キンモクセイ	ギンモクセイ
ヒラギモクセイ	モクコク	アヲキ	青アヲキ	斑入アヲキ
チリフアヲキ	青チリメンアヲキ	ヤツデ	斑入ヤツデ	赤ナンテン
白ナンテン	赤ヤッコナンテン	白ヤッコナンテン	イカダナンテン	朝鮮ナンテン
ヒラギナンテン	ヒサカキ	モチ	ネヅミモチ	クロガネモチ
サカキ	アヲマサキ	キンマサキ	ギンマサキ	フクリンマサキ
ニシキギ	ウツギ	タニウツギ	ハコネウツギ	ツゲ
クサツゲ	ヤブデマリ	チヤ	クロウメモドキ	アカウメモドキ
シロウメモドキ	シモツケ	キンバイ	ワウバイ	マンサク
オホサカツキ	カクレガサ	コデマリ	ヒラギ	斑入ヒラギ
ビジョヤナギ	コゴメバナ	ギョリウ	サンセウ	ニクケイ
ピラカンタ	ボタン諸品	シャクヤク諸品	バラ諸品	ハギ諸品
ススキ諸品	フジ	フイリツルマサキ	テイカカツラ	斑入サネカツラ
ツタ	キヅタ	等々		

斑入區域ノ大部分ハ各種試験地及苗圃トシテ用フ。

第五章 造林

見本園ノ植栽ハ略シ苗圃事業ニ就キ述ブレバ試験用苗木ノ育成(本部試験地及上賀茂試験地用)見本園用苗木ノ育成、各演習林用特殊苗木ノ育成、學生ノ造林實習等ノ仕事ガアル、既往ノ數量(主タルモノ)ヲ述ブレバ次ノ如シ。

年度	樹種	數量(本)	面積(ha)	備考
大正14年度	スギ	10000	0ha.0.070	2年生
	ヒノキ	4000	0.035	〃
	アカマツ	1500	0.015	〃
	其他針葉樹	1500	0.015	〃
	潤葉樹	1500	0.050	〃
	緑肥播種床		0.015	〃
大正15年度	スギ	8000	0.150	3年生
	ヒノキ	3000	0.030	〃
	アカマツ	3000	0.030	〃
	ドイツアカマツ	3000	0.030	〃
	潤葉樹播種床	4000	0.080	〃
昭和2年度	スギ	5000	0.045	3年生
	スギ	3000	0.025	2年生
	クロマツ	3000	0.025	3年生
	アカマツ	4500	0.035	〃
	ケヤキ	3000	0.020	2年生
	コノテガシハ	6000	0.020	〃
	ヒノキ	3000	0.028	〃
	其他針葉樹	1000	0.015	〃
	其他潤葉樹	3000	0.035	〃
	播種床		0.010	〃
日本及支那桐		0.020	〃	

年度	樹種	數量(本)	面積(ha)	備考
	特殊ノスギ、ヒノキ		0.003	
	タケ類		0.030	
昭和3年度	アカマツ	600		4年生
	アカマツ	4200	本邦各地産	3年生
	スギ	500	母樹ノ異ルモノ	〃
	ヒノキ	400	芦生産	4年生
	タウヒ	2400	ハケ岳産	2年生
	コノテガシハ	4500	鹿兒島産	3年生
	ケヤキ	4500	京都産	〃
	邦産針葉樹類	500		2~3年生
	邦産闊葉樹類	1700		〃
	外國産針葉樹類	4200		〃
	外國産闊葉樹類	1100		〃

第六章 保 護 (略)

第七章 利 用

樹木ハ見本樹デアリ苗木ハ演習林山出シ用又ハ試験用デアルガ時ニ若干ノ不用苗、不用樹木ヲ生ズル、之ハ適宜拂下ノ方法ヲ執ル、後章(第十一章)ヲ見ヨ。

第八章 土 木 及 建 築

本試験地内ニハ現在半永久性建物1棟(事務所、作業室、研究室ヲ兼ス)木造建物3棟(内1ハ作業室倉庫ヲ兼ネ1ハ人夫宿舍ニシテ1ハ物置)肥料倉1棟ガアルガ孰レモ農學部ノ建物ヲ借用シテ居ル。

近キ將來ニ於テ本試験地内ニ演習林本部建物(一部又ハ全部)ヲ建築ノ豫定デアリ少クトモ調査係ノ圖書室、標本室、腊葉庫ハ此處ニ建テル計畫デアル。

第九章 演 習

學生ガ本試験地ヲ演習ノ爲使用スルノハ殆毎日毎時デアルト稱スベク其種類モ多岐ニシテ到底舉

グルニ違ガ無イ。

第十章 調 査

本試験地デ行フ研究、試験等ノウチ殆不斷ニアルモノハ各演習林ヨリノ要求ニ應ジテ行フ種々ノ小試験及種子發芽試験(主トシテ演習林ニ於テ使用スルモノニ就テ)デアルガ尙年々計画的ニ行フモノニ就テ記セバ

既ニ完了セルモノトシテハ

A. 苗圃土壤ニ對スル4要素 (N, P₂O₅, K₂O, CaO) 試験

材料 「スギ」「ケヤキ」「コノテガシハ」

B. 庇陰ト苗木成長トノ關係

a. 庇陰度ト生長 b. 庇陰度ト土温、氣温、關係の温度ノ相關 c. 照光投射時間ト生長

C. 林木ノ肥大生長ニ關スル研究

目下續行中ノモノトシテハ

D. 窒素肥料肥効比較

硫安、智利硝石、石灰窒素、菜種粕、大豆粕、綿實粕、人糞尿、堆肥等ヲ「ヒノキ」ノ苗木ヲ用ヒテ試験ス。

E. 窒素肥料施肥適期試験

速効性窒素肥料ヲ月別ニ施肥シテ肥効最大ノ時ヲ定メントス

F. 播種ノ月ト年生長量トノ關係

「スギ」「ヒノキ」「クロマツ」ニツキ播種ノ月ガ苗木ノ生育ニ如何ナル關係アルヤヲ知ラントス

G. 挿木ニ關スル研究

a. 挿木ノ時期 b. 挿木ノ部分 c. 挿木ノ豫備處理

例ヘバ藥劑浸漬、藥劑塗布、温度變化、電氣及諸種ノ光線ニヨル刺激、外傷ニヨル刺激等々

H. 林木ト水分要求量

a. 樹種ト水分要求量(各種ノ苗木ニ就テ)

b. 土温ト水分要求量(本項以下「スギ」ノ苗木ヲ材料トス)

c. 氣温ト水分要求量

d. 關係温度ト水分要求量

- e. 庇陰ト水分要求量
- I. 土壤ノ物理的性質ト苗木特ニ根部ノ發育ノ關係
- J. 林木有効成分ノ抽出
 - 各種濃度ノ酸ニヨル抽出成分量ト其土壤上ノ生長狀態トヲ調査シテ研究ヲ進メントスル。
- K. 施肥ノ種類ト地下排水ノ關係並ニ苗木ノ吸收狀態
- L. 木材腐蝕菌並ニ防腐ニ關スル研究
 - 而シテ最近開始スベク準備中ノモノハ
- M. 林木ノ酸性土壤ニ對スル抵抗性
- N. 發芽試驗ニ關スル研究
 - a. 種子消毒法ト發芽率 b. 發芽刺激法(溫度變化、藥劑、電氣、光線等) c. 種子貯藏中ノ溫度ト發芽力保存 d. 種子ノ熟度ト發芽率

第十一章 雜

本試驗地在勤職員ハ現ニ助手1、囑託1、雇員1、定夫1、ナルモ將來ハ少クトモ助教授1、助手3、雇員3、定夫2、位ニシタイト思フ。現在林學教室ノ職員ハ多少ノ別コソアレ本試驗地ノ仕事ニ從事シテ居リ之ハ今後モ勿論スクアルベキハ試驗地ノ性質ヨリ見テ當然デアラウ。

最後ニ本試驗地ノ收支一覽表ヲ掲ゲテ本篇ノ記事ヲ終ル。

支 出

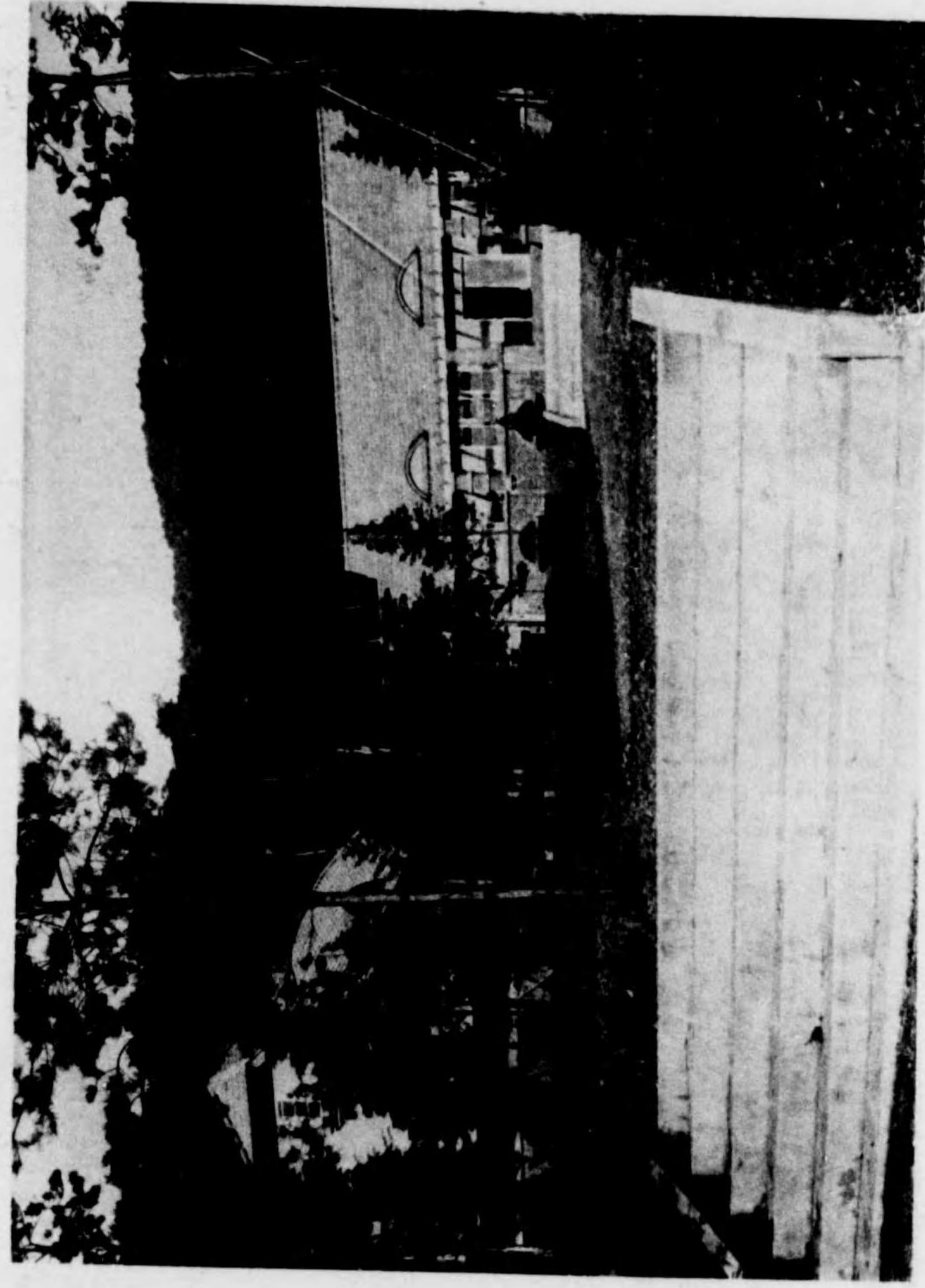
年 度	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習林費	各所修繕	合 計
大 正 15 昭 和 元	0	0	5,389	668	6,057
2	0	770	8,779	127	9,676
計	0	770	14,168	795	15,733

農場及演習林費内譯

年度	備品	圖書印刷	消耗品	通信運搬費	實驗費	動物費	肥料購買	種苗購買	内國旅費	給與	雇員給	傭人料	被服費	雜費
15	3,199	1	170	0	323	0	21	22	0	0	0	1,650	0	0
2	4,071	517	392	1	946	0	28	40	0	560	515	1,657	0	52
計	7,270	518	562	1	1,269	0	49	62	0	560	515	3,307	0	52

收 入

年 度	種 類	數 量	價 格	備 考
大 15 昭 2	不 要 苗 木	3.169 ^本	281.35 ^円	
	不 要 苗 木	6.636	182.25	
合 計		9.805	463.60	



上野實地試驗地事務所及作業室 (演)

第四篇 上賀茂試験地

第一章 概 況

京都帝國大學農學部附屬演習林上賀茂試験地ハ京都府 愛宕郡 上賀茂村 大字 上賀茂ニ在リ、面積 3ha8619元ハ本山國有林ノ一部ナリシガ大正15年9月之ヲ買收シ同年11月維持資金ニ編入セラレタ。

前篇ニモ記シタル如ク農學部構内ノ本部試験地ガ狹隘ヲ告グルニ至リタル爲ニ此地ヲ購入セルモノデアリ從ツテ其目的、施業ノ方法等ハ本部試験地ニ就キ述ベタルト略々同様デアル。

第二章 地 況

大學ヲ距ツル北方約3km上賀茂別雷神社境内林ノ盡キントスル處ニ蟻ヶ池、小池ノ兩池アリ、其東北方ニ丘陵地アリテ附近一帶ハ本山國有林デアルガ此丘陵ノ西南山麓池ニ臨ム緩傾斜地ガ本試験地デ海拔95m ヨリ119m ニ亘リ東北ハ國有林(「アカマツ」林下ニ「ヒノキ」ヲ混ズル林相ヲ有ス)西南ハ別雷神社境内林ニ接シ狹長ノ一帯地ヲ距テ、兩池ニ臨ム。

地質ハ一帯ニ稍々深キ洪積土ニ被ハレ基岩ノ露出セルヲ見ズ、腐植質ノ堆積甚數所アルモ土質ハ概ネ良好デアル、氣象ハ昭和3年度ヨリ観測ヲ開始シタノデ未ダ報告スル材料ニ乏シイ。

第三章 林 況

國有林時代ニ「ヒノキ」ヲ人工植栽シタルモ後ニ之ヲ放置セル爲上方一帶ノ「アカマツ」林ヨリ天然下種ニヨリ生ゼル「アカマツ」混生シ往々ニシテ「アカマツ」ノ方優勢トナルニ至ツタ、西南方池ニ近キ處ニ生長良好ニシテ樹齡孰レモ15~16年ニシテ高「ヒノキ」ハ5~6m、「アカマツ」ハ6~7mニ及ブ、下木ハ「クヌギ」「クリ」「ツ、ジ類」「サ、類」「ウメモドキ」「アセビ」等叢生シ高サ2~3mニ及ブ、一部分ニ肥料試験ノ爲ニ人工植栽セル「クロチク」林アリ、以上ハ試験地設定當時ノ林相デアルガ爾後施業ニヨリ此原林相ハ現在ニ於テハ約1/3ノ面積ニ於テ之ヲ見ルノミデアル。

第四章 施 業

圖ニ示セル如ク全試験地ヲ幅 4mノ幹線道路及 2mノ區劃線道路ニ依リ30區ニ分チ 1~20區ハ地



左ハ作業室右ハ事務所側面 (演)



上賀茂試験地ノ一隅 (演)

形ノ許ス限リ正方形トシ其完全ナル形ヲナセルモノハ各邊30mノ正方形デアル。

第1區ハ本部試験地ニ於テ播種養苗シタル本邦各地産「スギ」ヲ植栽シ生長其他ノ比較試験ニ用ユ、
即區ノ北方ヨリ順次

大阪、静岡、熊野、高知(魚梁瀬)、秋田、東京、長野、千葉、埼玉(大瀧村)、新潟、秋田(荷揚場)、高知

ノ原産ノモノヲ昭和2年秋ニ植栽シタ。

第2區ニハ本部試験地ニ於テ播種養苗シタル丹波産「スギ」ヲ植栽シ諸種ノ試験ニ供スル、之ハ昭和2年春ノ造林ニ係ル。

第3區ニハ本部試験地ニ於テ播種養苗シタル本邦各地産「アカマツ」ヲ植栽シ生長其他ノ比較試験ヲ行フニ用フル、即區ノ北方ヨリ順次ニ次ノモノヲ昭和2年秋ニ植ヘタ。

千葉、高知、岡山、茨城、福岡、埼玉(精明村)、愛知、埼玉、霧島山、鹿児島

第4區ニハ元來存シタル15年生前後ノ「アカマツ」ヲ其儘殘存セシメ其稀薄ナル個所ニハ隣接諸區ヨリ同様ノ「アカマツ」ヲ昭和2年秋移植シテ以テ「アカマツ」ノ小林分ヲ形成シタ。

第5區ハ原林相ヲ保存シテアル。

第6區ハ本邦産及支那産ノ「キリ」ノ植栽地デ各種ノ試験ニ用ヒテ居ル。

第7區ニハ多少原林相ヲ保存シ林下ニ「ケヤキ」「ヤマハンノキ」ヲ昭和3年春ニ造林シタガ上層木ハ早晚除去シテ植栽樹種ノミノ森林トスル豫定デアル。

第8區ニハ前區同様ノ取扱ヲ施シ樹種ハ「シラカシ」及「クス」トス、今後ノ取扱亦前區ニ準ズ。

第9、10區ハ原林相ヲ保存シテ専ラ植生調査ノ實習ニ用ヒテ居ル。

第11區ハ特殊ノ「スギ」ノ試験區トシ現ニ北方ヨリ順次ニ次記ノモノヲ挿木造林シテ居ル。(昭和3年春)

但馬秋岡、鳥取、京都臺杉、宮崎飯肥杉、宮崎荒皮杉

此區尙餘地アリ、漸次多種類ノ「スギ」ヲ作ル豫定デアル。

第12區ハ本試験地内ニ存シタル15年生前後ノ「ヒノキ」ヲ移植シテ其純林ヲ作り諸種ノ研究ニ資ス。

第13區ハ第3區ノ繼續ニシテ即次ノ諸地原産ノ「アカマツ」ヲ本部試験地ニ於テ播種養苗シタルモノヲ昭和3年春ニ造林シタ。

千葉、山口、沼宮内、奈良

尙此外ニ比較ノ爲ニ「ドイツアカマツ」及「リウキウアカマツ」モ造林シテアル。

第14區ハ濕地性植物ヲ育成試験スル區域トシ其大部分ハ未着手ニシテ僅カニ若干ノ落羽松ガ昭和3年秋ニ造林セラレテ居ル。

第15區ハ原林相ヲ保存シテアル。

第16區ハ各種「タケ類」ノ植栽地(昭和2年)

第17區ハ昭和2年晩春ニ「マダケ」「ハチク」「マウサウチク」ノ林分ヲ作ツタ。

第18區ハ「カラマツ」「クロマツ」ガ造林セラレテ居ル。

第19區ハ未着手

第20區ハ原林相保存

第21區ハ和風庭園トシ造園學ノ研究ニ資スルト共ニ造園用樹種ノ見本園タラシムベク目下工事中ニ屬ス。

第22區ハ氣象觀測用露場、土壤試験區、フレイム等ノ所在地域デアル。

第23區ハ苗圃トス。

第24區ハ母樹ノ年齢ヲ異ニセル「スギ」ヲ造林シテ其生長其他ヲ比較研究セントシ丹波産ノ夫々5、10、20、30、40、50、300年生ノ特定母樹ヨリ採集セル種子ヲ本部試験地ニ於テ播種育成シタルモノヲ此區域ニ造林シタ。

第25區ニハ特殊植物主トシテ果樹類ヲ植エタ。

第26區ハ建物敷地デアル。

第27區ハ洋風庭園トシ造園學ノ研究ニ資スルト共ニ外國原産ノ觀賞用樹木ノ見本園タラシムベク工事中デアル。

第28區ハ其東北部分ヲ「マツタケ」ノ試験栽培地トシタル外ハ原林相ヲ保存シテアル。

第29區ハ今尙原林相ヲ保存シアルモ將來ハ森林有益鳥獸ノ飼育地トスル豫定デアル。

第30區ハ境界ニ沿フ狭長ノ帶狀地ニシテ森林植物ヲ見本ニ植栽スル豫定デアルガ其業未ダ半ニモ達セス。

第五章 造 林 (略)

第六章 保 護 (略)

第七章 利 用

現在ハ主トシテ試験用樹木ノ造林ヲ爲シテ居ルノデアルカラ近キ將來ニ於テハ利用事業ハ無キ筈

ナルモ間々不用樹木又ハ枯損木等ヲ生ジ之ハ適宜拂下ヲ爲シテ居ル、詳細ハ第十一章ニ譲ル。

第八章 土木及建築

本試験地ハ鞍馬街道ヨリ入ルコト約 300m 其間僅カニ畦畔ヲ傳フニ過ギザルヲ以テ近ク之ヲ車道トスベク計劃中デアル。

建物ハ農學部ノ建物2棟アリ之ヲ借用シ逐次附帯工事ヲ加ヘテ之ヲ事務室、研究室、作業室、製圖室、實驗室、宿直室、倉庫其他ニ分チ用ヒテ居リ近ク熱帯産樹木ノ研究ニ資スル爲ニ温室ノ建築ヲ爲サント計劃中デアル。

既往ニオケル建築關係ノ支出ハ次ノ如クデアル。

名 稱	構 造	數 量	價 格	年 度	起 工	備 考	
試 驗 室	木造平家建地下室附	建 延	47,500 68,500	14,440,000	昭和 2	2. 7.13 2.11. 5	新 築
”	木造平家建		28,000	4,760,000	” 2	2. 7.13 2.11. 5	”
同附屬硝子室	”		4,700	702,500	” 2	3. 2.16 3. 3.30	”
水 道			1,000	513,000	” 2	2.12. 8 2.12.20	新 設
下 水			1,000	67,000	” 2	2.12. 8 2.12.20	”
照 明 装 置			1,000	284,390	” 2	3. 2. 3 3. 3.15	”
電 力 装 置			1,000	186,110	” 2	3. 2. 3 3. 3.15	”

第九章 演 習

學生ハ殆常時本試験地ヲ利用シテ演習シ其種類亦多種多様ニシテ一々舉グル事能ハス。

第十章 調 査

本試験地ニオケル研究、調査亦常時教官、學生等之ヲ行ヒ其種類ハ到底舉グルニ遑無キモ計劃的ニ實行セルモノ、内其主要ナルモノヲ掲グレバ次ノ如クデアル。

既ニ完了セルモノトシテハ

A. 「キリ」ニ對スル3要素試験

目下施行中ノモノトシテハ

B. 「マツタケ」「シメジ」人工播下試験

a. 菌糸、胞子ノ播下比較

b. 林地ニ施肥根切り等豫備處理ヲ爲スコト、播下方法トヲ總テ組合ハセテ比較

C. 「ナメ」「キクラゲ」「ヒラタケ」其他ノ食用菌草人工栽培

D. 「クロマツ」ノ生長ニ對スル「ヒメヤシヤブシ」混植ノ効果

E. 各地産「スギ」ノ生長其他比較試験

F. 各地産「アカマツ」ノ生長其他比較試験

G. 母樹ノ年齢ヲ異ニスル「スギ」ノ生長其他比較試験

H. 林内蜜蜂飼育探蜜試験

更ニ近ク開始セントスル事項ハ

I. 「キリ」ニ對スル窒素肥料肥効比較

J. 「キリ」ニ對スル生長ト温度トノ關係

K. 「キリ」ニ對スル生長ト土濕トノ關係

L. 「キリ」ニ對スル生長ト臺切トノ關係

M. 「キリ」ニ對スル施肥期試験

N. 地下水位ノ高サト「スギ」發育ノ關係

O. 森林土壤酸度ノ年變化

P. 林木材部成分ノ年變化

Q. 林内ニ有益鳥獸ノ飼育試験

第十一章 雜

本試験地在勤職員ハ現ニ助手(兼任)1、雇員2、定夫1ナルモ將來ハ少クトモ助教授1、助手2、雇員2、定夫2位ニシタイト思フ、現在林學教室ノ職員ハ多少ノ別コソアレ本試験地ノ仕事ニ從事シテ居リ之ハ今後モ勿論スアルベキコト試験地ノ性質ヨリ見テ當然ノ事デアラウ。

最後ニ本試験地ノ收支一覽表ヲ掲ゲテ置ク。

支 出 (經常部)

年 度	目	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習 林費	各所修繕	合 計
大正15	元	0	0	6.784	0	6.784
昭和2	元	0	0	4.770	392	5.162
	計	0	0	11.554	392	11.946

農場及演習林費内譯

年 度	備品	圖書印刷	消耗品	通信運搬	實驗費	動物費	肥料購買	種苗購買	内國旅費	給與	雇員給	傭人料	被服費	雜費
大正15	2.219	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	4.521	0	0
昭和2	554	23	78	37	19	35	0	31	0	293	1.148	2.417	0	117
	計	2.773	23	121	37	19	35	31	0	293	1.148	6.938	0	117

支 出 (臨時部)

建物ニ關スルモノハ別トシ土地買收費ハ

大正15年度 苗圃地買收 2462圓

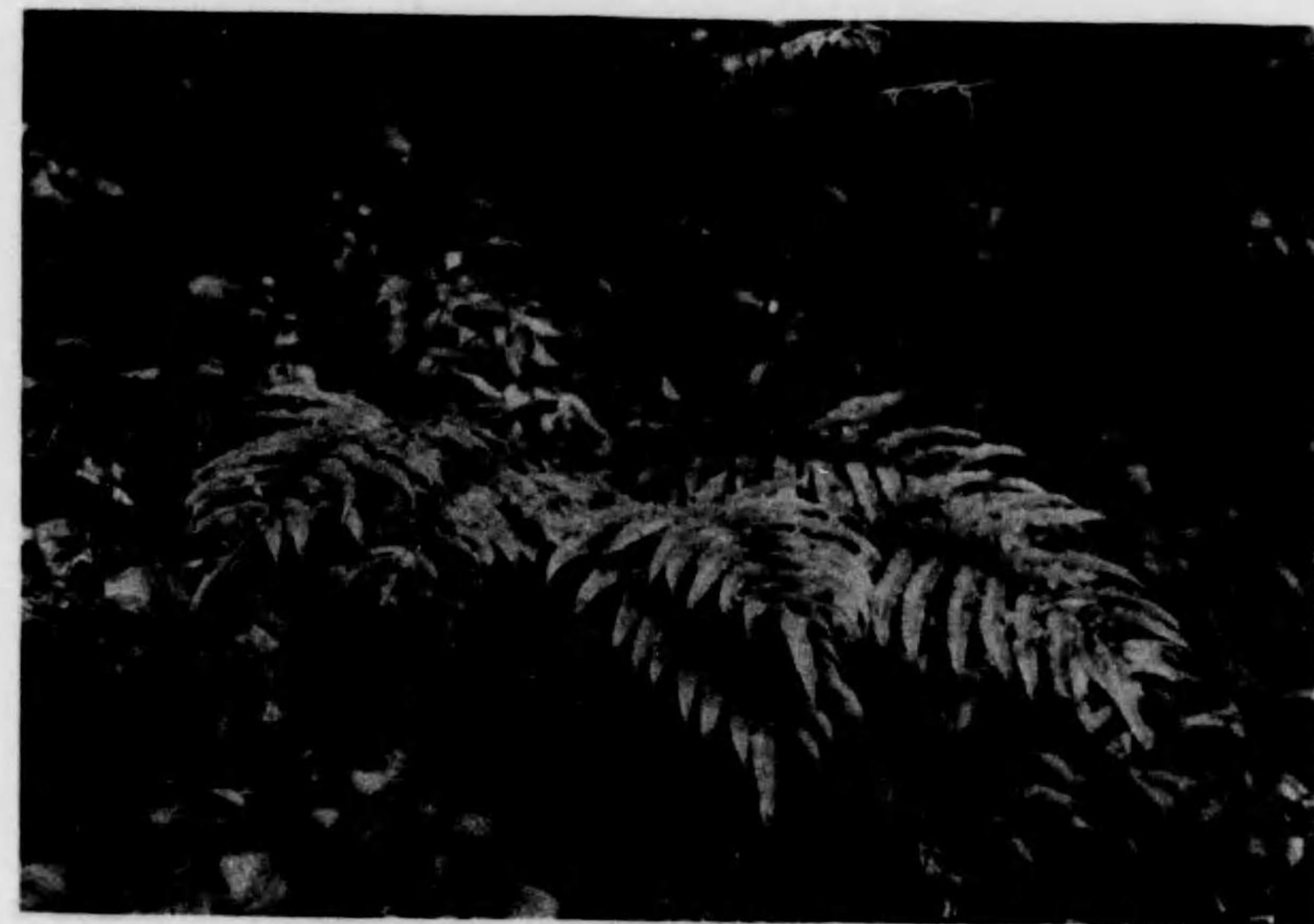
收 入

年 度	種 類	數 量	價 格	備 考
昭和2	末木枝條等拂下	2.850 本 685	126.96 円	
合 計			126.96	



「ヤマソテツ」ノ群落(多少ノ「リヤウメンシダ」ヲ混ズ)

(武田)



「キジノヲ」

(武田)



伏條ニヨリ盛ニ成立シツ、アル「スギ」ノ稚樹

(武田)



上木(フナ)ニ壓セラレツ、尙生長スル「スギ」

(武田)



上木(ミヅナラ)ノ樹冠ヲ破リテ抽出セントスル「スギ」(上谷附近)

(武田)



終ニ潤葉樹ヲ征服シタル「スギ」林(中山作業所附近)

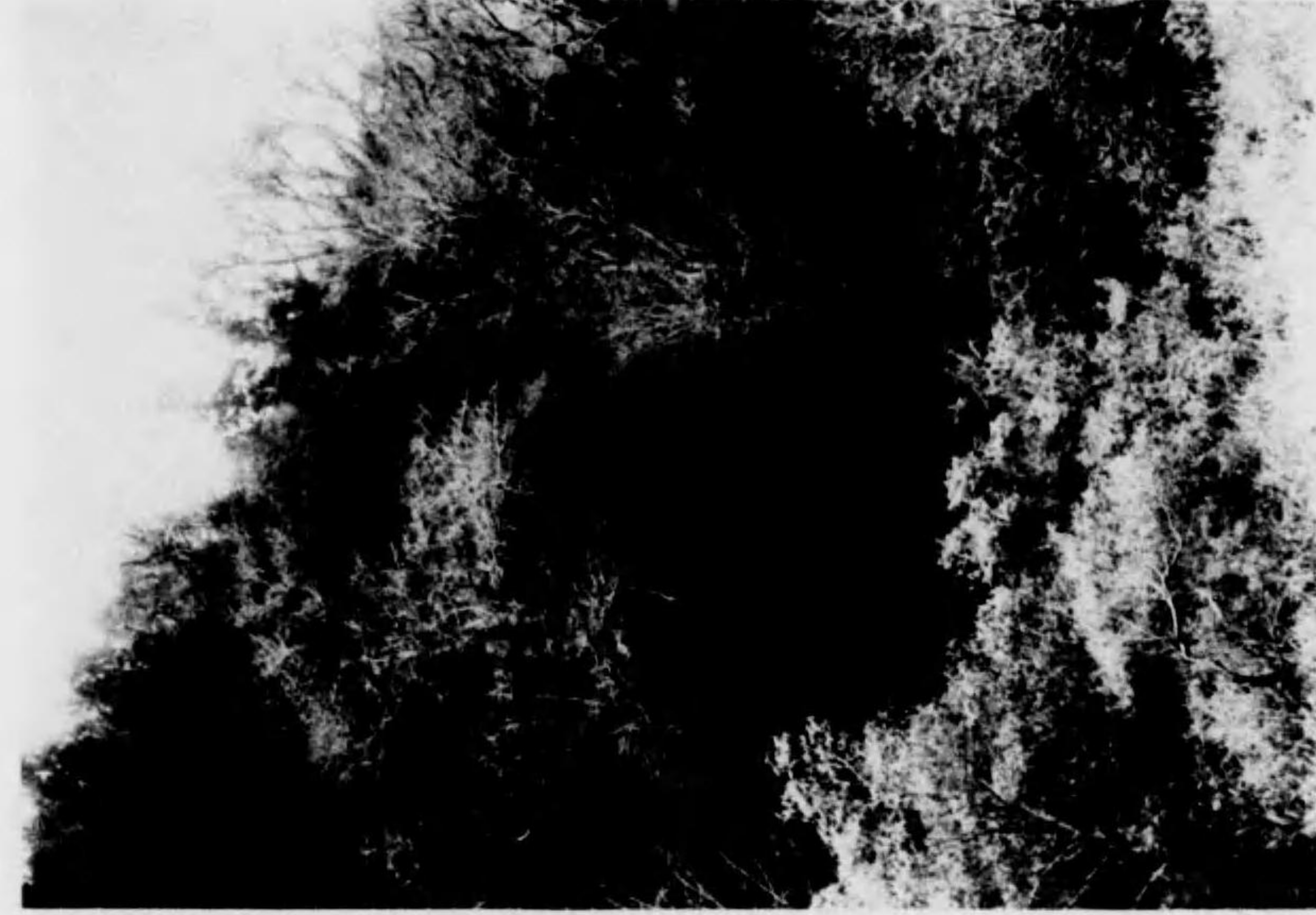
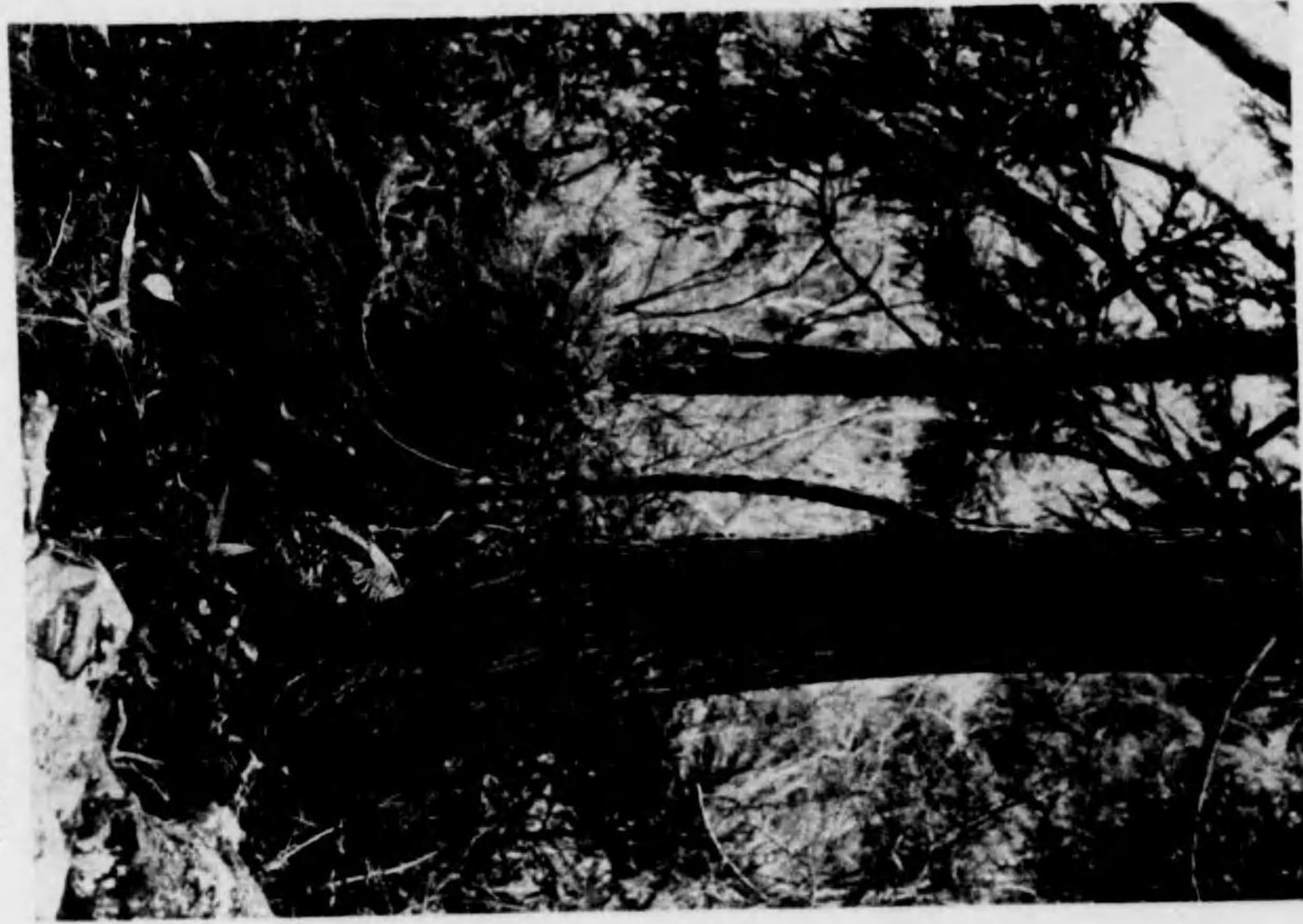
(武田)

「ミヅナカラ」ト「スギ」(三ノ谷頭)

(武田)



「スギ」ノ側枝地上「シロ」ヲリ下ホケテ伏篠トナレルモノ (武田)



「ミヅナカラ」ト「スギ」(野田畑ノ對岸)

(武田)



「アブナ」ト「スギ」(八雷山)

(武田)

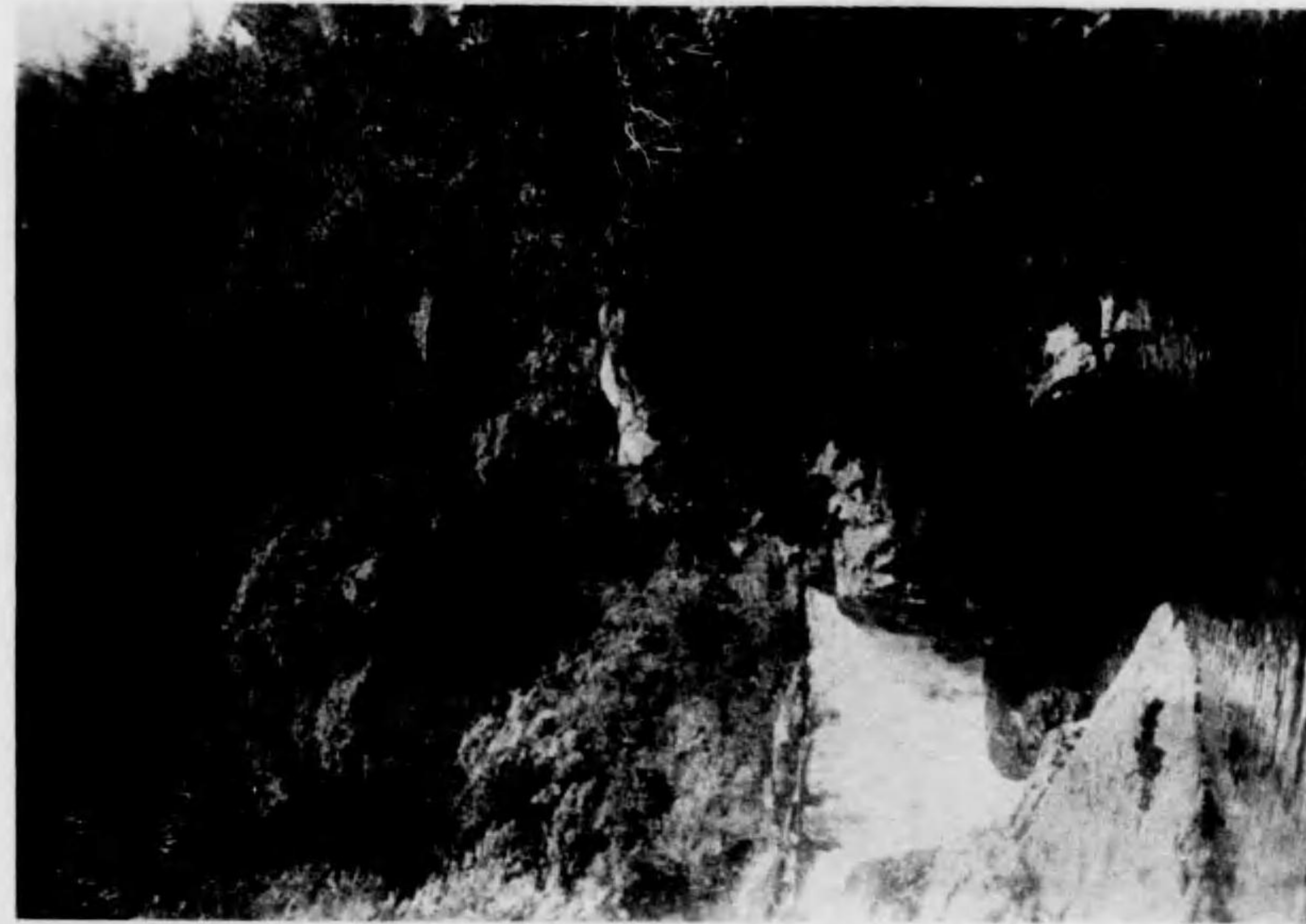


(演)



(演)

(左) (F)
峯 谷
筋 筋
ノ ノ
林 林
相 相



(演)

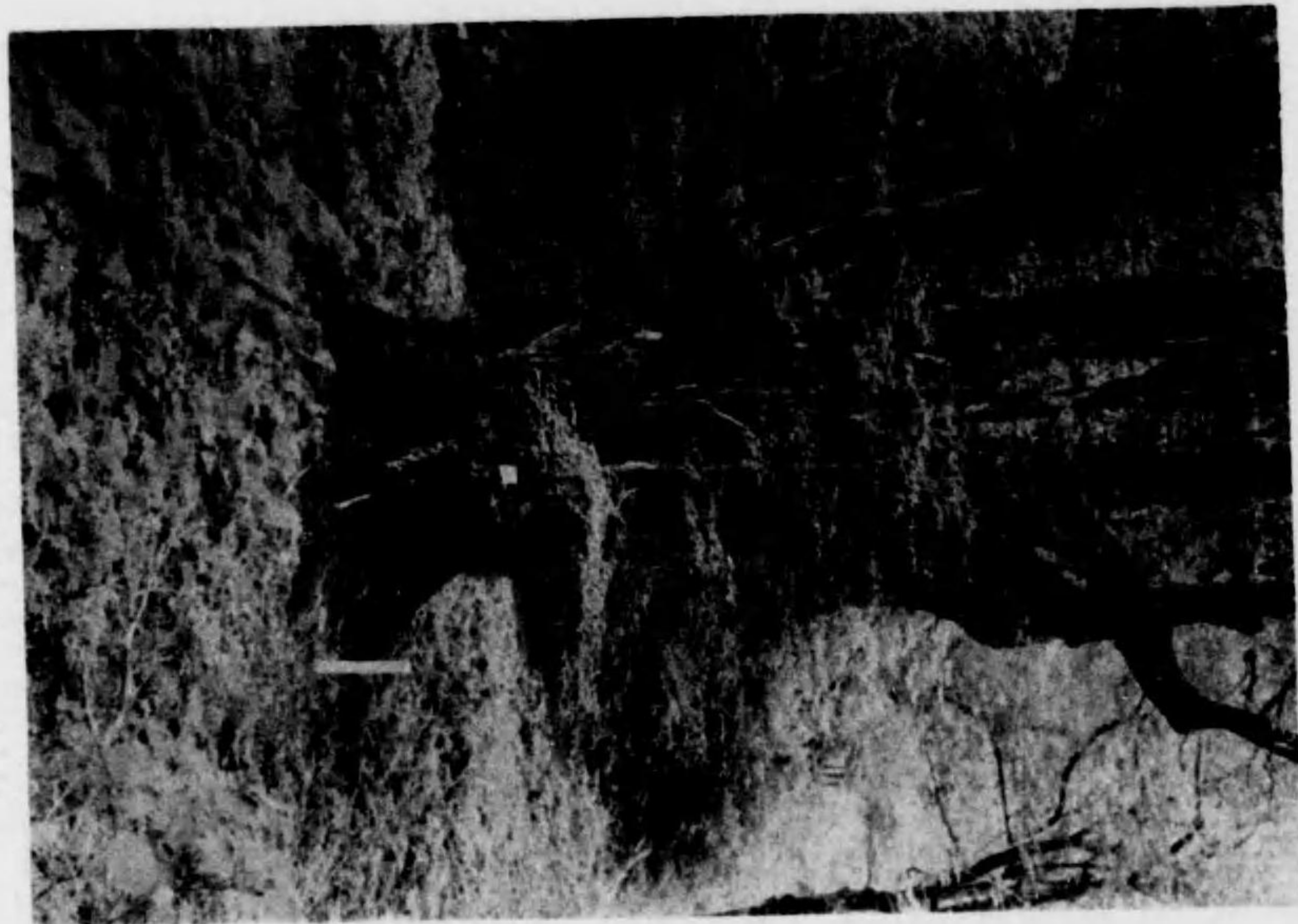
大 壺



(武田)

大志(左岸ノ灌木叢ハ「ホンシヤクナゲ」)

林内最大ノ樹木「カウツラ」(保存本第1號) (小林)



連理ノ「ミツナラ」(保存本第3號) (源)



下谷ノ潤葉樹林 (小林)



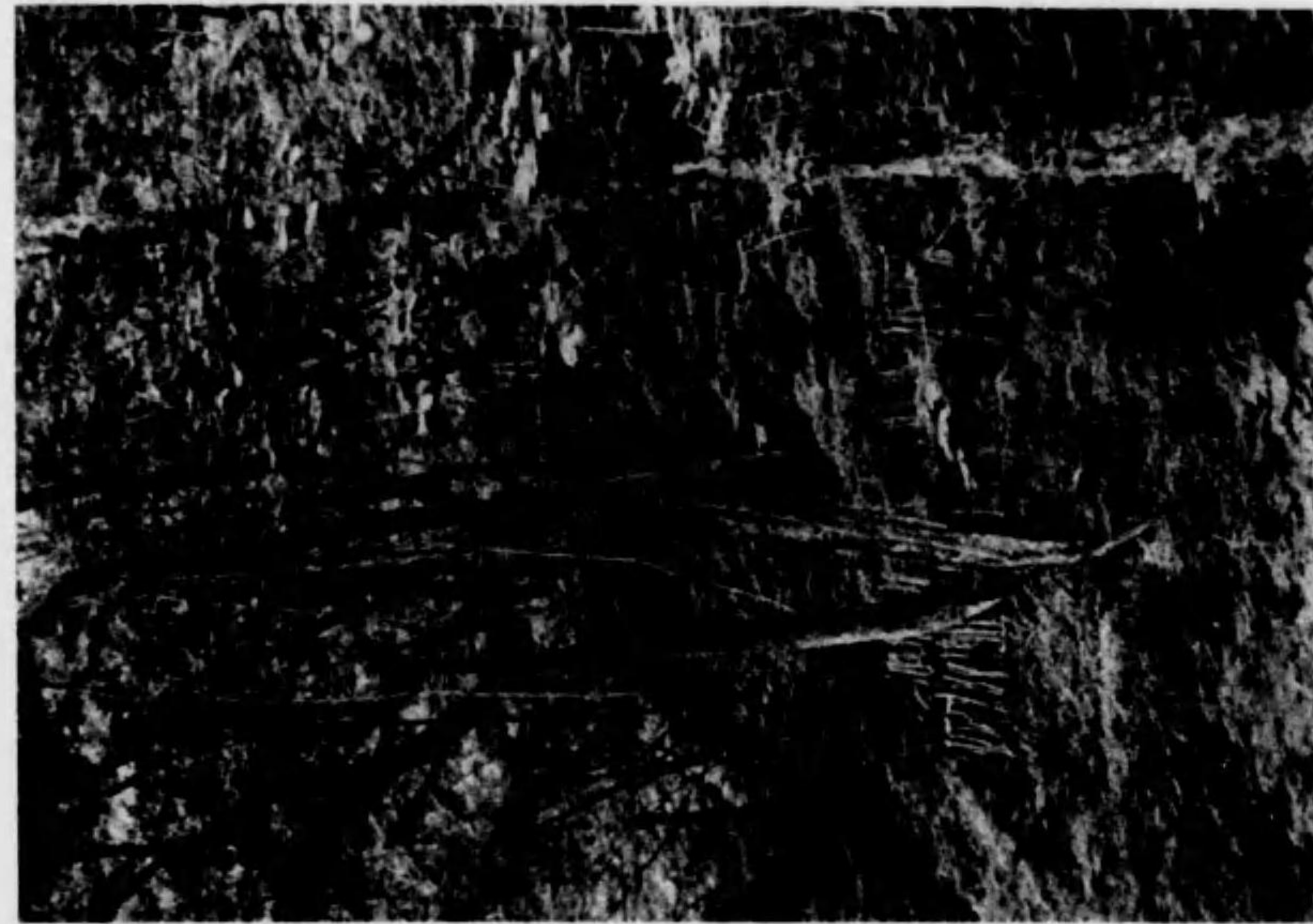
中山盆地ノ一部分 (武田)



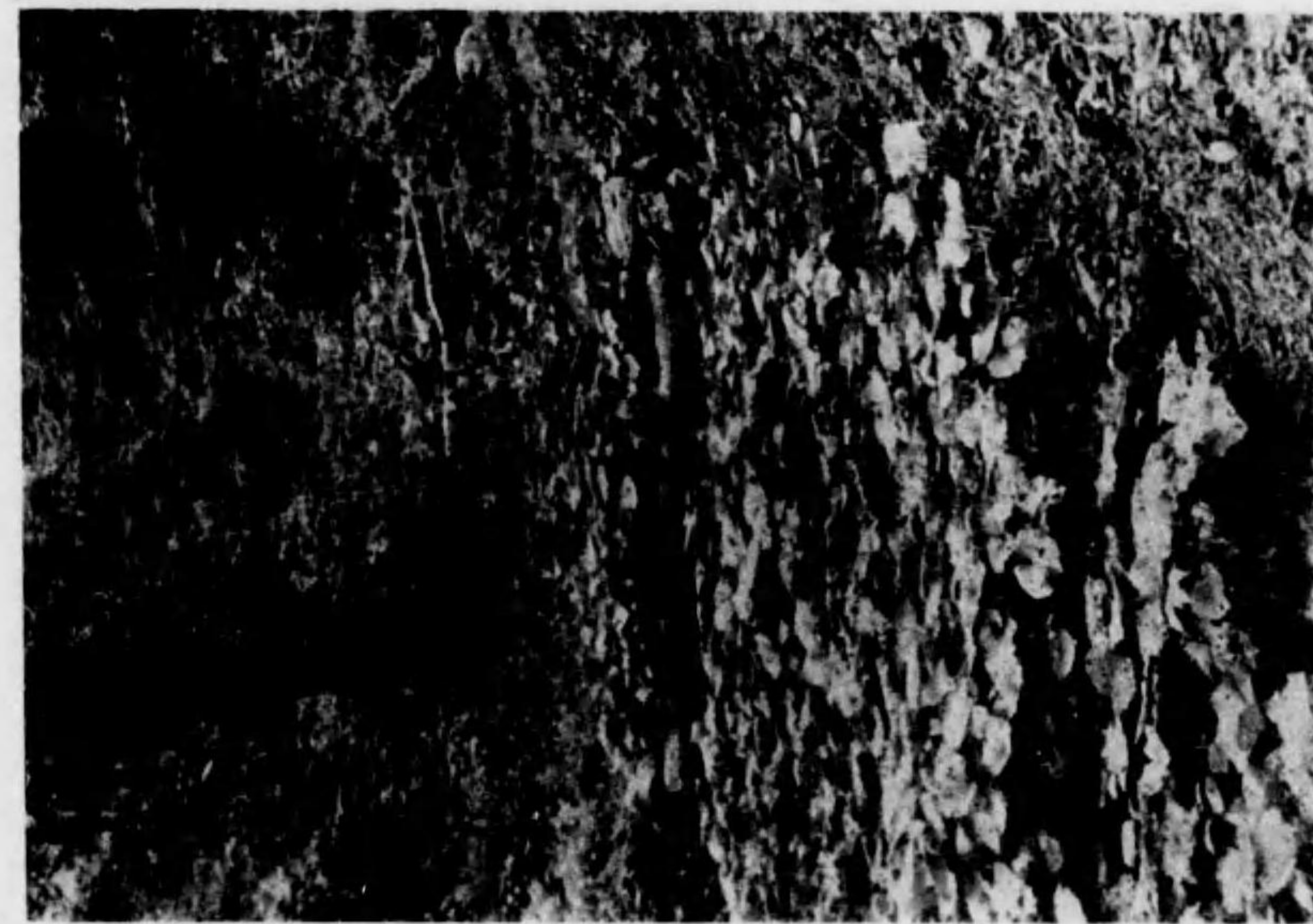
「スギ」ノ伏條 (武田)



自然ニ發生セル「ナメコ」 (武田)



椎茸栽培場 (内杉谷) (小林)



ワサビ畑 (内杉谷) (小林)



(演) 榎木ニ發生セル椎茸



(演)



(左) 榎木ニ發生セル椎茸
(下) 椎茸乾燥場

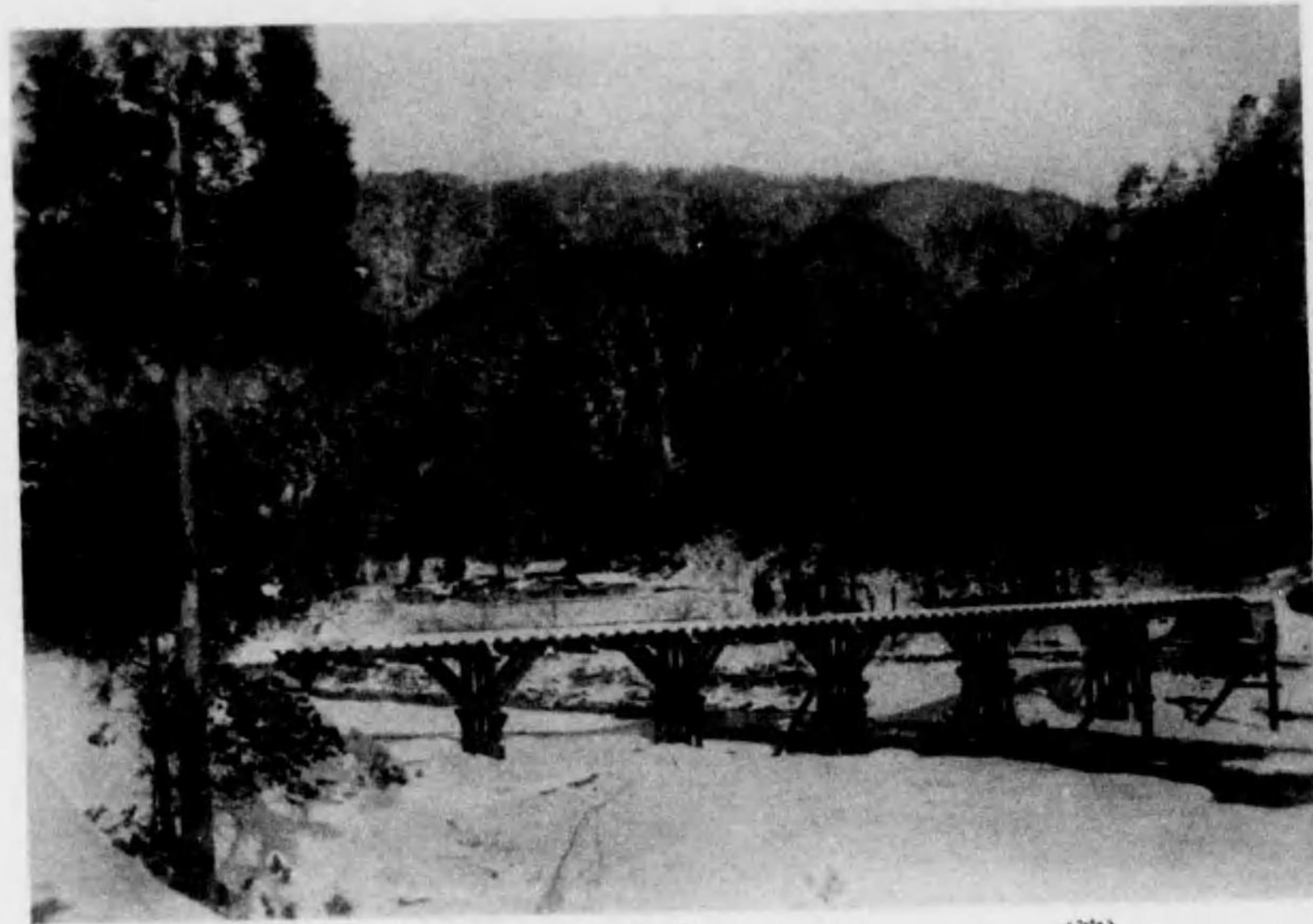
(演)



(演)



芦生演習林事務所 (演)



森林軌道由良川橋梁 (演)



「ブナ」ノ大瘤
(保存木第4號)

(栗田)



林道開墾工事

第五篇 蘆生演習林

第一章 概 況

京都帝國大學農學部附屬蘆生演習林ハ京都府北桑田郡知井村字蘆生ニ在リ小字蘆生奥、櫃倉、小野子谷ニ跨リ臺帳面積2209町ナルモ概測ノ結果ハ4129ha、外ニ同ジ大字ノ内小字斧蛇ニ事務所及苗圃地0.7342haガアリ尙演習林外ニ林道敷地トシテ4.0561haノ地ガアル。

林地ハ元ハ知井村大字南、北、中、江和、田歌、蘆生、河内谷、白石、佐々里ノ計9字ノ共有山林ナリシモ大正10年4月4日ヨリ99年ノ地上權ヲ設定シタルモノデアリ其地上權設定證書ハ次ノ如クデアル。

地上權設定證書

一、地上權設定ノ土地及範圍

京都府北桑田郡知井村大字蘆生小字蘆生奥櫃倉谷壹番地

一、山林臺帳反別 拾貳町九畝拾五歩

同 上 小字小野コ谷貳番地

一、山林臺帳反別 百九拾參町參反參畝拾歩

同 上 小字蘆生奥參番地

一、山林臺帳反別 壹町七反歩

同 上 小字蘆生奥櫃倉谷四番地

一、山林臺帳反別 壹町四反九畝拾八歩

同 上 小字蘆生奥五番地

一、山林臺帳反別 七反壹畝貳拾貳歩

同 上 小字蘆生奥六番地

一、山林臺帳反別 貳町八反九畝貳拾歩

同 上 小字蘆生奥七番地

一、山林臺帳反別 壹千九百九拾六町八反歩

計 山林臺帳反別 貳千貳百九町參畝貳拾五歩

内小字蘆生奥七番地中灰ノ谷ヲ除ク

別紙圖書ノ通

二、地上權設定ノ目的

京都帝國大學ニ於テ學術研究及實地演習ノ目的ヲ以テ造林事業ヲ施行スルモノトス

三、地上權存續期間

大正拾年四月四日ヨリ向フ九拾九ケ年トス 伊樹木生育ノ狀況若クハ事業經營ノ都合又ハ伐採期ニ際シ價格低廉等ノ爲メ地上權者ニ於テ伐採ヲ延期スル必要ヲ認メタル場合ニアリテハ土地所有者ト協議ノ上拾ケ年以内ニ於テ更ニ期間ヲ延長スルコトヲ得

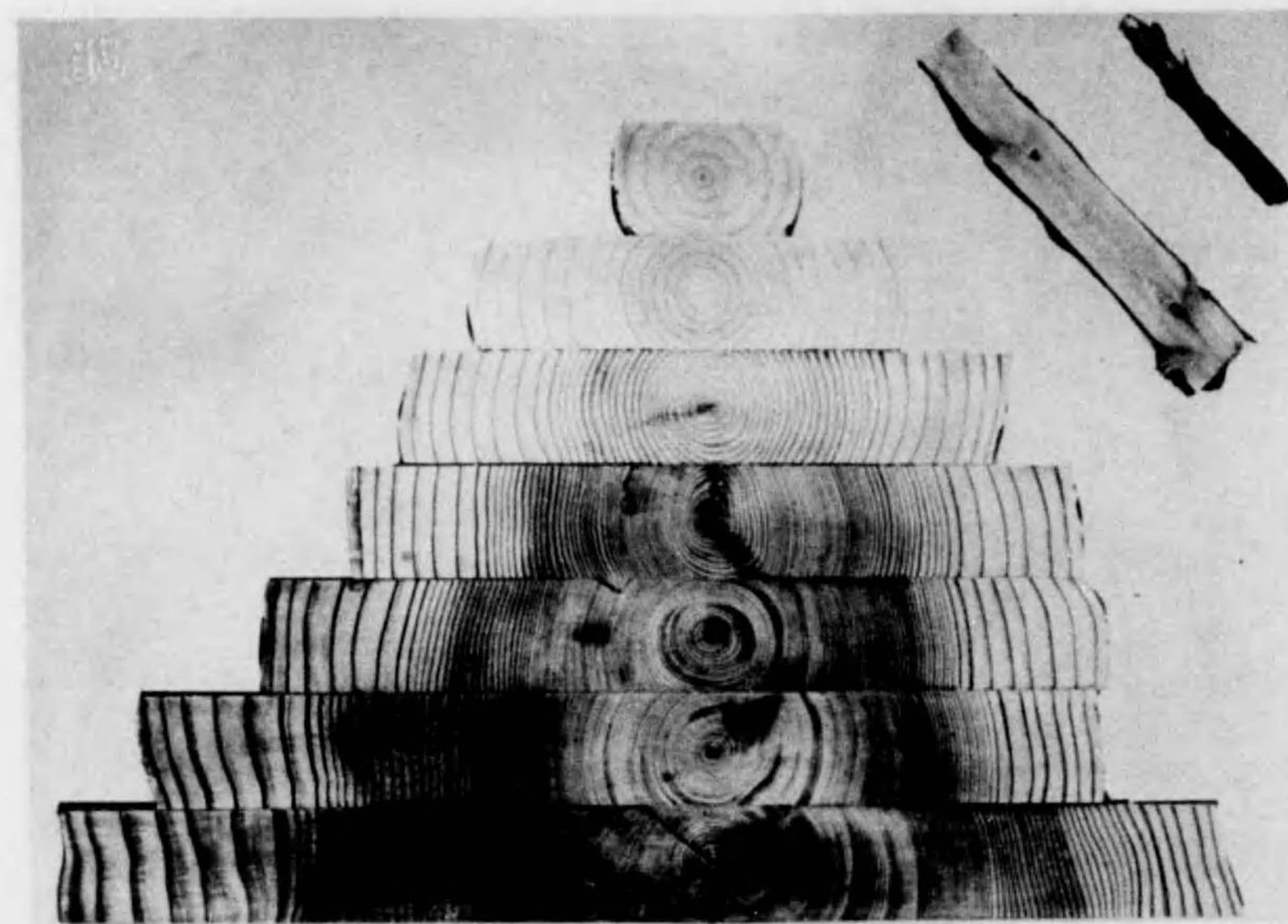
四、收益ニ對スル權利

土地所有者ハ本契約成立年度ヨリ向フ五ケ年間ハ毎年金五萬圓宛其後參拾五ケ年間ハ毎年金壹萬圓宛收



蘆生演習林模型(白色部分ガ演習林ナリ)

(演)



滿8年前ニ障害木ヲ除却シテ生長ヲ促進セシメタル「スギ」

(演)

益ヲ取得シ其後ハ造林事業ニ依リ造成シタル立木處分ノ結果生スル收益ノ二分ノ壹ヲ取得ス
右條項ニ依リ京都帝國大學總長ト土地所有者トノ間ニ地上權ヲ設定スルコトヲ契約シ證書ニ通テ作製シ双方署名捺印ノ上各其壹通ヲ領置ス

大正拾年四月四日

土地所有者

北桑田郡知井村大字南外ハケ字代表者

北桑田郡知井村長 中野吉太郎

地上權者

京都帝國大學總長 荒木寅三郎

契約書

大正拾年四月四日締結ニ係ル京都府北桑田郡知井村大字南外ハケ字小字南外ハケ字農園倉谷壹番地外ハケ字ニ對スル地上權設定證書第四項前段ニ定メタル契約成立後四拾ケ年間ニ於ケル收益取得ノ權利ヲ土地所有者ヨリ地上權者ニ讓渡シ其ノ代價トシテ大正拾貳年度ニ於テ金貳拾貳萬圓也ヲ地上權者ヨリ土地所有者ニ支拂ヒ同項全文ヲ左ノ通改ムルコトヲ約ス 但シ前掲金額ハ既ニ土地所有者ガ取得セル收益金壹萬參百圓貳拾錢ヲ包含スルモノトス
四、地上權設定ニ對スル土地所有者ノ權利

土地所有者ハ造林事業ニ依リ立木處分ノ結果生スル收益ノ二分ノ壹ヲ取得ス 但シ前記造林事業トハ契約成立ノ日ニ於ケル立木ヲ伐採シタル後天然及人工造林ニ依リ立木ノ造成ヲ謂ヒ收益トハ立木處分ノ際ニ於ケル其由元代價ヲ謂フ

右契約ノ證トシテ同文證書貳通ヲ作り双方署名捺印ノ上各壹通ヲ領置ス

大正拾貳年四月貳拾五日

土地所有者

北桑田郡知井村大字南外ハケ字管理者

北桑田郡知井村長 外田重治郎

地上權者

京都帝國大學總長 荒木寅三郎

事務所敷地、苗圃地ハ大正12年3月買収、附屬地ハ大正13年8月寄附ヲ受領セルモノヲ執レモ本學維持資金ニ編入セラレテ居ル。林道敷地ハ未ダ手續ヲ完了シテ居ラス。

演習林トナルヤ直チニ施業ヲ開始シタルモ當時農學部未ダ創立セラレズ技術者ニ乏シクシテ到底完全ナル施業ヲ爲ス能ハザルベキヲ思ヒ積極的ニ事業ハタベ1年ヲ以テ直ニ中止シ爾後專ラ完全ニ林地ヲ管理スルヲ目的トスル消極的施業ヲ執ルコト、シ即特ニ施業案ヲ作ラズ大體ノ施業方針ヲ定メ之ニ從ヒ毎年若干ノ事業ヲ爲シタルニ止マル、農學部創設以後教官逐次海外ヨリ歸朝シ周到ナル調査ヲ行フコト數次ニシテ本演習林ノ學術上ノ價值ハ調査ヲ進ムルニ從ヒ増大スルヲ知り終ニ從來部分的ニ作ラレタル施業ノ計劃ハ一切之ヲ放棄シテ專ラ此國寶ノ森林ニ最理想的ナル施業ヲ爲サントシテ部分的ニ全然新規ニ施業計劃ヲ立案シツ、アリト雖全林ニ亘リテ之ヲ編成スルハ日尙遠キニ在ルヲ思フ、恰本演習林ハ京都ヨリ1日行程ニシテ教官學生ノ往復ニ至便ニシテ日常直接之ヲ監督スルノ便宜アルガ故ニ拙速主義ヲ捨テ、施業案ノ編成ヲ急ガズ、本森林ノ重要性ニ鑑ミ最高程度ノ理

想的案ヲ樹立センコトヲ期シテ居ル。

本演習林ノ特徴中最主要ナルモノハ

(1) 「スギ」ノ郷土ノ中心ト認ムベキ事ニシテ本邦林木中ノ王トモ稱スベキ「スギ」ノ研究ハ本邦林學林業ノ中樞ヲ爲シ而シテ其研究ニ最適スルハ其郷土ナルコト勿論ニシテ而シテ本演習林ハ正ニ其郷土中ノ郷土トモ稱スベキ本森林ニ類似セル地ハ裏日本ニ於テ必ズシモ絶無ニハ非ザルモ本森林ノ如ク面積其他ノ關係理想的ナルモノハ絶無ト稱スルヲ憚ラヌ。

(2) 寒地性植物ト暖地性植物トが相交ハリテ自生セル點ニ於テモ他ニ多ク比類ヲ見ヌ、例ヘバ暖帶羊齒ノ「イシカグマ」「キジノヲ」アリ而シテ「キジノヲ」ト同屬ノ亞寒帶種ノ「ヤマソテツ」アル事等ハ頗ル興味深キ事項デアル。避遠ノ山奥ニハ或ハ此種地域ノ存セザルニハ非ザルベキモ都會ヨリ1日行程ニシテ斯カル自然ノ大植物園ハ本邦他ニ比類ヲ見ザル所デアル、而シテ本林内ニハ多クノ植物ノ南限界又ハ北限界トモ信ゼラル、處ノモノガアル。

(3) 殆正方形ニ近キ1圍地ニシテ1流域ノ水源ヲ爲シシカモ地形區々ニシテ各種ノ地況ヲ包有シ諸種ノ研究及實習ヲ行フニ本質的ニ適當セル事亦決シテ他ニ多ク求メ得ラル、モノデハナイ。

之ヲ要スルニ總テノ點ニ於テ演習林トシテ本森林程適切ナルモノハ稀デアラウ。

第二章 地 況

第一節 位置、地形、境界及面積

由良川ノ水源ヲ爲セル區域ナルヲ以テ日本海斜面ニ屬スルモ本演習林内ノ流水ハ大體ニ於テ南流シ本林ヲ出デ、ヨリ西折シ流程60kmニシテ初メテ北折シテ日本海ニ向フ、從ツテ全體的ニ見レバ由良川ハ緩流ニシテ太平洋斜面ヨリ本林ニ向ヒテハ急勾配ナク極メテ徐々ニ上昇スル、之ニ反シテ本林ヨリ直チニ日本海ニ向フ時ハ福井縣遠敷郡知三村ヲ通過シテ極メテ急傾斜ヲ以テ下ルコト、ナル蓋シ諸種ノ點ヨリ見テ本演習林ハ多分ニ太平洋斜面の性質ヲ有ツ、或ハ表裏兩日本ノ中間性ヲ有スト云ヘバ更ニ當ルデアラウ。東ハ滋賀縣高島郡朽木村及京都府愛宕郡久多村ニ接シ此方面小丘陵ノ起伏夥シクシテ終ニ琵琶湖ニ出ヅル。西ハ北桑田郡知井村尙延ビテ由良川ニ添ヒ多少ノ平地ヲ有シ南ハ北桑田郡黒田村ニシテ漸次鞍馬山ニ向ツテ下ル。

本林ノ中心ハ135°45'E、35°19'N、東西ニ約6km5、南北ニ約8km延ビ略々正方形ヲ爲シ境界ハ殆皆峯筋ニシテ從ツテ高峯ハ多クハ境界ニ存シ就中東境及南境（之即太平洋斜面ト日本海斜面トノ分水嶺デアル）ニ海拔高ガ大デアル、東境ノ中央ニ近ク三國嶽アリ、近江、山城、丹波ノ3國ニ跨リ海

拔959m、京都府下ノ最高地點デア、之ヨリ北ニ800m前後ノ數峯續キ東北隅ニ至リテ再ビ三國嶽ガアリ近江、若狹、丹波ノ3國ニ跨ル海拔776m(少シク北ニ三國峠ガアル)北境ハ700m前後ノ緩斜ナル峯連續シ西境ニ於テ初メテ境界線稍々複雑シ或ハ峯ヲ登リ谷ヲ下リ又ハ溪流、道路等ニ沿フ、南境ニ於テ再ビ高峻ナル連峯ヲ爲シ800乃至900mノ峯續キテ小起伏ヲ爲シ東南隅ハ931.7mノ地點ニシテ之ヨリ北ニ漸次昇リテ最高地點三國嶽ニ至ル、林内ニ存スル顯著ナル峯ハぶなの木峠(939.1m)傘峠(936.9m)天狗峠(920.9m)等デアリ谷筋ハ水源ヨリ記セバ上下兩谷中山作業所附近ニテ合流シ爾後右岸ニ著シキハ七瀬谷、小野子谷、左岸ニ於テハ大谷、桂谷、赤崎谷等ニシテ孰レモ本流ニ合流シ事務所附近ニ於テハ本林西半ノ水ヲ集メタル櫃倉及内杉ノ兩谷ガ合流シ來リテ注グ。

面積ハ既述ノ如ク推測4129ha、精測ハ昭和3年度ヨリ開始シ同4年度ニハ終ル豫定デア、カラ其時初メテ正確ナル面積ヲ知り得ル。現ニ境界線、三角測量共ニ約1/2ノ外業ヲ終ヘテ居ル。

本節關係事項ハ尙林況調査表、附圖等ニ就キテモ見テ貰ヒ度イ。

第二節 地質及氣象

林内ノ地質ハ秩父古生層上中部ニ屬シ岩脈、層向等ニ關シテハ未ダ詳カニシ得ザルモ基岩トシテ露ハル、ハ粘板岩、硬砂岩、砂岩、硅岩、角岩等ニシテ就中粘板岩、硅岩類多ク而シテ粘板岩ト砂岩トノ重疊ハ之ヲ上流部ニ於テ認ムルコトガ出來ル。土質ハ上流域タル中山盆地大部ノ腐植質酸性土壤及一部ノ峻峻礫礫ナル地ヲ除ケバ概シテ腐植土ニ富ミ表土厚ク地味肥沃ナリト雖更ニ仔細ニ觀察スレバ上流さわ谷附近ニ於テ一部砂岩ノ影響ヲ受ケタル砂質壤土アリ、杉尾峠附近「コナラ」純林地ハ肥沃ナル粘質壤土ニシテ中央部ニハ粘質壤土一般ニ多ク其他所ニヨリ現ハル、土壤ハ其種類、深、色等ヲ異ニシ從ツテ物理的性質、化學的成分ノ異ルハ當然ニシテ地形、氣象等ノ複雑ト共ニ現存樹林ノ諸成相ト密接ナル關係ヲ有シテ居ル。

氣象ニ就テハ次ニ年報ヲ掲グルモ之等ハ演習林事務所構内ノ露場ニ於ケル觀測結果ニシテ事務所ハ演習林外ニ在リ、林内ノ最低地點ヨリモ更ニ50m低ク之ヲ以テ林内ノ氣象ト爲スコト能ハズ況ンヤ既述ノ如ク本演習林ハ處ニヨリ諸般ノ環境ニ著シキ差違ガアルノデア、カラ昭和3年度ヨリ中山作業所附近ニ新タニ第二ノ氣象觀測所ヲ設クルコトニシ目下設備中デア、ル。

第三節 交通其他

第一、林外交通

演習林ヨリ南ニ鞍馬ヲ經テ京都ニ至ルモノ、西ニ知井村ヲ貫キテ山陰線殿田又ハ和知ニ出ヅルモノ、北ニ久坂ヲ過ギテ小瀬線小瀬ニ出ヅルモノ、東ニ琵琶湖畔ニ出ヅルモノ、4線ヲ林外ノ主要路線

景 年 生 演 習 林 概 況 (1925—1927)

所 在 地 京 都 府 北 桑 田 郡 知 井 村 字 菅 生

緯 度	35°20'	緯 度	135°42'	海 拔	400m	初 雪	109	終 雪	24	積 雪	27	融 雪	25	積 雪	126
北 緯		東 經				寒 暖 計 地 上 ノ 高 ヲ		雨 量 計 地 上 ノ 高 ヲ							
						1.3m		0.2m							

トスル。

(1) 南ニ略々一直線ニ京都ニ出ヅル道ハ延長約32km、途中演習林境界ノ峯筋ト鞍馬山トノ2ノ峠アリテ交通ノ發達ヲ阻害シテ居ルガ京都、鞍馬間ハ交通機關アリ、峠以外ノ道ハ自転車ヲ通ズルヲ得テ容易ナル1日行程デアル。

(2) 西ニ殿田ニ出ヅルモノハ延長約45km、知井村役場、殿田間ニ自動車ヲ通ジ村役場ヨリ林内迄ハ府道及林道連続シテ昭和4年度中ニハ自動車ヲ通ズル様夫々工事中デアル(詳細ハ土木及建築ノ章ヲ見ヨ) 村役場ト事務所間約15kmヲ徒歩スルモ事務所、殿田間ハ半日行程デアル、尙殿田ニ出ヅルニハ途中ニ峠ガアルガ、由良川ニ沿ヒ下レバ和知驛ニ出ヅル、距離略々同ジク自動車亦通ズ。

(3) 北ニ小瀆ニ出ヅルモノハ距離約27km、久坂、小瀆間ニ自動車ノ便アルヲ以テ中山作業所ヨリ京都ニ出ヅルニハ作業所、久坂間約12kmノ徒歩ヲ以テ足り現在ニ於テハ最便利ナル途デアル。

(4) 上記ノ3路ハ孰レモ京都ト演習林トヲ1日行程デ足ラシムルガ東ニ琵琶湖畔大溝ニ出ヅル時ハ途上小丘陵ノ起伏多ク道亦遠クシテ約47km、少カラヌ不便ガアル、但林外忽ニシテ田畑ノ開ケルアリ物資供給路トシテ重要デアル。

第二 林内交通

林内ニハ演習林トナル以前ニハ殆道ガ無カツタノデ其後銳意之ガ開鑿ニ勉メ現ニ幾多ノ林道、路網及之ガ豫定線ヲ有スルモ詳細ハ後ニ第八章ニ於テ記スコト、スル。

第三章 林 况

第一節 植 物 調 査

本演習林ノ植生調査ハ目下銳意施行中ニシテ其内植物調査ノ結果ハ近ク出版スル豫定デアルカラ茲ニハ簡單ニ演習林産樹木ノ名稱ヲ掲グルニ止メテオク、尙之ハ正確ナル標品ヲ現ニ調査係ノ手元ニ所有セルモノ、ミデアリ然ラザルモノハ暫ハ演習林内ニ存スル事ノ確實ナルモノデアツテモ此處ニ掲記シナイ。

芦生演習林産樹種目録 (1928)

	イチョ科 Taxaceae.
チヤボガヤ	<i>Torreya nucifera</i> S. et Z. var. <i>radicans</i> Nakai. (一般ニ産ス)
イヌガヤ	<i>Cephalotaxus drupacea</i> S. et Z. (下木トシテ林内一般ニ産ス)
	マツ科 Pinaceae.
スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> Don. (林内ノ主要林木ニシテ多シ)

- ア カ マ ツ Pinus densiflora S. et Z. (中山、杉尾峠間=僅=存ス)
 ゴ エ フ マ ツ P. pentaphylla Mayr. (灰野、七瀬附近ノ岩石地=存生ス)
 カ ウ ヤ マ キ Sciadopitys verticillata S. et Z.
 モ ミ Abies firma S. et Z. (灰野、七瀬間ノ一部=限ル)
 ツ ガ Tsuga Sieboldii Carr. (モミト混生ス)
 ヒ ノ キ Chamacyparis obtusa S. et Z.
 ヒ バ Thujopsis dolabrata S. et Z.
 ユリ科 Liliaceae.
 サルトリイバラ Smilax China L. (林内一般)
 ヤナキ科 Salicaceae.
 ヤマナラシ Populus Sieboldii Miq. (中山、杉尾峠間)
 ネコヤナギ Salix gracilistyla Miq. (同)
 キツネヤナギ S. vulpina Anders. (同)
 クルミ科 Juglandaceae.
 サハグルミ Pterocarya rhoifolia S. et Z. (内杉谷附近)
 オニグルミ Juglans Sieboldiana Maxim. (同)
 カバノキ科 Betulaceae.
 ヨグツミネバリ Betula ulmifolia S. et Z. (林内一般)
 クマシデ Carpinus carpinoides Makino. (同)
 サハシバ C. cordata Blume. (同)
 アカシデ C. laxiflora Blume. (同)
 イヌシデ C. yedoensis Maxim. (同)
 ツノハシバミ Corylus rostrata Ait. var. Sieboldiana Maxim. (同)
 コクト科 Fagaceae.
 クリ Castanea sativa Mill. var. pubinervis Makino. (林内一般)
 ブナノキ Fagus Sieboldi Endl. (同)
 コナラ Quercus glandulifera Blume. (同)
 ミヅナラ Q. crispula Blume. (同)
 ツクバネガシ Q. sessilifolia Blume. (内杉谷下部、事務所、灰野、七瀬、岩谷附近)
 ウラジロガシ Q. stenophylla Makino. (同)
 エレ科 Ulmaceae.
 ケヤキ Zelkova serrata Makino. (灰野、七瀬間)
 クハ科 Moraceae.
 カウゾ Broussonetia Kasinoki Sieb.
 ヤドリギ科 Loranthaceae.
 ヤドリギ Viscum album L. var. lutescens Makino.
 ヤマグルマ科 Trochodendraceae.
 ヤマグルマ Trochodendron aralioides S. et Z. (林内一般)
 フリザクラ Euptelea polyandra S. et Z. (灰野、大谷附近)
 カツラ科 Cercidiphyllaceae.
 カツラ Cercidiphyllum japonicum S. et Z. (林内一般)

- アケビ科 Lardizabalaceae.
 ミツバアケビ Akebia lobata Decne. (林内一般)
 アケビ A. quinata Decne. (林内一般)
 モクレン科 Magnoliaceae.
 タムシバ Magnolia salicifolia Maxim. (林内一般)
 ホホノキ M. hypoleuca S. et Z. (ケヤキ坂、中山、赤崎方面)
 マツブサ Schizandra nigra Maxim.
 クスノキ科 Lauraceae.
 ヤマカウバシ Lindera glauca Blume. (灰野、七瀬間)
 カナクギノキ L. Thunbergii Makino. (林内一般)
 シロモジ L. triloba Blume. (岩谷附近)
 ダンカウバイ L. obtusiloba Blume. (林内一般)
 クロモジ L. umbellata Thunb. (同)
 ケクロモジ L. umbellata Thunb. var. sericea Makino. (同)
 ユキノシタ科 Saxifragaceae.
 コアヂサキ Hydrangea hirta S. et Z. (林内一般)
 ヤマアヂサキ H. opuloides Steud. var. acuminata Dipp. (同)
 ノリウツギ H. paniculata Sieb. (同)
 ゴトウヅル H. scandens Maxim. (同)
 イハガラミ Schizophragma hydrangeoides S. et Z. (同)
 ヤシヤビシヤク Ribes ambiguum Maxim. (稀)
 マンサク科 Hamamelidaceae.
 マンサク Hamamelis japonica S. et Z. (林内一般)
 イバラ科 Rosaceae.
 ザイフリボク Amelanchier asiatica Endl. (林内一般)
 ズミノキ Cornus Tschonoskii Koidz.
 アツキナシ Micromeles alnifolia Koehne. (林内一般)
 ウラジロノキ M. japonica Koehne (同)
 ヤマナシ Pinus sinensis Lindl. var. ussuriensis Makino.
 カマツカ Pourthiaea villosa Decne. (林内一般)
 フユイチゴ Rubus Puergeri Miq. (同)
 コバノフユイチゴ R. pectinellus Maxim. (同)
 キイチゴ R. palmatus Thunb. var. palmatus Kuntze. (灰野、七瀬、岩谷附近)
 クマイチゴ R. crataegifolius Bunge. (同)
 ナハシロイチゴ R. triphyllus Thunb. (同)
 バライチゴ R. Commersonii Poir. var. simpliciflorus Makino. (灰野、七瀬、岩谷附近)
 コジキイチゴ R. sorbifolius Maxim. (同)
 ウラジロイチゴ R. phoenicolasius Maxim. (同)
 ナナカマド Sorbus Auenparia L. (林内一般)
 ナンキンナナカマド S. gracilis C. Koch. (灰野、七瀬、岩谷附近)
 ウハミヅザクラ Prunus Grayana Maxim. (林内一般)

- キンキマメザクラ *P. kinkiensis* Koidz (同)
- ヤマザクラ *P. serrulata* Lindl. var. *spontanea* Makino, subv. *glabra* Makino.
マメ科 Leguminosae.
- フヂキ *Cladrastis platycarpa* Makino.
- ユクノキ *C. shikokiana* Makino.
- フヂ *Kraunhia floribunda* Taub. var. *typica* Makino. (林内一般)
- イヌエンジュ *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. var. *Buergeri* Schneid. (灰野、七瀬附近)
ヘンルウダ科 Rutaceae.
- カラスサンセウ *Fagara ailanthoides* Engl.
- イヌザンセウ *F. schiniifolia* Engl.
- サンセウ *Xanthoxylum piperitum* D C.
- キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. (ケヤキ坂、中山間)
- ミヤマシキミ *Skimmia japonica* Thunb. (林内一般)
タカトウダイ科 Euphorbiaceae.
- エゾユヅリハ *Daphniphyllum humile* Maxim. (林内一般)
- コバンノキ *Phyllanthus flexuosus* Muell. Arg.
- シラキ *Sapium japonicum* Pax. et K. Hoffm. (灰野、七瀬附近)
ウルシ科 Anacardiaceae.
- ツタウルシ *Rhus Toxicodendron* L. var. *vulgaris* Pursh. f. *radicans* Engl. (林内一般)
- ヤマウルシ *R. tricoarpa* Miq. (同)
- ヌルデ *R. javanica* L. (灰野、七瀬附近)
モチノキ科 Aquifoliaceae.
- アヲハダ *Ilex dubia* Trel. var. *macropoda* Loes. (林内一般)
- フウリンウメモドキ *I. geniculata* Maxim.
- ツヨゴ *I. pedunculosa* Miq. (林内一般)
- アカミノイモツゲ *I. Sugeroki* Maxim. subsp. *brevipedunculata* Makino. (同)
- イモツゲ *I. crenata* Thunb. var. *typica* Loes. f. *genuina* Loes. (同)
- ヒメモナ *I. lencoclada* Makino. (同)
ニシキギ科 Celastraceae.
- ツルマサキ *Euonymus japonicus* Thunb. var. *radicans* Miq.
- サハダツ *E. melananthus* Franch. et Sav. (林内一般)
- ツリバナ *E. oxyphylla* Miq. (同)
- マユミ *E. Sieboldianus* Blume. (同)
- コマユミ *E. striatus* Makino. (同)
- ナガバサハダツ (ヤナギバサハダツ)(新稱) *E. salicifolius* Takeda. (同)
カヘデ科 Aceraceae.
- ヤマシバカヘデ *Acer carpinifolium* S. et Z. (林内一般)
- ウリカヘデ *A. crataegifolium* S. et Z. (同)
- ハウチハカヘデ *A. japonicum* Thunb. var. *typicum* Graf v. Schw. (同)
- コミネカヘデ *A. micranthum* S. et Z. (同)
- メグスリノキ *A. nikoense* Maxim.

- カヘデ *A. palmatum* Thunb. (林内一般)
- テツカヘデ *A. parviflorum* Franch. et Sav. (同)
- エンコウカヘデ *A. pictum* Thunb. var. *dissectum* Wesm. (林内一般)
- イタヤカヘデ *A. pictum* Thunb. var. *typicum* Graf v. Schw. subv. *epictum* Pax. (同)
- ウリハダカヘデ *A. rufinerve* S. et Z. (同)
- ヒノウチハカヘデ *A. tennifolium* Koidz. (同)
トチノキ科 Hippocastanaceae.
- トチノキ *Aesculus turbinata* Blume. (林内一般)
アヲカツラ科 Sabiaceae.
- ミヤマハハツ *Meliosma tenuis* Maxim. (林内一般)
- アハブキ *M. myriantha* S. et Z. (同)
クロウメモドキ科 Rhamnaceae.
- クマヤナギ *Berberis racemosa* S. et Z.
- ケンボナシ *Hovenia dulcis* Thunb. var. *glabra* Makino.
- イソノキ *Rhamnus crenata* S. et Z.
ブドウ科 Vitaceae.
- ノブダウ *Ampelopsis heterophylla* S. et Z. (林内一般)
- ギヤウジヤノミツ *Vitis flexuosa* Thunb. (同)
シナノキ科 Tiliaceae.
- シナノキ *Tilia japonica* Simk. (灰野、七瀬、岩谷附近)
サルナシ科 Dilleniaceae.
- サルナシ *Actinidia callosa* Lindl. var. *arguta* Makino. (林内一般)
- マタタビ *A. polygama* Planch. (同)
ツバキ科 Theaceae.
- ツバキ *Camellia japonica* L. var. *hortensis* Makino. (灰野附近)
- ナツツバキ *Stewartia pseudocamellia* Maxim. (林内一般)
- ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. (林内一般)
キブシ科 Stachyuraceae.
- キブシ *Stachyurus praecox* S. et Z. (林内一般)
グミ科 Elaeagnaceae.
- アキグミ *Elaeagnus umbellata* Thunb. (中山附近)
ウリノキ科 Alangiaceae.
- ウリノキ *Alangium platanifolium* Harms. var. *macrophyllum* Wang. (林内一般)
ウコギ科 Araliaceae.
- ウコギ *Acanthopanax spinosum* Miq.
- タカノツメ *Kalopanax innovans* Miq. (林内一般)
- コシアブラ *K. scindophylloides* Harms. (同)
- ハリギリ *K. ricinifolius* Miq. (同)
- タラノキ *Aralia chinensis* L. var. *glabrescens* Matsup. (同)
ミヅキ科 Cornaceae.
- ヒメアヲキ *Aucuba japonica* Thunb. var. *borealis* Miyabe. (林内一般)

- ヤマボウシ *Cornus Kousa* Bnerg. (林内一般)
 ミヅキ *C. controversa* Hemsl. (同)
 ハナイカゲ *Helwingia japonica* Willd. (同)
 リョウブ科 *Clethraceae*.
 リョウブ *Clethra barbinervis* S. et Z. (林内一般)
 シヤクナゲ科 *Ericaceae*.
 アカモノ *Diplycosia adenothrix* Nakai. (中山、杉尾峠間、三國峠)
 サラサドウダン *Enkyanthus campanulatus* Nichols. (中山、岩谷、七瀬附近)
 イハナシ *Epigaea asiatica* Maxim. (同)
 ウラジロヤウラク *Menziesia ciliicalyx* Maxim. (同)
 ケアクシバ *Hungeria japonica* Nakai. var. *ciliata* Nakai. (林内一般)
 ネヂキ *Pieris elliptica* Nakai. (同)
 アセビ *P. japonica* D. Don. (同)
 ヒカゲツツジ *Rhododendron Keiskei* Miq. (同)
 ホンシヤクナゲ *R. Metternichii* S. et Z. var. *hondoense* Nakai. (同)
 レンゲツツジ *R. japonicum* Suring. (中山、杉尾峠間)
 ホツツジ *Tripetaleia paniculata* S. et Z. (林内一般)
 カクミノスノキ *Vaccinium hirtum* Thunb. (同)
 ハヒノキ科 *Symplocaceae*.
 サハフタギ *Palura paniculata* Nakai. var. *pilosa* Nakai. (林内一般)
 エゴノキ科 *Styracaceae*.
 オホバアサガラ *Pterostyrax micranthum* S. et Z. (ケヤキ坂、中山間)
 エゴノキ *Styrax japonica* S. et Z. (林内一般)
 ハクウンボク *S. Obassia* S. et Z. (同)
 ヒヒラギ科 *Oleaceae*.
 コバノトネリコ *Fraxinus Sieboldiana* Blume. var. *serrata* Nakai. (林内一般)
 イボタノキ *Ligustrum Iyota* Sieb. var. *angustifolium* Blume. (同)
 ケフチクタク科 *Apocynaceae*.
 テイカカツラ *Trachelospermum asiaticum* Nakai. (灰野附近)
 クマツヅラ科 *Verbenaceae*.
 クサギ *Clerodendron trichotomum* Thunb. (林内一般)
 ムラサキシキブ *Callicarpa japonica* Thunb. (同)
 スヒカツラ科 *Caprifoliaceae*.
 キバナツクバネウツギ *Abelia serrata* S. et Z. var. *Buchwaldii* Nakai. (林内一般)
 タニウツギ *Diervilla japonica* D. C. (同)
 ニハトコ *Sambucus Sieboldiana* Blume. (同)
 ミヤマガマズミ *Viburnum Wrightii* Miq. var. *typicum* Nakai. (同)
 ガマズミ *V. dilatatum* Thunb. (同)
 ムシカリ *V. furcatum* Blume (同)
 ヤブデマリ *V. tomentosum* Thunb. (同)
 ミヤマシグレ *V. urceolatum* S. et Z. var. *procumbens* Nakai. (同)

キク科 *Compositae*.カウヤバウキ *Pertya scandens* Sch. Bip. (林内一般)

第二節 林況ノ概要

屢々述べタル如ク本演習林ハ「スギ」ノ郷土ト認メラレル、元來「スギ」ハ水運ニ託スルニ便ナルヲ以テ本演習林ノ他ノ樹種ガ「クリ」ヲ除ケバ從來殆斧鉞ヲ蒙ラザリシニ拘ラズ獨リ「スギ」ノミハ古クヨリ伐採セラレ爲ニ人爲的ニ潤葉樹ノ跋扈ヲ増長シタルモシカモ其底陰ニ生ジテ壓伏セラレタル「スギ」ノ幼樹ハ漸次ニ擡頭シ來リ終ニ潤葉樹ヲ征服シテ再び原始林相ニ復歸セントスルヤ多クハ枯朽未ダ癒エザルニ再び斧鉞至リ之ヲ反覆シテ漸次林相ヲ惡化シ終ニ現狀ニ至リタルモノナルヲ思フ若シ此狀態ニシテ繼續センカ或ハ恐ル本邦ニ於テ否地球上ニ於テ終ニ「スギ」ノ天然生ノ狀況ヲ見ル能ハザルニ至ツタデアラウ、幸ニシテ演習林トナリテ「スギ」ノ伐採ヲ禁ジタルガ故ニ今ヤ5000haノ全山ニ在ル「スギ」ノ幼樹ハ茲ニ初メテ其旺盛ナル生活力ヲ充分ニ發揮スルヲ得テ多年跋扈甚シカリシ潤葉樹ノ下ヨリ光ヲ求メテ抽出シ競フテ急速ナル上長成育ヲ成シ以テ全林ヲ支配セントスル狀態ハ誠ニ壯觀ヲ極ムルモノガアル。

之等ノ「スギ」ハ殆悉ク伏條ヨリ成レルモノデアツテ即チ幹ノ下部ニオクル枝條ハ著シク下垂シテ地ニ接シ(之ハ雪ノ壓力ニヨルト考ヘラレル、少クトモ大ナル理由ノ1ハ雪デアル)地表ヲ這フコト數cm、又ハ數十cm、時トシテハ數mニシテ先端初メテ立ち、地ニ接スル部分ヨリハ根ヲ生ジ終ニハ母樹ト連絡絶エテ獨立セル樹トナル、從ツテ之等ノ稚樹ハ母樹ヲ圍繞シテ無數ニ發生シテオルガ大部分ハ母樹ヨリモ低キ位置ニ在ル、天然下種ニヨル「スギ」ノ實生稚樹モアルガ多クハ2—4年生前後ニシテ5年生以上ノモノヲ見ル事極メテ稀ナル故大多數ノ實生苗ハ或原因ニヨリ途中消滅スルモノト考ヘラレルガ全部ガ消滅スルト考フル事モ無理デアリ又現存セル「スギ」ノ内ニモ根ノ形狀其他ニヨリ實生ト想像シ得ベキモノアリ、而シテカ、ルモノガ多クハ伏條ノ中心(稚樹群ノ中心)トナツテ居ル、依リテ臆測ヲ逞ウスルニ實生ニヨリ各所ニ「スギ」ガ點々ト生ジ之ガ母樹トナリテ周圍ニ幾多ノ伏條ニヨル娘樹ヲ生ジ、之ガ又夫々母樹トナリテ次ノ娘樹ヲ其周圍ニ生ゼシメテ居リ、カ、ル1團ハ其中ニハ親子ノ關係ナク全ク1本ノ樹ガ其儘分レテ數本又ハ數十本トナルノデアリ之等ノモノガ相集リテ本林ヲ爲セルモノト思フ。此處ニ天然下種ニヨリ潤葉樹ノ實生苗ガ發生シ「スギ」ト相競フテ生長スル所ヘ斧鉞ガ「スギ」ノミ加ヘラレタルニヨリ潤葉樹ノ樹冠ノミニテ鬱閉シ下方ノ「スギ」ハ延ビントシテ延ブル能ハズ、極メテ遅々タル生長ヲ爲シツ、所謂「藪くぶり」ト稱シテ頻リニ地上ヲ這ヒ廻リ受光稍々充分ナル處アラバ初メテ良好ナル生長ヲスル、偶々何等カノ理由ニヨリテ上方ノ潤葉樹ノ除去セラル、アラバ忽ニシテ局部的ニ密ナル「スギ」ノ純林ヲ作ルコトハ陸地測量部

ノ三角點建標地點其他ニ於テ如實ニ示サレテ居ル。

「スギ」ハ殆全林ニ亘ツテ存在シテ居リタゞ其分量が個所ニヨリテ異ル、比較的多キハ中山作業所ヲ中心トスル區域ニシテ演習林設定當時既ニ1ha當リ「スギ」40—80m³、潤葉樹1ha當リ30—100m³デアツタ、其他ノ區域ハ局部的ニ「スギ」ノ多キ個所ト少キ個所トガ交錯シテ居リ、多クハ「スギ」20—40m³、潤葉樹60—180m³ニシテ潤葉樹多キ區域ニ於テモ尙1ha當リ「スギ」20m³、潤葉樹120—250m³デアアル、之ハ材積ニツキ述ベタノデアルガ「スギ」ノ少ナイト云フノハ多クノ場合「スギ」ノ年齢（嚴密ニ云ヘバ1本ノ材積）ガ少ナイト云フ事ト一致スル、即潤葉樹ノ爲ニ「スギ」ノ壓迫シテ居ル、事著シクシテ極メテ遲緩ナル生長ヲ爲シテ居ルカ又ハ最近ニ「スギ」ガ伐ラレタル爲ニ大木ニ乏シイト云フ事ニナル。即本演習林内「所」ニヨリテスギノ混交度ニ差違アリト云フ事ハ「所」ニヨリ斧鉞ノ入りタル時期及其回数ニ差違アリタル爲ナリト認メテ大ナル間違ハアルマイ、(勿論地質其他ノ關係上元來「スギ」ノ多クヲ期待シ得ル處ト然ラザル所トノ區別モアルケレドモ) 尙「スギ」ノ多クハ年齢が分ラヌ、年輪ヲ算スルモノソレハ單ニ枝ノ年輪ヲ算ヘタト同ジコトニナル場合ガ多イカラデアル、更ニ本演習林内ノ「スギ」ハ其本數ガ分ラヌ、何處迄ガ1本デアアルカハ多クノ場合ニ決定シ得ヌカラデアル、相當ノ大サニ達シテ初メテ本數、樹齡等ヲ稍々云ヒ得ルニ至ルモノレトモ決シテ嚴密ノ意味ニ於テ云ヘルモノデハナクタゞ全ク便宜上之ヲ云フニ過ギヌ。

演習林設定ノ年ニ若干ノ伐木ヲ爲シタル以後ハ専ラ「スギ」ノ育成ニ勉メ之ヲ伐ラヌ故ニ現ニ中山作業所附近ニハ直径40—50cm.ニ達セルモノモ少クナイ、其他ハ前述ノ如ク各様各態ノモノガ全林ニ普ク存在スル、「スギ」ニ次デ多ク存スル針葉樹ハ「ヒノキ」「ゴエフマツ」デアアルガ「スギ」ニ比シレバ極メテ少量デアアル、若シ夫レ「モミ」「ツガ」「アスナロ」「カウヤマキ」「アカマツ」等ニ至リテハ寧ロ稀有ト稱スベキデアアル、「イヌガヤ」ハ多量ニ存シ間々「チャボガヤ」ヲ交フルモ之等ハ灌木狀ヲ爲シテ居ル。

潤葉樹ハ概シテ云ヘバ山麓ニ多ク殆純林ヲ爲シ高キニ從ヒ漸次ニ「スギ」ヲ多ク混ズルヲ常トスル、本演習林ハ最高地點モ1000mヲ越エズ最低地點ハ約300mデアアルカラ垂直的ニ潤葉樹ノ配列ノ變化ヲ見ルコト著シクナイガシカモ本谷上流地域及櫃倉谷等奥地ニハ「ブナ」多クシテ往々ニシテ純林ヲ見ルモ「シデ」ハ少ク之ニ反シテ赤崎谷、蓬谷等口元附近ニハ「シデ」多クシテ間々其純林アルモ「ブナ」ニ乏シイ、枕谷附近ヨリ上流ニハ「ナラ類」多ク殊ニ「コナラ」ノ純林ヲ見ル、而シテ常綠「カシ類」ハ演習林ノ入口附近ニ僅カニ之ヲ見ルモ海拔500—700mヨリ上方ニハ殆皆無デアアル。「トチ」ハ河流沿岸土壤ノ堆積多キ所ニ老木多ク、「シヤクナゲ」ハ岩石地ニ群生シ、中山盆地ノ酸性腐植土地一帯ハ當生地ヲ爲シテ居ル、潤葉樹中最多キハ「ブナ」「ナラ類」「シデ」「ミヅメ」「カヘデ類」

「トチ」「クリ」等デアリ幼齡ノモノヨリ300年生前後ノモノニ及ビ、胸高直径亦大ナルハ60—80cmニ達ス。

次ニ林況ノ概要トシテ林内ノ諸方面ニ於テ調査シタル樹種別本數材積等ヲ示ス、但下木類及稚樹ヲ含マヌ。

箇 所	地位	標準地 面積 (ha)	樹 種	1ha 當リ 材積 (m ³)	材積 (m ³)	本數	樹種別本數混交歩合 (%)
4. 左 岸	中	10.19	針葉樹	6.4	65.1	590	スギ 28.0 ブナ 46.0
			潤葉樹	124.1	1265.5	1460	ナラ 9.0 カヘデ 6.0
			合 計	130.5	1330.6	2050	他ハトチ、シデ、ミヅメ等
5 左 岸	中	18.66	針葉樹	6.1	116.0	1075	スギ 16.0 シデ 25.0
			潤葉樹	103.5	1932.8	5156	ナラ 15.0 カヘデ 8.5
			合 計	109.6	2048.8	6231	カシ 3.0 ミヅメ 5.0 クリ 2.0 トチ 1.0 オニグルミ 1.0 ブナ 1.0 他ハヒノキ、サハグルミ、カ ツラ、モミ等
10. 11. ヤケ谷合流 點上	中	20.17	針葉樹	11.7	235.1	1645	スギ 33.0 ブナ 15.5
			潤葉樹	110.2	2226.9	3237	シデ 15.0 カヘデ 9.5
			合 計	121.9	2462.0	4882	ミヅメ 6.0 シラカシ 3.5 クリ 2.0 他ハトチ 1.5 ヒノキ 1.0 ホハ、オニグル ミ、サハグルミ、カツラ等
14 三ノ谷殆ト全部	上	30.82	針葉樹	30.6	944.7	3236	スギ 46.0 ブナ 27.0
			潤葉樹	126.1	3884.1	3711	カヘデ 6.0 ナラ 6.0
			合 計	156.7	4828.8	6947	ミヅメ 4.0 トチ 2.0 他ハサハグルミ、オニグルミ、 シデ、クリ、ホハ、カツラ等
14 作業所附近	上	6.62	針葉樹	50.1	369.3	1474	スギ 73.0 トチ 18.0
			潤葉樹	27.8	183.9	548	ブナ 3.0 カヘデ 2.0
			合 計	77.9	553.2	2022	他ハヒノキ、ナラ、サハグル ミ、シデ、クリ、ホハ、ミヅ メ、カツラ等
18 外上谷左岸	上	14.54	針葉樹	43.4	761.1	2744	スギ 60.0 ブナ 20.0
			潤葉樹	100.5	1760.0	1787	ナラ 6.0 カヘデ 5.0
			合 計	143.9	2521.1	4531	他ハヒノキ、トチ、サハグル ミ、オニグルミ、シデ、クリ、 ホハ、ミヅメ等
19 アンノ谷右岸	中	10.25	針葉樹	18.4	190.3	975	スギ 35.0 ナラ 13.0
			潤葉樹	114.4	1172.3	1818	ブナ 35.0 カヘデ 5.5
			合 計	132.8	1362.6	2793	シデ 4.0 他ハトチ、サハグルミ、クリ、 ホハ、ミヅメ等
23 右 岸	下	8.19	針葉樹	38.1	313.7	1258	スギ 43.5 シデ 20.0
			潤葉樹	128.8	1056.6	1613	カヘデ 7.5 クリ 6.0
			合 計	166.9	1370.3	2871	ミヅメ 6.0 ナラ 6.0 ブナ 2.0 他ハヒノキ、トチ、カシ、カ

箇 所	地位	標準地 面積 (ha)	樹 種	1ha 當り 材積(m³)	材積(m³)	本数	樹種別本数混交歩合(%)
			合 計	166.9	1370.3	2871	ツラ、サハグルミ、ホ、モ ミ等
26 右 岸	下	17.85	針葉樹	21.7	357.6	2106	スギ 37.5 ナラ 8.0 カヘデ 8.0 クリ 3.5 トチ 3.0 シデ 22.0
			闊葉樹	58.4	1043.5	3508	ホ、2.0 他ハビノキ、ブナ、サハグル ミ、ミヅメ、カシ、カツラ、 モミ等
			合 計	80.1	1401.1	5614	
26 右岸、前記區域 =園マル、地	下	1.34	針葉樹	25.9	34.7	441	スギ 27.5 カヘデ 8.0 クリ 5.0 シデ 13.4
			闊葉樹	68.5	91.8	1166	ミヅメ 1.0 ナラ 2.0 トチ 2.0 ホ、1.0
			合 計	94.4	126.5	1607	他ハカシ、雜木
30、31 西ノ谷合流點上	中	18.90	針葉樹	15.6	292.2	2356	スギ 32.0 シデ 16.5 ナラ 5.2 カヘデ 6.4 ビノキ 2.0 ミヅメ 2.5
			闊葉樹	56.2	1065.2	4664	カシ 5.1 トチ 1.5 クリ 1.0
			合 計	71.8	1357.4	7020	他ハホ、カツラ、サハグル ミ、ツガ、ケヤキ等
30 前區域ト隣接ス	中	2.27	針葉樹	11.1	25.6	431	スギ 16.0 シデ 20.0 ナラ 2.0 カシ 7.0
			闊葉樹	84.6	192.0	2183	カヘデ 7.0 ミヅメ 2.0 トチ 1.0 クリ 1.0 カツラ 1.0
			合 計	95.7	217.6	2614	他ハホ、ブナ、ケヤキ、ヒ ノキ、サハグルミ等

第三節 林況調査表

林班別材積ノ大體ヲ次ニ掲ゲルガ之ハ精密ナルモノニ非ズ且調査モ數年前ノモノデアラカラ單ニ
多少ノ參考トナリ得ルニ止マルノミデアル。

林 班	小 班	面 積	針 葉 樹	闊 葉 樹	計
		ha	石	石	石
1		129.13	2.904	56.603	59.507
2		114.62	2.588	50.461	53.049
3		126.91	2.859	55.287	58.146
4		160.62	3.624	70.645	74.269
5		207.66	4.736	78.921	83.657
6		183.23	4.257	70.932	75.189
7		84.08	1.954	32.559	34.513
8	い	35.64	2.243	8.174	10.417
	ろ	55.42	3.427	12.489	15.916
9	い	38.49	2.268	8.265	10.533

林 班	小 班	面 積	針 葉 樹	闊 葉 樹	計
		ha	石	石	石
	ろ	56.53	3.402	12.398	15.800
10	い	31.76	1.610	15.251	16.861
	ろ	86.15	4.327	40.988	45.315
11	い	21.72	1.107	10.486	11.593
	ろ	157.94	7.949	75.304	83.253
12	い	35.16	937	8.872	9.809
	ろ	73.11	1.953	18.503	20.456
13	い	76.90	3.226	30.546	33.772
	ろ	68.37	2.849	26.976	29.825
14		107.20	21.464	10.700	32.164
15		119.22	13.114	53.895	67.009
16		108.34	16.837	38.945	55.782
17	い	52.55	5.841	24.004	29.845
	ろ	61.39	6.722	27.627	34.349
18		162.84	25.412	58.794	84.206
		131.11	14.436	59.330	73.766
20	い	51.02	3.402	20.961	24.363
	ろ	69.78	4.669	28.770	33.439
21	い	31.36	1.299	12.298	13.597
	ろ	35.79	7.222	3.596	10.818
22	は	50.76	2.137	20.232	22.369
	い	55.86	2.346	22.215	24.561
23	ろ	106.74	4.483	42.447	46.930
	い	8.46	1.148	3.868	5.016
24	ろ	130.59	18.800	63.339	82.139
	い	4.95	718	2.418	3.136
25	ろ	112.84	16.218	54.636	70.854
	い	87.81	6.336	18.480	24.816
26	ろ	79.95	5.760	16.800	22.560
	い	4.03	288	840	1.128
27	ろ	92.74	6.696	19.539	26.235
		175.69	12.672	36.978	49.650

林班	小班	面積	針葉樹		計
			ha	石	
28	い	15.20	1,080	3,152	4,232
	ろ	90.69	6,552	19,119	25,671
29	い	67.17	3,725	13,574	17,299
	ろ	51.42	2,836	10,333	13,169
30	い	12.07	667	2,431	3,098
	ろ	149.79	8,340	30,390	38,730
31	い	15.91	890	3,242	4,132
	ろ	139.28	7,728	28,161	35,889
32		3.01	167	608	775
33		4.7903	—	—	—
合計			288,225	1,435,382	1,723,607

第四章 施 業

第一節 既往ノ施業概要

演習林設定前ノ施業ニ就テハ記録ノ微スベキモノ尠クシテ詳ナラザルモ七瀬、赤崎附近ニハ曾テ20餘戸ノ部落アリ住民ハ製炭木工ヲ主ナル生業トシ當時七瀬ヨリ天狗峠ヲ經テ能美ニ到ル牛道及赤崎谷ヨリ廣河原ニ通ズル歩道ニヨリ鞍馬ヲ越エテ製品ヲ京都ニ搬出シタト云フ、此部落ハ既ニ50年餘ノ昔ニ廢滅ニ歸シタルモ製炭事業ハ赤崎附近ニ於テハ20餘年前迄ハ繼續セラレタト傳ヘラレテ居ル此方面即現在ノ林班26—31附近ガ其林相他ト異リ現ニ壯齡ノ潤葉樹最多キハ蓋シ此爲デアラウ。上流上谷方面ニハ近江及若狭ヨリ入リタル者數戸中山盆地ニ住居シ溪畔ヲ開墾シ木工ヲ業トシ「ミヅメ」等ヲ材料トシテ盆、杓子等ヲ作り又ハ「スギ」ヲ材料トシテ下駄ヲ作り甚シキハ盆地内ニ小運河ヲ穿チテ水ヲ溝ヘ枕谷ヲ溯リ生杉ヲ經テ琵琶湖ニ赴ク路線ニヨリテ運材ヲ爲シタル事モアル、此方面ハ奥地ニシテ森林所有者ノ取締寛ナリシ爲相當巨額ノモノガ搬出セラレタト察セラル、モ凡20年前以來此事ハ止ミタル様デアル。シカモ此爲ニ中山盆地附近ノ林相ハ極端ニ惡化シテ叢生地ト化シ更ニ營ノ採取行ハレ良好ナル營ヲ得ル爲ニ數回ニ亘ル火入アリ現ニ局部的ニ無立木地ノ存スルハ此爲デアラウ。森林所有者ノ行ヒタル伐採ハ村役場ノ調査ニヨレバ明治26年ヨリ大正4年迄ノ間ニ「スギ」(多少ノ「ヒノキ」ヲ含ム)丸太129,500尺ガ此價格194,250圓、「クリ」枕木150,000挺此價格75,000

圓トアルガ多少此調査ニ洩レタモノモアラウト思ハレル、之等ノ伐出材ハ山陰線開通以前ハ由良川ヲ流送シ宮島ニ揚陸シ海老坂ヲ越エテ大堰川筋ニ出スカ又ハ樽丸ノ如キハ廣河原方面ニ搬出シタガ鐵道開通後ハ由良川ヲ和知迄流送シテ同地デ揚陸シタ、而シテ之等ニヨリ收入シタルモノ、約60%ハ積立金トシテ村役場ニ保管セラレ約40%ハ各戸ニ分配セラレタト云フ、一面森林ノ手入モ行ハレタガ夫ハ明治45年頃ヨリ大正5年ニ亘リテ當時「スギ」ノ比較的大ナル稚樹ノ存在シタル區域即現在ノ林班14,16,17等ニ亘リ約180haノ地ニ對シ潤葉樹ノ卷枯シテ行ヒ1ha當リ20人工位ヲ使用シタルモノ、如クデアル、此區域ノ「スギ」ハ卷枯シ後急激ナル生長ヲ爲スニ至リシモ卷枯シノ方法ノ如何ニヨリテハ反ツテ林地ヲ裸出シ灌木荆棘ヲ生ズルノ結果ヲ來シタル處モアル。

演習林ヲ設定シタル年即大正10年ニ演習林ニ於テ約31,000石ノ「スギ」材ヲ伐出シタガ之ハ林相ノ惡化ヲ助長スル虞モアリ尙又交通不便ノ時代ニ敢行スルヲ不得策トモ考ヘタノデ其後ハ中止シタ、潤葉樹ヲ卷枯シテ「スギ」ノ生長ヲ助長スルコト、稚樹ノ乏シキ個所ニ補植ヲ行フコト、無立木地ニ造林スルコト、除去シタル潤葉樹ノ利用等孰レモ案ヲ定メテ年々實行シタガ(詳細ハ造林、利用等ノ章ニ在ル)既述セル如ク本演習林ノ學術上ノ價值ノ絶大ナルニ鑑ミ之等ノ施業中繼續的ノモノ又ハ萬已ムヲ得ザルモノハ漸ク追フテ之ヲ縮小シ然ラザルモノハ全然中止シ専ラ精密ナル調査及絶對的ノ必要性アル林道ノ開墾ニ全力ヲ用フルコト、シテ以テ最近ニ到ツタノデアル。

第二節 施業ノ根本方針

本演習林ノ施業案ハ既述ノ如ク特ニ綿密ナル調査ヲ經テ最高程度ノ理想的案ヲ樹立シテ以テ國寶的森林ノ經營ニ萬遺漏ナカラシメン事ヲ期シテ居リ之ガ編成ヲ濫リニ急ガズ、根本的諸調査トシテ先ヅ精密ナル測量ヲ實行中ナルコト前既ニ述ベタル通りデアリ植生調査其他孰レモ本部各係、林學教室等ニ於テ或ハ又夫々ノ専門家ニ依頼シテ殆不斷ノ調査ヲ行ツテ居ル、其結果現在ニ於テ略々確定セル範圍内ニ於テ其大體ヲ述ブレバ本演習林ハ其特徴ニ從ヒ次ノ諸研究ヲ主眼トスル。

- (1) 「スギ」ニ關スル各般ノ研究
- (2) 潤葉樹ノ利用ニ關スル諸種ノ研究
- (3) 自然ノ大植物園トシテノ經營
- (4) 本學演習林ノ中心トシテ各演習林ニオクル諸研究事項トノ比較研究ヲ爲スコト

以下逐次之ヲ詳述スル。

第一、「スギ」ニ關スル各般ノ研究

「スギ」ノ郷土ノ中心デアル本演習林ハ其第一ノ使命トシテ「スギ」ニ關スル各般ノ調査ヲ行ハネバナラス事勿論デアル、而シテ「スギ」ハ本邦ノ林木ヲ代表スル樹種デアルカラ結局本邦ノ林業ニ關係

スル重要ナル問題ノ殆總テガ網羅セラル、コト、ナル、就中基本的ノモノトシテハ

い、郷土ノ保存

ろ、郷土ニオケル諸環境ノ調査

は、自然ニオケル「スギ」ノ盛衰ニ關スル調査

デアリ次デ人工ヲ加ヘタル場合ノ「スギ」ノ盛衰ニ關スル諸調査ヲ必要トシ之ハ

に、天然下種ヲ促進スル方法ノ研究

ほ、伏條苗ノ成立ヲ促進スル方法ノ研究

へ、生長ヲ促進スル方法ノ研究

と、撫育ニ關スル諸研究

ち、天然更新ノ諸方法ニ關スル研究

り、諸種ノ人工的原因ニヨリ成立及生長ヲ妨害シタル場合ノ諸研究等ニ分類シ得ル

以上ハ主トシテ現存林ノ更新及生長ヲ目標トシタルモノデアアルガ

ぬ、林内所産ノ「スギ」ノ人工造林ニ關スル諸研究

る、林外所産ノ「スギ」ノ人工造林ニ關スル諸研究

ガアリ之ニ續キテ

を、ぬ、る、ニヨリ成立シタル「スギ」林ニ關スル諸研究

わ、林内外所産「スギ」ノ各般ノ比較試験

等アルモ之ハ稍々遠キ將來ノ事ニ屬スル。

尙ホ其他ノ問題トシテ

か、材質其他ニ關スル調査

よ、經營上ノ諸問題ノ研究

等ハ一々舉グルニ違ナク更ニ最後ニ

た、上記諸研究ヲ「スギ」以外ノ主要ナル樹種ニツキ研究シ比較スル必要ガアル、即「スギ」ノ郷土ノ中心ニ於テ「スギ」以外ノ樹種ハ如何ニ生長スルカ、其經營法如何等ヲ「スギ」ト比較スル事ハ最必要ナル事項デアラネバナラヌ。

第二、潤葉樹ノ利用ニ關スル諸種ノ研究

之ハ本邦林業上ノ重大ナル問題ノ一デアアルガ本演習林ノ如ク現在ニ於テ各種多量ノ潤葉樹ヲ有セル所ニ於テハ之ガ研究亦其重大ナル使命ノ一デアリ而シテ此事タル「スギ」ノ更新ニ著大ナル關係ヲ有ツ、例ヘバ潤葉樹類踏躓シテ「スギ」ノ生育ヲ妨害セル地域ニ於テ假リニ之ヲ除去スルコトニヨリ

「スギ」ノ生育ヲ急激ニ促進シ得ベキ事明瞭デアツテモ潤葉樹ノ利用方法全然缺如セル場合之ガ除去ニ巨額ノ經費ヲ要シ爲ニ林業經營學上ノ見地ヨリ見テ問題トナル事モアラウ、尙本演習林ハ「スギ」ノ郷土ナリト雖シカモ決シテ「スギ」ノミノ郷土デハ無イカラ第一ノたニ記シタル諸研究ト關聯シテ潤葉樹ニ關スル諸研究モ爲サネバナラヌ。

第三、大植物園トシテノ經營

暖地產ト寒地產トノ植物ガ多種類相隣接シテ自然ニ生ゼル本演習林ハ好箇ノ植物園ニシテ或植物ニツキテハ殆北ノ限界ヲ爲シ又或植物ニ關シテハ其南方ノ限界ナルヤト想像セラル、モノモアリ、又ハ本地方ヲ郷土ノ中心トスル植物モアル、植物學、林學其他ノ研究上之ヲ保存シ助長シテ完全ナル自然ノ植物園トスルコト亦本演習林ノ大ナル使命デアリ尙地形、氣象等ノ複雑ナル爲現存植物以外ニ尙幾多ノ種類ヲ容ル、ニ適シテ居ル、是等ハ漸ヲ追フテ育成スル事ガ必要デアアル。

第四、他演習林トノ比較試験

位置、地形等ノ點ヨリ本演習林ハ本學演習林ノ中樞ヲ爲スモノデアアルカラ各地演習林ニ於テ施行スル諸種ノ試験ト比較スル爲ニ同様ノ試験ヲ若シ夫ガ實行可能ノモノデアアルナラバ本演習林ニ於テモ行フ必要ガアル。

第三節 現在ノ施業方法

第一、森林ノ區劃

全林ヲ一事業區トシ顯著ナル峯又ハ谷ヲ以テ33個ノ林班ニ分ツ林班面積ノ最大ナルハ5林班ノ207ha餘デアリ最小ナルハ32林班ノ3ha餘デアアルガ之ハ飛地デアアル、尙最後ノ番號ヲ附シタル33林班ハ林外ノ事務所苗圃及林道敷地ヲ加ヘタルモノデアアル、林班別面積ハ先ニ林況調査表ニ於テ示シタル故茲ニ之ヲ省ク。

林班内ヲ其施業方法ノ異ルニ從ヒテ小班ニ分ケル、之ハ施業ノ方法、區域ノ確定スルニ從ツテ逐次ニ分ケテ行ク豫定デアリ現在ニ於テハ次項ニ述ブル程度ニ於テ小班ガ設ケラレテ居ル。

第二、施業種類別區域ノ決定

諸種ノ試験研究ヲ爲スニ際シ其試験區域ヲ決定スルコトハ基礎的重要性ヲ有スルモノデアアルカラ其選定ニハ特ニ周到ナル注意ヲ要スル。

(1) 先ヅ本流ニ添ヒ其最下流ヨリ最上流ニ至ル間幅員平均100mノ狹長地帯及内杉谷(林班5)ヲ準保存林トシタ、但後日幾分ノ變化アルヲ免レヌ、其面積ハ合計1096ha65ニシテ其内譯ハ次ノ如シ。

林小班	面積	林小班	面積	林小班	面積	林小班	面積
	ha		ha		ha		ha
5	207.66	12 い	35.16	21 い	31.36	26 い	4.03
8 い	35.64	13 い	76.90	22 い	55.86	28 い	15.20
9 い	38.49	17 い	52.55	23 い	8.46	29 い	67.17
10 い	31.76	18	162.84	24 い	4.95	30 い	12.07
11 い	21.72	19	131.11	25 い	87.81	31 い	15.91

此區域ニ於テハ大體ニ於テ前節掲グル處ノ第1ノい、ろ、は及第三ノ諸經營ヲ爲サントスルノデアツテ既ニ若干此目的ノ爲ノ施設ヲ爲シタル事ハ次章以下ニ於テ夫々記ス、調査ノ進ムニ伴ヒ試験事項毎ニ區域ヲ確定シ諸區域ハ必要ニ應ジテ夫々1林班又ハ少クトモ1小班トシテ獨立セシムル豫定デアル。

(2) 下谷流域及其附近中山作業所近傍421ha 57共内譯

林班 14	107 ha 20	林班20小班い	51 ha 02
林班 15	119 ha 22	林班21小班ろ	35 ha 79
林班 16	108 ha 34		

ハ前節第一に、は、へ、と、ち、り等ノ諸研究ヲ爲ス區域トシテアルガ之ハ調査ノ上更ニ區域ヲ擴大スル豫定デアル、之亦試験事項毎ニ逐次區劃ヲ爲ス豫定デアリ現在施業ノ要領ハ夫々造林以下ノ章ニ詳述スル。

(3) 小野子谷即林班6面積183.23及林班7面積84.08合計267ha 31ノ地域ハ主トシテ前節所掲第1ノたニ宛ツル目的ヲ以テ施業スルコト、シテ居ル。

(4) 上谷ノ一部分即林班17小班ろ其面積61.39及林班20小班ろ其面積69.78合計面積131ha 17ノ地ハ特殊ノ用途ニ充ツル目的デアル、即濕原ノ研究、寒帶植物育成試験、混農、混牧、動物飼育、其他、尙作業所、學生宿舍等ノ建設豫定地モ此中ニ在ル。

(5) 上記以外ノ殘存セル區域ハ2212ha 30デアリ此内ヨリ200—300haハ前記(2)ノ内ニ追加スル積リデアルガ未ダニ其區域ヲ確定シテ居ラス、殘餘ノ區域ハ之ヲ概言スレバ從來斧鉞ノ入りタル事甚數部分ニシテ他ニ比シ林相著シク劣リ此儘デ諸種ノ研究ヲ爲スニハ不適當デアル(勿論若干ノ研究ハ反ツテ此惡化シタル林相ヲ好對象トスルノデアルガ)依リテ現存潤葉樹類ヲ大體ニ於テ除去シテ以テ前節所掲ノ第一ノぬ、ろ及第四ノ研究ニ宛ツル豫定デアル然ルニ除去セラレタル潤葉樹ノ利用方法ニ乏シ、前節第二ニ掲ゲタル潤葉樹利用ニ關スル研究ハ此區域ニ於テ眼前ノ必要ニ迫ツテ

居ル、此點ニ關シテハ後ニ利用ノ章ニ於テ述ブルデアラウ。

(6) 前節第一ノか、よ、其他ニ就キテハ別ニ區域ヲ定メズ全林ニ亘リ適當ナル材料ヲ用ヒテ研究スルコトガ出來ル、學生ノ演習ニ就キテモ亦同ジ。

以上ノ外本章ニ記述スベキ事項數多アルモ便宜夫々次章以下ニ分チ記スコト、スル。

第五章 造 林

從來ハ専ラ林相ノ改良ヲ目的トシテ造林ヲ行フテ居タ、即次表ニ示ス如ク

(1) 先ヅ「スギ」ノ生長ヲ促進スル爲ニ妨害樹ヲ除却スル方法トシテハ大正13年度ニ於テハ比較的「スギ」ノ稚樹多キ區域ニ於テ之ガ生長ヲ妨害スル潤葉樹ノ大木ニ卷枯シラ試ミタ、之ハ「スギ」ノ生長ヲ促進スル點カラ云ヘバ兎モ角、潤葉樹ヲ空シク腐朽ニ委スル極メテ愚ナル方法デアルケレドモ今日ノ本邦ノ林業ヲ考フル時ニ遺憾年ラ卷枯シハ尙未ダ全然之ヲ放擲スル能ハザル作業デアルカラ試験的ニ試ミタノデアリ從ツテナルベク價値少キ樹種又ハ樹形ノ劣レルモノ、ミヲ試験ニ供シタ、翌大正14年度ニ於テハ「スギ」ノ生長ヲ妨害スル潤葉樹ノ大木ノ枝ノミヲ除却シテ幹ハ殘ス方法ヲ試ミタガ經費ノ點ニ於テハ著シク多額ヲ要スルガ「スギ」ニ對スル良好ナル影響ト潤葉樹材ノ損失無キ點トニ於テハ極メテ適當ナル方法デアル、更ニ翌大正15年度ニ於テハ「スギ」ノ稚樹ト競争シテ成長シ動モスレバ「スギ」ヲ壓迫セントスル潤葉樹ノ小木ヲ伐除スル方法ヲ試ミタ、之等諸方法ノ成績ノ比較ハ未ダ爲シ得ル時代ニ達シテ居ラスケレドモ今後ノ施業上幾多ノ參考資料ヲ得タル事ヲ信ズル。

(2) 之ト關聯シテ妨害木ノ利用ニツキテハ次章ニ讓ル。

(3) 人工造林ハ「スギ」ニ就キテハ天然生伏條苗ヲ直接山出シスル方法、天然生伏條苗ヲ一旦苗圃内ニ於テ育成シタル後山出シスル方法、苗圃内ニ播種シテ造成シタル苗木ヲ用フル方法、挿穂ヲ取りテ直接山地ニ直挿スル方法、挿穂ヲ一旦苗圃内ニ挿木シテ育成シタル苗木ヲ用フル方法等ヲ試ミタ。

(4) 「スギ」以外ノ樹種ニツキテモ各種ノ苗木ヲ養成シ産出スルニ從ヒ山地ニ植栽シタル事表ニ示ス通りデアル。

(5) 此外多少ノ副産物栽培ヲモ開始シタ。

年 度	場 所	種 別	實 行 期	樹 種	數 量	面 積
大正13年度	下 谷	卷 枯	5月7日—28日 7月22日—8月9日	シデ、ナラ、ブナ ミヅメ、カヘデ等	2,281本 2,337m ³	89ha 95
	上 谷	植 栽	5月29日	キ リ	350本	

年 度	場 所	種 別	實 行 期	樹 種	數 量	面 積
大正14年度	下 谷 三ノ谷、四ノ谷 内杉谷、蓬谷、 七瀬谷、下谷、 上谷、赤崎谷	巻枯及枝打	8月28日—12月10日	シデ、ナラ、ブナ 等		320ha30
		副産物栽培	4月—7月	山 葵	7,500本	0ha007
大正15年度	上 記 區 域 赤崎谷、大蓬、 七瀬、大谷、小 野子谷 下谷、小野子谷	人工植栽	5月—11月	スギ、ヒバ、クリ、 キリ	61,241本	
		下刈及巻枯	7月—9月			198ha40
		副産物栽培	4月—7月	山 葵	8,250本	
昭和2年度	林班 6 林班 4. 7. 林班6 外13個所 林班4 外7個所	人工植栽	5月	ヒ ノ キ	1,902本	0ha73
		同	4月—10月	キ リ	123本	1ha50
		補 植	5月—11月	スギ、ヒノキ	48,332本 273本	58ha94
		手 入	5月—9月			213ha70
		副産物栽培	4月—12月	山 葵	208本	

上表中人工植栽本数ノ内譯次ノ如シ。

大正15年度、杉天然生伏條苗	49,991本
杉天然生伏條苗ヲ養成セルモノ	1,100本
苗圃内播種ニヨル杉苗(土産)	2,600本
杉挿穂苗(山地直挿)	2,280本
キ リ	108本
マ ア テ(能登産)	880本
ク サ ア テ(能登産)	150本
ヒ バ	3,844本
ク リ	288本
昭和2年度、杉天然生伏條苗	44,659本
杉天然生伏條苗ヲ養成セルモノ	680本
ヒ ノ キ	2,175本
苗圃内播種ニヨル妙見杉	520本
〃〃三ノ谷口宮杉(保存木ノ種子ヲ採リテ養成セルモノ)	2,533本

キ リ

123本

是等ニ要スル苗圃ハ事務所附近、中山作業所附近及林間各地ニ設アリ、特殊樹種ニ就キテハ本部試験地ヲモ用フル。

上記セル諸種ノ造林ハ今後モ尙逐次其種類ト量トヲ増シテ實行スル外先ニ施業ノ章ニ於テ述ベタル諸般ノ事業ハ孰レモ夫々最適ナル地域ヲ選定シテ實行スル。

第六章 保 護

本演習林ノ保護ニ關シテハ殆記述ノ要アルモノヲ見ヌ、隣接地トノ關係ハ密接且圓滿ニシテ境界侵犯、誤盜伐等全然無ク火災モ絶無デアル、タ、害鳥獸ノ被害就中熊ガ「スギ」ノ樹皮ヲ剥グ爲ニ蒙ルムル損害ハ莫大ナルモノガアルノデ在勤職員ニ害鳥獸ノ驅除命令ヲ爲シ専ラ之ガ捕獲ニ勉ムト雖成績未ダ舉ラザルヲ遺憾トスル。

第七章 利 用

大正11年カラ12年ニカケテ14,557石472ノ「スギ」丸太ヲ伐採搬出シタル以後ハ利用事業ハ中止シテ居タガ「スギ」ノ生長ヲ促進スル爲ニ之ガ妨害ヲナス潤葉樹ノ除却ヲ初ムルニ及ビ之等潤葉樹ノ利用方法ヲ考究シ先ヅ之ヲ用ヒテ椎茸ヲ栽培セントシ既往ニ於テ次記ノ通りニ之ヲ施シタ。

年 度	種 目	數 量		製品價格	經 費	摘 要
		資材立木	製品重量			
大正十四年度	椎茸栽培	m ² 4861	kg —	圓 —	圓 881,550	資材ハ當年度伐採ノ分ヲ掲ゲ
大正十五年度 昭和元 年度	〃	1,655	—	—	6,096,220	同 上 小屋掛費ハ假建物ニ掲上ニ付省ク
昭和二 年度	〃	821	千生 53 5	233,360	8,071,280	同 上
計		7,337	千生 53 5	233,360	15,049,050	

椎茸ハ昭和3年度ヨリ初メテ多量ニ産出セラル、管デ2年度ニ産出シタルハ所謂「走り」ニ過ギスケレドモ其製品ハ相當上等デアリ櫛木モ良好ニシテ其前途ハ極メテ有望ナルヲ思ハシムルモノガアル、今後當分ノ間ハ林相改良ノ爲各地ニテ少許宛除伐ヲ要スベキ潤葉樹ヲ利用シテ之ガ栽培ヲ爲ス豫定デアル、乾燥小屋ハ現ニ3棟アリ(後章ニ詳細ヲ示ス)大分縣ヨリ輸入レタル定夫ヲシテ専ラ裁

培、乾燥等ノコトニ當ラシメテ居ル。

人工造林試験區域及林相ノ不良ナル區域ヨリハ相當經マリタル材積ノ潤葉樹ヲ伐採セネバナラス事ハ既記ノ如クデアリ之ガ利用ヲ講ズル爲ニハ林道ノ開設ヲ急務ナリトシ現ニ銳意實行中ニ在ルコトハ次章ニ於テ之ヲ述ブベク其開設ノ曉ニハ先ヅ製炭事業ヲ行フベク且下之ガ準備時代ニ在リ、續イテ製材所ヲ設ケ潤葉樹ヲ製材シテ搬出シ更ニ進シテ現在撫育中ノ「スギ」ガ相當ノ年齢ニ達スルニ至レバ或ハ丸太トシ或ハ製材シテ搬出スベク今後本演習林ノ利用事業ハ頗ニ盛大トナルベキモ今ノ所ハ尙未ダ之ガ準備ノ時代ニ在ルモノト云ハネバナラス。

第八章 土木及建築

第一節 道路

第一、路網計劃

演習林ノ設置ト同時ニ路網計劃ヲ爲シ爾後逐次改訂増加ヲ施シタルモ其計劃ノ大要次ノ如シ。

- I. 主林道、成ルベク自動車ヲ通ジ得ベカラシメ已ムヲ得ザル個所ハ軌道トス。
- A. 京都府道ヨリ分岐シ林内ヲ本流ニ沿ヒ貫通シ最上流ヨリ杉尾峠ヲ越エテ林外ニ出デ福井縣下ノ適當ナル道路ニ結ブ線
- B. A線中ノ本谷内杉谷合流點ヨリ分岐シ内杉谷ヲ溯リぶなの木峠ヲ越エテ下谷ニ添ヒ下リ下谷上谷合流點ニ於テA線ニ連絡スル線
- C. A線中ノ本谷枕谷合流點ヨリ分岐シ枕谷ヲ溯リテ林外ニ出デ滋賀縣下ノ適當ナル道路ニ結ブ線

線名	區間	自 至	距離(m)	種 類	施行豫定	備 考
A	1	自起點 至出合	約 3500?	自動車道	昭和 4	林外(京都府下)
	2	自出合 至事務所	約 2200	自動車道	大正 15	林外(京都府下)
	3	自事務所 至大蓬	約 3600	軌道	昭和 2	約5/8ハ林外(京都府下) 約3/8ハ林内
	4	自大蓬 至七瀬	約 2500	軌道	" 3	林内
	5	自七瀬 至壺谷	約 2500	軌道	" 9	林内
	6	自壺谷 至中山	約 2500	軌道	" 8	林内
	7	自中山 至杉尾峠	約 3600	自動車道	" 7	林内
	8	自杉尾峠 至終點	約 4000?	?	" 10	林外(福井縣下)

線名	區間	自 至	距離(m)	種 類	施行豫定	備 考
B	1	自事務所 至内杉	約 2500	自動車道	昭和 5	林内
	2	自内杉 至中山	約 2500	自動車道	" 6	林内
C	1	自起點 至林界	約 1000	自動車道	昭和 7	林内
	2	自林界 至終點	約 3000?	自動車道	" 11	林外(滋賀縣下)

線 名	林内距離 (m)	林外距離 (m)	合 計	自 動 車 道	軌 道
A	12,900	11,500	24,400	13,300?	11,100
B	5,000	—	5,000	5,000	—
C	1,000	3,000	4,000	4,000	—
合 計	18,900	14,500	33,400	22,300?	11,100

上表ノ數字ハ測量前ノ概數デアリ尙起點終點等ハ豫メ定メ難キ事情アルヲ以テ其部分ニ對シテハ極メテ概略ノ見込數ヲ示シタニ過ギス。

II. 副林道、牛馬道又ハ歩道トス。

- A. 境界一周路、總延長約 35,000m
 - B. 林班界路、總延長約 47,000m
 - C. 林班内路、總延長約 35,000m
- 合 計 117,000m

右ノウチ境界一周路ハ原則トシテ境界線上ニ設ケ以テ境界明示、保護ニ宜ツルノ外或ハ防火線ノ兼用トモ爲シ境界標ノ保全ニモ便シ測量實習等ノ便宜ニ供セントスルモノデアリ、林班界路ハ必ズシモ林班界ニ嚴密ニ添フヲ要セザルモ顯著ナル峯、谷等ヲ林班界トセル關係上副林道ハ屢々林班界ト一致スルヲ以テ此名稱ヲ與ヘタルモノニシテ其他ノ林道ヲ一括シテ林班内路ト稱シタノデアル。而シテ之等副林道ハ施業ノ進捗其他ヲ考慮シ必要ノ度大ナルモノヨリ逐次開設スルコト、スル。

第二、既成道路

既成道路ノ内譯ハ次ノ如クデアル、但前述ノ路網計劃ト對照スル爲ニ最初ニ見込距離ヲ以テ示セルモノヲ掲ゲル。

第一圖



	既成距離(見込)	未成距離(見込)
主 林 道	5,800 ^m	27,600 ^m
境界一周路	6,000	29,000
林班界路	21,000	26,000
林班内路	19,000	16,000
合 計	51,800	98,600

但主林道ハ自動車道又ハ軌道トシテノ既成未成ヲ示シテ居ルノデアリ歩道トシテハ全部既ニ出来テ居ル、又副林道中境界一周路ハ本年度測量事業ニ伴ヒ大部分ハ完成シタケレドモ上記ノ数字ハ昭和2年度末現在ヲ以テ示シテ居ルカラ現状トハ稍々相違ガアル、今若シ主林道ノ歩道トシテ竣工セルモノヲ既成ノ内ニ加ヘ尙本年度ニ入り竣工セルモノヲモ加フル時ハ既成ト未成トノ割合ハ略々上記セル所ト逆ニナルデアラウ。

次ニ既往ニオケル道路事業ノ大略ヲ表示スル、此表ノ数字ガ上記ノ表ノ数字ト一致セザルハ上表ハ見込距離ニシテ本表ハ實行距離デアルコト及主林道ヲ歩道トシテ開鑿シタルモノヲモ含メルガ故デアル。

臨時費支辨林道工事

名稱	區 間	延長	工 費	年 度	起 工 竣 工	備 考
主林道 A 2	自出合 至事務所	1694間	31,967圓67	大正15年	15. 7. 9. 15. 12. 9.	自動車道トス 内木橋4個、此工費3,344圓35錢アリ 外ニ事務費 779圓61錢ヲ要シタリ
主林道 A 3	自事務所 至大 差	2411間	41,599圓04	昭和2年	2. 7. 9. 15. 12. 8.	軌道路體トス 内木橋5個、此工費6,819圓42錢アリ 外ニ事務費 1,228圓84錢ヲ要シタリ

經常費支辨林道工事

名 稱	種 別	延長	工 費	施行年度	備 考
下 谷 歩 道	新 設	2.916 ^m 000	752 ^圓 000	大正12	
内 杉 歩 道	同	1.262 ^m 000	324 ^圓 700	同 12	櫻峠ヨリ坂下
同	改 修	5.708 ^m 000	1,803 ^圓 400	同 12	坂下ヨリ事務所ニ至ル
木 谷 歩 道	新 設	2.560 ^m 000	579 ^圓 670	同 12	中山、岩谷間
同	改 修	2.560 ^m 000	578 ^圓 180	同 14	同上 改修
同	同	11.130 ^m 000	2,507 ^圓 290	同 14	岩谷、灰野間徑路改修

名 稱	種 別	延 長	工 費	施行年度	備 考
上 谷 步 道	改 修	4.192000	519420	同 14	
生 杉 步 道	同	761000	41900	同 14	
本 谷 步 道	同	11.130000	1.432195	大正15 昭和元	岩谷、灰野間改修
天 狗 岳 步 道	新 設	3.210000	87055	同	天狗岳境界間ヲ含ム
スベノ木歩道	同	2.316000	87750	同	
大 壺 步 道	同	1.752000	51500	同	
七瀬西尾歩道	同	3.949000	132150	同	
岩 谷 步 道	同	5.792000	34800	同	
ゲロク谷歩道	同	3.115000	48640	同	
大 谷 步 道	同	2.452000	67720	同	
小野子中尾歩道	同	1.850000	81940	同	
赤崎西谷歩道	同	1.800000	60500	同	全長3.300mノ内新設
下谷南尾歩道	改 修	5.469000	58705	同	中山、八宙山間ハ含マズ
内杉右岸中瀬歩道	新 設	2.700000	160560	同	
ブナノ木歩道	改 修	3.778000	95160	同	
下谷北尾歩道	新 設	3.200000	156860	同	
三ノ谷歩道	同	1.450000	43670	同	
七瀬東尾歩道	改 修	2.535000	47725	同	
境 界 步 道	新 設	1.458000	34900	同	岩谷頭、三國岳間
同	同	6.533000	72000	同	三國岳、大谷頭間
同	同	1.000000	34810	同	ゲロク頭、赤崎、東谷頭間
赤崎東谷歩道	同	2.727000	117260	昭和 2	
赤崎中尾歩道	同	1.570000	68295	同 2	
内杉右岸橋道	同	1.000000	43100	同 2	
櫃 倉 步 道	改 修	5.009000	107795	同 2	在來徑路改修
九 鬼 越 步 道	新 設	3.329000	38550	同 2	

第二節 建 築

屢々述ベタル如ク農學部創設前ニハ學生用ノ諸建築ヲ必要トセザリシヲ以テ其設備無ク學部創設後ハ急激ニ演習林ハ其面目ヲ一新シタル爲諸般ノ設備ニ追ハレ之ガ爲ニ學生用ノ諸建築物ハ現在演習林ノ諸設備中最不足ナルモノデアリ之ガ實施ハ頗ル急ヲ要スルモノデアル、從來學生ノ演習最多カリシ本演習林ニ於テモ共有スル諸建物ハ僅カニ下表ニ示スモノガアルニ過ギス。

臨時費支辨諸建物等

名 稱	構 造	數 量	價 格	年 度	起 竣	工 工	備 考
事 務 所	木造平家建	坪 3125	圓 6.875150	大正12	12. 7. 4. 12. 11. 15.		新 築
宿 舍	同	坪 3225	圓 8.136790	同 12	12. 7. 4. 12. 11. 15.		同
物 置	同	坪 1250	圓 2.088060	同 12	12. 7. 4. 12. 11. 15.		同
門		1	29300	同 12	13. 1. 11.		新 設
水 道		1	387700	同 12	12. 11. 29.		同
下 水		1	5000	同 12	12. 11. 29.		同
池 井		1	230000	同 12	13. 1. 11.		同
雜工作物		1	74850	同 12	13. 1. 11.		同
宿 舍	木造平家建	坪 20975	圓 4.595470	大正15 昭和元	15. 8. 15. 15. 11. 15.		新 築
同	同	坪 15350	圓 3.729530	同 15 同 元	15. 8. 15. 15. 11. 15.		同

經常費支辨諸建物

名 稱	構 造	數 量	工 費	施行年度	摘 要
中山人夫小屋	木造平家建	坪 1350	圓		知井村ヨリ引繼
七瀬人夫小屋	同	坪 1710	圓 633720	大正13	新 設
同 附屬小屋	同	坪 300	圓 215675	同 14	物置、浴室、便所
中山人夫小屋	同	坪 3050	圓 1853390	同 14	本家 27坪(便所渡廊下共) 物置 2坪 便所1.5坪
内杉人夫小屋 及 附屬小屋	同	坪 2341	圓 946900	大正15 昭和元	本家 19.67坪 便所1.27坪 物置 2.47坪
内杉乾燥小屋	同	坪 1050	圓 667465	同 15 同 元	新 設
七瀬乾燥小屋	同	坪 1050	圓 667465	同 15 同 元	同
中山乾燥小屋	同	坪 1050	圓 667465	同 15 同 元	同
岩谷人夫小屋	同	坪 1859	圓 403200	同 15 同 元	同
同 便 所	同	1	圓 71400	昭和 2	同
中山人夫小屋附屬 炊事場及浴室	同	炊事場 300 浴室 225	圓 141190	同 2	同

是等ノウチ事務所及宿舍ハ學部創設以前ノ状態ヲ基トシテ計劃セラレタルモノデアラカラ著シク狹隘ヲ告ゲテ居リ増築ノ必要ニ迫リ人夫小屋ハ從來學生演習ニモ使用シタルガ到底人夫ノ宿泊ノミニモ不足デアリ即既設諸建物孰レモ増築ヲ要スル上ニ既記ノ如ク新タニ學生用ノ諸建築ヲ必要トシ尙之ニ加フルニ林道開通ノ上ハ稍々大規模ニ實行セラルベキ伐採事業ニ伴フ諸建築ヲモ必要トスル依リテ之等ノ諸工事ヲ緩急ニ應ジ年度ニ分チ施工スベク目下立案中デアル、殊ニ斯クノ如キハ他演習林ニ於テモ全く同様ノ情况ニ在ルヲ以テ彼此前後ヲ考慮シ適當ニ安排シテ今後數年間ニオケル計劃ヲ爲シツ、アルガ大體ニ於テハ次ノ如キ諸工事が實現セラル、デアラウ、即現在ノ事務所附近ト中山作業所附近トガ中心地トナリ前者ニハ事務所増築、宿舍増築、倉庫其他雜建物新築等が行ハレ、後者ニハ學生宿舍、同研究室、同作業室等ガ新築セラレ而シテ人夫小屋ハ各所ニ分チ新築セラレネバナラス、之ハ最近5年間ニオケル最小範圍ノ建築豫定デアリ既ニ其一部分ハ昭和4年度豫算ニ計上シテアル。

第三節 雜 工 事

學部創設前經營上ノ必要ヨリ各所間ニ専用電話線ヲ敷設シタガ距離、經費等ノ記録ハ明デナイ、大正14年ニ事務所、中山作業所、七瀬小屋間ニ敷設セルモノハ距離17,495m、其經費484圓86錢其後多少ノ異動ガアル、林道工事は伴ヒ將來ニ於テモ此線ハ多少ノ模様替ヲ要スベク尙逐次延長ノ必要アルモ之亦目下具體案設計中ニ屬ス。

水力ヲ利用シテ發電スル事ハ古クヨリ計劃セラレタルモノ之亦道路建築等ノ進捗ニ伴フ要ガアルノデ今尙計劃中ニシテ實現ノ運ニ至ツテ居ラス。

第九章 演 習

大正13年農學部ノ設置セラル、ト同時ニ學生演習ハ本演習林ニ於テ爲サレタ、當時未ダ學生多カラズ教官亦其員ニ備ハラズシテ他演習林ノ如ク遠隔ナル地方ニ於ケル演習ハ之ヲ實行スルニ多大ノ困難アリタル爲ニ爾後最近ニ至ル迄殆總テノ學生演習ハ本演習林ニ於テ行ハレタノデアル、即大正13年ニハ1年生ノ測量學實習、大正14年ニハ1年生ノ森林植物學及測樹學實習及林學實習、2年生ノ經理學演習及林學實習、大正15年ニハ1年生ノ測樹學實習、2年及3年生ノ經理學演習、昭和2年ニハ1年生ノ測樹學及森林植物學實習、3年生ノ經理學演習が行ハレ學生ハ殆毎年本演習林ニ於テ演習ヲ行ヒタル外更ニ所謂演習林演習及專攻科目演習ノ爲ニ本林ヲ利用スルモノ尠カラズ、而シテ單ニ林學科學生ノミナラス農學科學生、農林工學科學生、農林經濟學科學生乃至其他ノ學科又ハ他學部ノ

學生ノ本演習林ヲ利用スルモノモ乏シクナイ、然ルニ之等ニ對スル設備ハ他ノ諸設備ニ迫ハレテ容易ニ實現セラレズ爲ニ假小屋、天幕等ヲ以テ辛フジテ其用ヲ足シテ來タノデアルガ學生數ノ増加ト來往ノ激増トニ對シ到底永ク忍ブ能ハザルヲ以テ極メテ最近ノ機會ニ於テ學生宿舍、研究室等ヲ建設スベク既ニ一部ノ設計ヲ終ヘテ居ル、尙從來本演習林ハ冬期入山スル事殆不可能視セラレテ居タルモ昭和2年2月ニ入山シテ絶好ノ「スキー」練習地タルヲ發見シ從ツテ從來動モスレバ等閑視セラレタル冬期ニオケル山地ノ諸現象ノ觀測、植物ノ調査等モ容易ニ行ヒ得ルヲ知リタルヲ以テ今後ハ一年ヲ通ジテ學生其他ノ本演習林ニ來往スルモノ極メテ頻々タルベキヲ想像シ得ル。

第十章 調 査

本演習林ニオケル諸般ノ調査ハ或ハ施業ニ造林ニ又ハ利用其他ニ夫々關係スルモノデアリ既ニ夫等ノ章ニ於テ述べ又ハ其取纏メラレタル結果ハ演習林報告トシテ發表スベク特ニ此處ニ記述スルノ要ナキモ基本的調査ニ屬スル事項中測量ハ本年度ヨリ開始シ其業既ニ半ヲ終了シ明年度中ニハ基本測量ノ一切ノ成果ヲ得ベク、植生調査ハ最意ヲ用ヒテ早クヨリ之ニ着手シ學部教官職員、演習林職員ノ之ニ關スル調査ノ外尙毎年夫々専門家ノ來林ヲ請ヒテ完全ナル調査ヲ繼行シツ、アルモ此種ノ調査ハ從ツテ研究スレバ從ツテ多クノ問題ヲ生ジ底止スル所ヲ知ラズ、但其一部分タル植物調査報告中ノ更ニ一部分タル樹木誌ハ近ク發刊セラルベク準備中デアル。

保存木又ハ保存林トシテ指定セラレタルモノ次ノ如シ。

番號	種 別	名 稱	設定月日	林班	面 積	樹 種	本數	胸高直徑	備 考
1	保存木	大 桂	3. 6. 26.	16		カツラ	1	2m66	二ノ谷向 演習林内最大ノ樹木
2	保存木	下谷宮ノ森	3. 6. 26.	16	370m ²	スギ トチ モミヂ ミヅキ ハクウンボク	13 5 2 2 1		三ノ谷向
3	保存木	連 理 杉	3. 6. 26.	5		ミヅナラ	2		並立セル2本ノ「ミヅナラ」ノ一方ノ枝ガ他方ニ接癒シテN字形ヲ爲ス、 榊坂ヨリ南134mぶたの木歩道側

番號	種別	名稱	設定月日	林班	面積	樹種	本數	胸高直徑	備考	
4	保存木	榎ノ大瘤	3. 6. 26.	15		ブナ	1		榎坂ヨリ南640mぶなの木歩道側	
5	保存木	根曲杉	3. 6. 26.	13		スギ	1	0m75	幹ノ下部大ニ彎曲シ該部ニ「リョウブ」「ナ、カマド」叢生ス、中山ヨリ1106m西、下谷南尾歩道側	
6	保存木	女夫杉	3. 6. 26.	14		スギ	2		2本ノ「スギ」ガ幹ノ中央ニテ抱合セルモノ中山ヨリ西392m下谷南尾歩道側	
7	保存木	大檜	3. 6. 26.	13		ヒノキ	1	2m17	演習林内最大ノ「ヒノキ」、中山ヨリ西860m下谷南尾歩道側	
8	保存林	上谷宮ノ森	3. 6. 28.	20	524m ²	スギ	42		生杉橋ヨリ東100m	
9	保存林	小中山	3. 6. 28.	19	1ha54	第一區 0ha46			「コナラ」並木狀ニ列立ス、「コナラ」トシテ他ニ多ク見ザル大木ノ集團ナリ	
						コナラ	100			
						ブナ	4			
						クリ	7			
						マンサク	1			
						アヲハダ	1			
						ネヂキ	13			
						ハクウンボク	2			
						ウラジロ	2			
						シデ	5			
						アヅキナシ	1			
						第二區 0ha21				前區ニ比シ「コナラ」小ナリ
						コナラ	101			
						ブナ	1			
						ウラジロ	1			
						シデ	5			
						マンサク	6			
						第三區 0ha87				前區ニ比シ立木度疎ナリ
コナラ	9									
クリ	2									
アカマツ	1									
		アカモノ							山頂附近ニ群生ス	

第十一章 雜

本演習林ニハ現ニ助手(主任心得)1名、雇員2名、定夫4名、定婦1名アルニ過ギズシテ職員ノ不足セルコト各演習林中本演習林ヲ以テ最トスル、蓋シ助教(主任)1名、助手4名(造林利用施業調査各1)書記1名ノ本官ヲ置キ之ニ相當シテ雇員定夫等モ増加スルヲ要シ之ハ逐次其實現ヲ期シツ、アル。

既往ニオケル收支關係ヲ示セバ次ノ通りデアル。

支出 (經常部)

年度	目	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習林費	各所修繕	合計
大正 10		0 圓	0 圓	2,080 圓	0 圓	2,080 圓
同 11		0	0	13,031	0	13,031
同 12		0	0	6,975	209,699	216,674
同 13		0	0	9,412	0	9,412
同 14		0	0	14,848	483	15,331
大正 15		0	0	22,491	0	22,491
昭和 元		0	0	22,491	0	22,491
同 2		0	1,104	22,106	0	23,210
計		0	1,104	90,943	210,182	302,229

農場及演習林費内譯次ノ如シ但大正11年度以前ハ不明ニツキ省ク

年度	農場及演習林費内譯													
	備品	圖書印刷	消耗品	通信運搬	實驗費	動物費	肥料購買	種苗購買	内國旅費	給與	雇員給	備料	被服費	雜費
大正12	1,183	0	290	113	0	0	0	353	298	416	4,195	49	75	
同 13	1,259	0	323	115	0	0	0	189	327	473	6,643	9	71	
同 14	1,439	0	332	334	0	0	0	304	365	620	11,452	0	0	
同 15	1,325	80	561	233	0	0	9	853	394	580	18,349	101	1	
昭和 2	1,727	168	700	525	28	0	48	108	1,227	657	444	16,345	110	14
計	6,933	248	2,206	1,320	28	0	48	117	2,926	2,041	2,533	56,984	269	161

支 出 (臨時部)

年 度	目	金 額
大 正 11	演習林建物新營	785圓
同 12	同上及苗圃地買收	18,800
同 15	同上	8,325
“	演習林々道開鑿費	31,967
昭 和 2	同上	42,827
計		102,704

收 入

年 度	種 類	數 量	價 格	備 考
大正 11	丸太材拂下	13,681石5	圓 39,032.42	「スギ」丸太トス
同 12	末木拂下	875石97	350.38	「スギ」末木トス
昭和 2	馬鈴薯拂下	45貫	15.75	
“	干椎茸拂下	14貫135	226.16	
“	生椎茸拂下	1貫200	7.20	
合 計			39,631.91	



（流）
景ノ全林習演山歌和タル見ヨリ近附屋茶ノ笹



流 / 千 鉢 (演)



中流附近 / 林相 (演)



二股本谷ノ林相 (演)



二股中尾ノ「ブナ」林 (演)

第六篇 歌和山演習林

第一章 概 況

京都帝國大學農學部附屬和歌山演習林ハ和歌山縣有田郡八幡村大字上湯川ニ存シ字南山及八幡谷ニ跨ル臺帳面積53町ノ地域ナルモ推測面積ハ555ha、外ニ大字近井ニ0.365ha、ノ事務所敷地ガアル。

林地ハ大正15年1月19日ヨリ向フ99年ノ地上權ヲ私有林ニ設定シタモノデ演習林トシテハ面積過小ニシテ充分ナル施業ヲ爲ス能ハザルヲ以テ近キ將來ニ於テ之ガ擴張ヲ計劃シテ居ル、下ニ地上權設定ノ證書ヲ示ス。

地上權設定證書

一、地上權設定ノ土地及範圍

和歌山縣有田郡八幡村大字上湯川字南山參拾貳番地ノ壹

一、山林臺帳反別 拾貳町五反九畝步

同上字南山參拾六番地

一、山林臺帳反別 八町五反九畝步

同上字南山參拾七番地ノ壹

一、山林臺帳反別 拾六町九反九畝步

同上字南山參拾七番地ノ貳

一、山林臺帳反別 壹畝步

同上字八幡谷參拾八番地ノ貳

一、山林臺帳反別 拾四町九反步

合計山林臺帳反別 五拾參町八畝步

二、地上權設定ノ目的

京都帝國大學ニ於テ學術研究及實地演習ノ目的ヲ以テ林業及附帶事業ヲ經營スルモノトス

三、地上權存續期間

大正十五年壹月拾九日ヨリ向フ九拾九ケ年トス

但シ地上權者ハ土地所有者ト協議ノ上更ニ期間ヲ延長スルコトヲ得

四、収益ニ對スル權利

土地所有者ハ立木處分ノ都度之ニ依リ生スル収益ノ百分ノ貳拾五ヲ取得ス

但シ地上權者ハ土地所有者ト協議ノ上立木ヲ以テ収益分收ヲ爲スコトヲ得

右條項ニ依リ京都帝國大學總長ト土地所有者トノ間ニ地上權ヲ設定スルコトヲ契約シ證書二通ヲ作製シ双方署名捺印ノ上各其壹通ヲ領置ス

大正拾五年壹月拾九日

土地所有者

和歌山縣有田郡八幡村大字清水一七七四番地

地上權者

京都帝國大學總長

海 瀬 定 一

荒 木 寅 三 郎

本演習林設定ノ理由ハ本書冒頭ニ於テモ述ベタル通り

- (1) 暖帯林ナルコト
 - (2) 「ヒノキ」ノ育成ニ適スルコト
 - (3) 各種ノ針葉樹林及闊葉樹林ヲ僅少宛ナレドモ見本的ニ有セルコト
 - (4) 日本ノ三大林業地ノ1タル吉野ニ近接シ附近森林孰レモ其影響ヲ受ケ居ルコト
 - (5) 大學ヨリ1日行程ニシテ演習其他ノ便多キコト
- 等デアリ之本演習林特徴ノ大要ヲ爲シ此特徴ニ基キ施業ヲ進メツ、アル。

第二章 地 況

紀州半島ノ中部ニ存スル長峯山脈ハ高野山ノ南數里ニシテ西ニ2ノ略々平行セル小支脈ヲ出シテ居ル、即護摩ノ壇山(1370m)ヨリ分レテ笹ノ茶屋(1077m)ヲ經、朽砥山(858m)、矢筈山(683m)等ヲ起シテ清水ニ終ルモノ及同ジク護摩ノ壇山ヨリ出デ、城ヶ森山(1269m)若敷山(1152m)石堂山(1081m)水ヶ寶形山(1064m)兵ヶ城山(701m)ヲ連ネテ清水附近ニ終ルモノトデアアル、此兩支脈ノ間ヲ流ル、ハ湯川川ト稱シ右田川ノ一支流デアアル、此湯川川ノ水源附近南側即北境ヲ湯川川トシ南境ヲ前記ノ護摩ノ壇山、城ヶ森山等ノ連脈トスル區域ガ本演習林デアリ東境ヨリ僅ニ1kmニシテ奈良縣吉野郡野迫川村及十津川村アリ、南ハ日高郡龍神村及寒川村ニ隣シ北及西ニハ八幡村尙延ビ而シテ西境ニ近ク津股ノ國有林ガアル、演習林ノ東西ハ4km 2、南北ハ2km 1ニ延ブ。

林内ニハ西ヨリ算ヘテ大谷、細谷、尾切谷、下リ瀧及二ノ俣谷アリ、孰レモ急流ニシテ幾多ノ瀑布ヲ作リツ、北流シテ湯川川ニ注グ地勢概ネ急峻ニシテ最低海拔400mヨリ最高1200mニ及ブ。

地質ハ中生層ニシテ基岩ノ主ナルモノハ輝綠凝灰岩、珪岩等デアアル、土質ハ砂質又ハ礫質壤土ニシテ概ネ肥沃ナル土壤ヲ形成シテ居ル。

大學ヨリ本演習林ニ赴クニハ主要ナル路線3アリ、1ハ高野山ヨリ新子ヲ經テ笹ノ茶屋ニ至ルモノニシテ高野山ヨリ徒歩約24km 2ハ歌和山市ヨリ電車、自動車ニヨリ神野市場ニ出テ清水ヲ經テ林内ニ入ルモノニシテ徒歩區間約27km 3ハ紀勢西線湯淺驛ヨリ自動車ニテ二川ニ至リ以後徒歩ニヨリ清水ヲ經テ林内ニ入ルモノニシテ此區間 25km 孰レモ京都ヨリ1日乃至1日半ノ行程ニアルモノ近キ將來ニ於テハ容易ニ1日ヲ以テ達シ得ルニ至ルデアラウ。

氣象ハ昭和4年度ニ入りテヨリ觀測ヲ開始スル筈デアアル。

林班別面積推測表

林 班	面 積	備 考
1	146.50 ha	
2	42.00	
3	104.90	
4	80.40	
5	105.40	
6	75.80	
7	0.365	事務所及苗圃地
計	555.365	

第三章 林 況

演習林ノ林相ハ之ヲ概言スレバ天然下種ニヨリ成立セル針闊混交林ニシテ演習林設定前迄屢々加ハリタル斧鉞ノ跡ノ歴然タルモノヲ見ル、大體ニ於テ海拔高 800m ヨリ上部ニハ温帯樹種タル「ブナ」多ク之ヨリ下部ニハ暖帯樹種タル「シラカシ」ノ多ク混ズルヲ見ルガ闊葉樹ハ之等ノ外ニ「シデ」「ナラ類」「ケヤキ」「カヘデ」「クリ」「ミヅメ」「キハダ」「ソヨゴ」「リヤウブ」「アセビ」等多ク一般ニ直徑10cm、内外ニシテ間々40cm、ノモノ點在スルヲ見ルノミデアアル、針葉樹中最多キハ「ツガ」ニシテ針葉樹ノ約80%ヲ占メ他ハ「ヒメコマツ」「ヒノキ」「アカマツ」「カヤ」「スギ」「カウヤマキ」等ノ散生セルノミデアリ大多數ハ直徑10cm、以下、大ナルモ20cm、ニシテ30cm、ニ達スルハ稀デアアル、概シテ北面陰濕ノ地ニハ闊葉樹多ク東又ハ東南面等(本林ニハ南面スル處無シ)及峯筋ニシテ陽光透射充分ナル地域ニハ針葉樹が多い、尤之等地域ニ於テモ針葉樹ノ伐採甚シカリシ所ニ於テハ闊葉樹ノ繁茂夥シキモ仔細ニ檢スレバ針葉樹ハ壯齡級以上ヲ缺クノミニシテ稚樹ノ發生ハ隨所ニ之ヲ見ル。

局部的ニ見ル時針葉樹ハ稍普通ニ存在スルガ「ヒノキ」ハめうがおうじ尾(尾切谷及細谷間)及細尾(大谷及細谷間)ノ下部ニ多ク又闊葉樹ニ就テハ細谷ニ「カシ類」多ク二ノ俣谷ニ「ケヤキ」「クルミ」ヲ特ニ多ク見ル。

材積ハ總坪均ニ於テ針葉樹ハ1ha當リ20—50m³ 闊葉樹ハ1ha當リ40—70m³ デアル。

全林555ha 中約160ha ハ近キ將來ニ於テ針葉樹優勢トナリ、約300haハ然ラズ、而シテ殘餘ノ區域ハ絶嶮又ハ岩石地ニシテ施業上特殊ノ注意ヲ要スル處デアラウ。

第四章 施 業

施業案ハ目下編成中ナルモ其大要ハ既ニ決定シテ居ルカラ次ニ之ヲ述ベル。

既述ノ如ク面積過小ニシテ到底各種ノ研究ヲ行フ事能ハザルニヨリ専ラ現林相ニ鑑ミ之ニ適當セル若干ノ研究ヲ試ムル事トスル。即前章既述ノ如ク約160haノ地ハ「モミ」「ツガ」等ノ天然更新ニ適スル故之ヲ試験ニ宛テ「モミ」「ツガ」ハ本邦到處ノ森林ニ見ル處デアルガ從來之ガ研究ハ頗等閑視セラレテ居ル、其大ナル誤ナル事ヲ論ズルハ本書ノ範圍外ノ事デアルカラ暫ク差控エテ置クガ本邦各地森林ノ之等樹種ガ漸次斧鉞ニヨリ減少スルニ當リテハ此160haノ地ハ猫額大ナリト雖極メテ貴重ナル材料デアラネバナラス、而シテ此160haノ地ト雖過去ノ斧鉞ハ類リニ潤葉樹ノ跋扈ヲ促シテ居ル、吾人ハ最初ニ如何ニシテ最早ク舊態ニ復セシメ得ベキ乎ヲ研究シ度イ、試験區ハ後ニ樺太演習林ニ關シテ述ブル如ク1區ノ最小面積ヲ9haトスル、地表ト潤葉樹トニ對シ若干ノ人工ヲ施スモノ、極端ニ人工ヲ施スモノ等ノ數種ノ方法ヲ結合シ一方全然自然ニ放置スル地區ヲモ加ヘ之ヲ若干ノ地況ニ對シテ行フ時ハ既ニ與ヘラレタル面積ニ不足ヲ感ズルデアラウ。

約300haノ地ハ専ラ人工造林ノ試験ニ宛テ度ク思フ、「ヒノキ」ヲ主トシ「スギ」其他若干ノ種類ヲ交ヘル、第一ニ研究セント欲スルハ現存潤葉樹ヲ如何ナル程度ニ殘存セシムルヲ最得策トスルカノ點デアル、之ヲ除去スルトセバ其時期、方法如何ノ問題ガ次デ起リ來ル、別ニ研究ヲ要スルハ地拵ノ方法、苗木育成ノ方法、植栽ノ時期、母樹ノ特性、産地ノ相違等々、從來研究スベカリシ問題ニシテシカモ實ハ殆研究セラレズニ其儘有耶無耶ノ内ニ棄リ去ラレントスル人工造林上ノ問題ハ實ニ多イ、之等ヲ如何ニ結合シテ最小面積ニ最多ノ實驗ヲ施サントスルカ、施業案編成者ノ苦心ノ存スル所デアル。

殘餘ノ約100haハ地勢ノ關係上所謂除地ニ屬シ殆施業スル事能ハヌ、即岩石地、急峻地等デアルガ之等地域ヲ利用シテ森林ノ間接的効用ニ關スル研究ヲ爲ス豫定デアル。

尙溪急ニシテ水清ク岩石多ク「ワサビ」ノ栽培ニ適スルヲ以テ之等小副産物ニ關スル調査モ小規模ニ實行スル。

第五章 造 林

「モミ」「ツガ」等ノ天然更新ハ昭和4年度ヨリ開始スル。

人工造林區域ハ先づ養苗ヨリ初メネバナラス、即入正15年春季吉野産「スギ」、木曾産「ヒノキ」、臺灣産「ランゲイスギ」ノ養苗ヲ開始シ昭和2年度ニ於テ其内ノ僅小部分即1100本ヲ山地ニ新植シテ

殘餘ハ苗圃内床替ヲ了シ一面昭和3年度ノ新植ヲ爲スタメニ地拵ヲナシ又苗圃ニハ新タニ若干ノ臺灣産「ランゲイスギ」ノ播種ヲ行ヒタルコト次表ニ示スガ如クデアル。

種 別	樹 種	數 量	面 積	經 費	勞 力	實 行 期
昭和2年度	苗圃新墾		ha 0.0396	圓 699.42	301.5	3年3月
	播 種	ランゲイスギ	2升	0.0033	13.08	2年4月
	床 替	ヒノキ、スギ、 ランゲイスギ	519,240本	0.5	339.10	同
	新 植	ヒノキ、スギ、 ランゲイスギ	1,100本	0.3	28.00	2年10月
地 拵			28.8	904.16	628.5	2年10月—3年3月

苗圃ハ一部分ハ借地シ他ハ林間苗圃ヲ用ヒテ居ルガ昭和2年度事務所建築ノ上ハ其附近ニモ設クル管デアル、山地植栽ノ際ニハ地拵ノ方法ハ現存有用樹種「ツガ」「モミ」「ヒメコマツ」「クヤキ」「クリ」等ニ對スル撫育伐ノ程度ニ於テ劣等樹種ヲ除去シテ得タル空隙地ヲ地拵シ之ニ植出スコトニシテ居ルガ其地拵ノ程度ハ研究項目ノ一トシテ種々ノ場合ヲ實驗スル管デアル。

今後ノ造林ハ大體10年ニシテ既ニ新植個所ヲ殘サバニ至ルベキ程度ニ於テ行フ豫定デアルガ樹種産地等ハナルベク異ルモノヲ使用スル豫定デアル。

第六章 保 護 (略)

第七章 利 用

造林事業ノ進捗ニ伴ヒ伐除スベキ潤葉樹ハ其量多カラズ且運搬ノ便ヲ缺クヲ以テ之ヲ資材トシテ・推茸ノ栽培及少許ノ製炭ヲ計劃シ前者ハ既ニ着手シタ、此他ニハ當分利用事業ハアルマイ。

第八章 演 習

演習林設定後未ダ2ヶ年餘ニ過ギズ、事務所モ未建築デアルノデ學生ノ演習ハ本林ニ於テ未ダ1回モ行ハナカツタガ本年事務所開所ノ上ハ山小屋、天幕張等ヲ以テ學生演習ヲ開始セントスル。

第九章 調 査

事業着手期ニ在ル爲諸調査モ未ダ進行ヲ見ザルモ上記セル如キ人工造林事業ハ他ノ演習林ニ於テ多ク行ハズ之ガ研究ハ本林ヲ指イテ他ニ施行シ難キヲ以テ造林事業ノ進捗ニ伴ヒ之ガ研究ヲ進メル。

第十章 土木及建築

林ノ内外ヲ間ハズ從來ハ殆道路無カリシヲ以テ昭和2年度ニ於テ不取敢次ノ工事ヲ爲シタ。

名稱	種別	數量	工費
大谷歩道	新設	2426 ^m	304.920 ^圓

今後逐次延長セシムル豫定デアル。

林外亦多クノ道路工事ヲ必要トスル、昭和3年度ニ於テハ事務所附近及之ヨリ林内ニ至ルモノヲ豫定シテアルガ之亦毎年漸ヲ追フテ延長ノ豫定デアル。

建築ハ昭和3年度ニ於テ不取敢先ヅ小規模ノ事務所新築ヲ豫定シ日下實行中デアルガ之ハ僅カニ1-2名ノ職員ノ勤務シ得ルニ過ギヌモノデアルカラ近ク其増築ヲ要シ續イテ學生宿舍、作業室等ノ建設モ必要デアル。

第十一章 雜

事務所モ出來テ居ラスノデ現在ハ在職々員1人モ無ク本部造林係デ直接其業務ヲ行ツテ居ルガ本年度内ニハ雇員1名ヲ在住セシムル計劃デアリ、將來ハ希望トシテハ助手1名、雇員1名、定夫1名、ヲ配置シ度イノデアリ、面積ヲ擴大スル事ガ出來レバ之ニ應ジテ増員ヲ要スルハ勿論デアル。

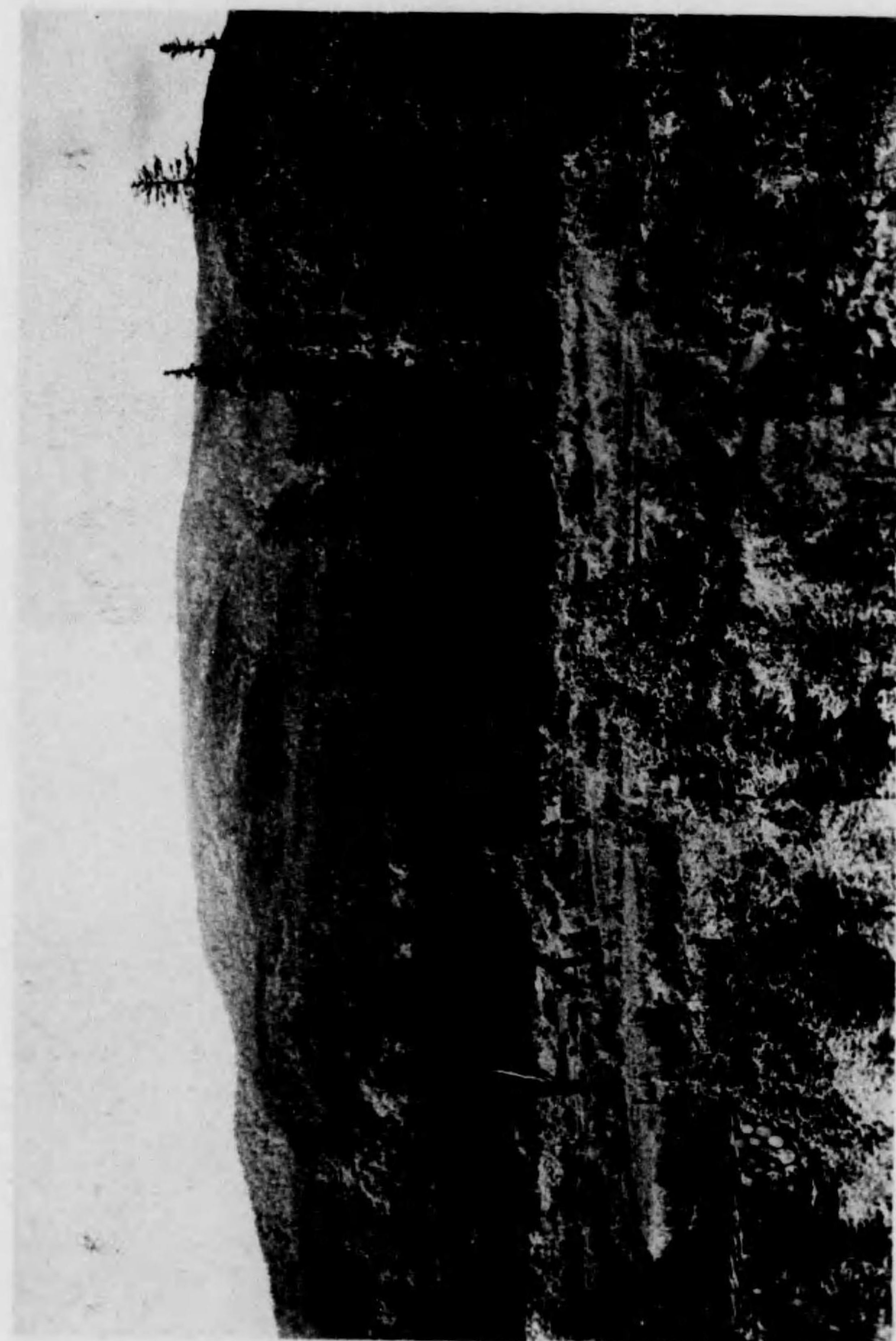
既往ノ收支ヲ次表ニ示ス。

支出 (經常部)

年度	目	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習林費	各所修繕	合計
大正15	元	0	0	161	0	161
昭和2	同	0	0	3,312	0	3,312
計		0	0	3,473	0	3,473

年度	農場及演習林費内譯												
	備品	圖書印刷	消耗品	通信運搬	實驗費	動物費	肥料購買	種苗購買	内國旅費	給與	雇員給備	人料被服費	雜費
大正15	0	7	16	10	0	0	0	2	0	0	0	124	0
昭和2	257	33	94	88	0	0	0	19	598	20	0	2,065	0
計	257	40	110	98	0	0	0	21	598	20	0	2,189	0

臨時部支出ナシ。收入モ皆無デアル。



武田 (Petkopashiri) 前面ハ開墾地 (Petkopashiri) ヲ見ル



見晴山望樓上ヨリ見タルとら川きばらり川合流點方面
(山腹ノ針葉樹林ト河畔ノ潤葉樹林) (武田)



見晴山望樓上ヨリ望ミタル別小走山 (武田)

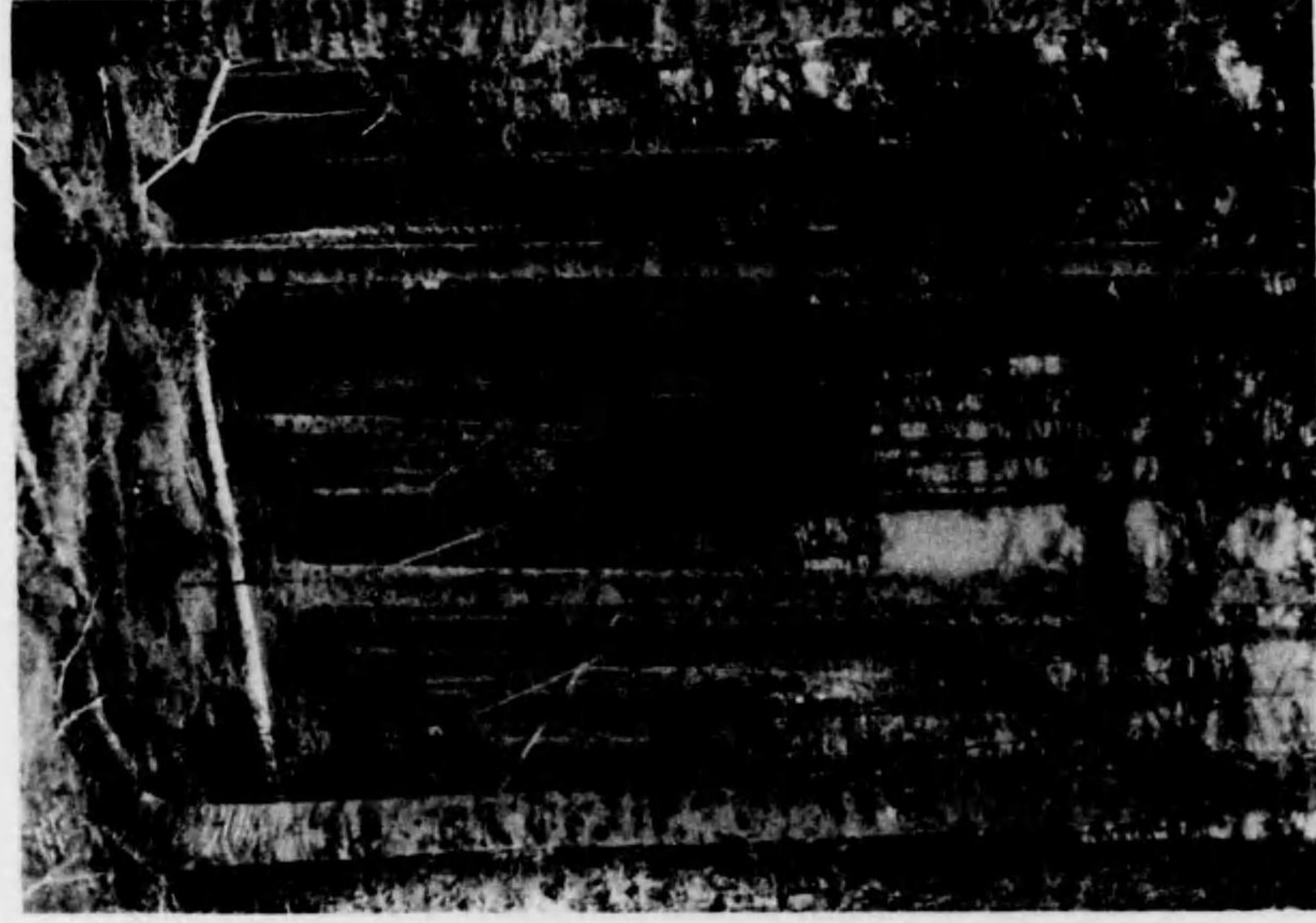


見晴山望樓上ヨリ西北ヲ望ム (小林)

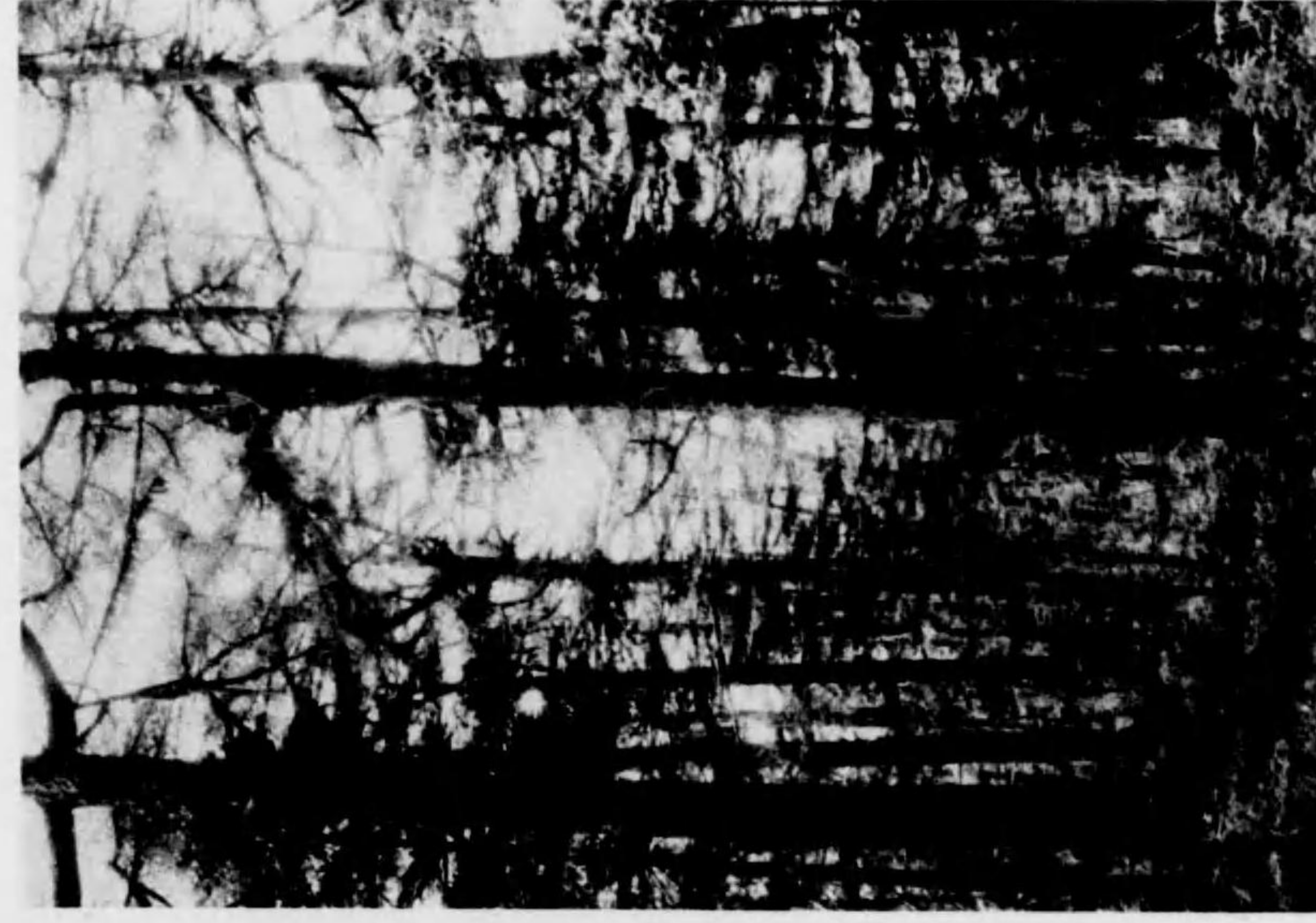


見晴山望樓上ヨリ西南ヲ望ム (武田)

「エゾマツ」「トドマツ」混交林
(見晴山北用)



「エゾマツ」「トドマツ」混交林
(上内蔵之助澤上流山地)



「ダイマツ」林
(熊之澤)



「エゾマツ」「トドマツ」混交林
(楠川沿岸)



「エゾマツ」「トママツ」混交林
(見晴山)

(小林)



「エゾマツ」ノ老木下ニ存スル「トママツ」ノ幼樹
(見晴山西北麓)

(小林)



伐採跡地ニ立ツ「エゾマツ」「トママツ」ノ稚樹
(伐採後数年)

(武田)



古キ伐採跡地ニ立テル「エゾマツ」「トママツ」「グイマツ」
(伐採後約30年)?

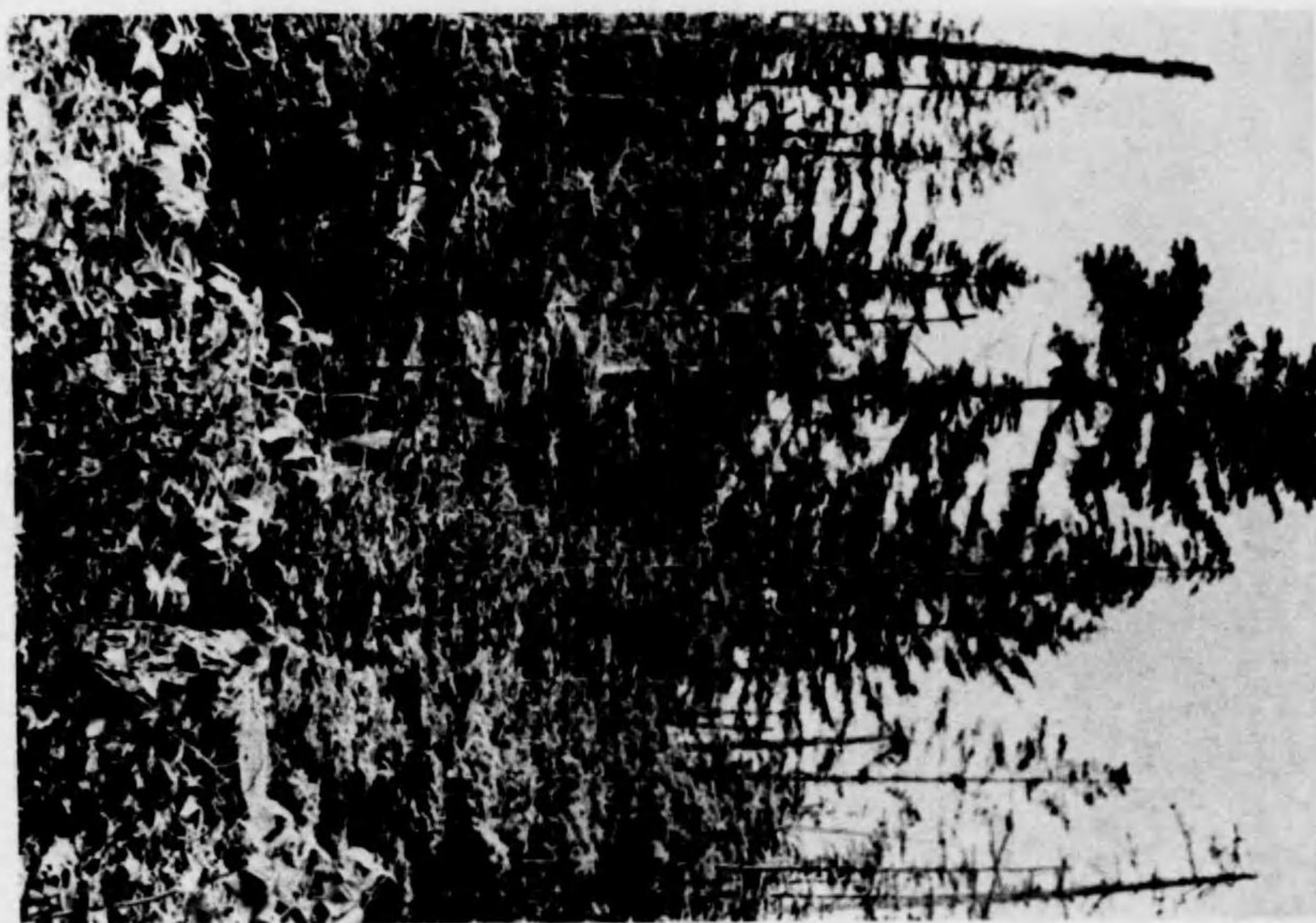
(小林)

前面「ヤマドリゼンマイ」ノ生ゼル個所ハ境界伐開線ナリ



伐採跡地ニ立ちカス「エゾマツ」ノ稚樹

(武田)
(伐採後11年)



伐採跡地ニ立ちカス「エゾマツ」ノ稚樹

(武田)
(植山作業所附近)



(小林)

「ドロヤナギ」「エゾヤナギ」「ホツバヤナギ」ノ間ニ侵入セル「エゾマツ」ノ稚樹
(楠山作業所附近本流沿岸)



(小林)

「シラカバ」林内ニ侵入セル「エゾマツ」
(古丹岸本流沿岸)



(小林)

「ヤナギ」林内ニ侵入セル「エゾマツ」
(藤本川沿岸)



電線路ノ伐開地ニ生ジタル「グイマツ」ノ稚樹

(山本)



演習林境界伐開(下生ハ「ヤマドリゼンマイ」)

(小林)



古丹岸川木流沿岸ノ「ヤナギ」林(楠山作業所附近)

(武田)



河岸ノ沃地ニ存スル「サウシリンバ」「エゾマツ」「トドマツ」ト河岸ノ「ケヤマハンノキ」「ヤナギ」類(藤本川、上内蔵之助澤合流點)

(武田)



「ケヤマハンノキ」林下「サウシカンバ」ノ巨樹(左方遠景ハ大災跡地)(藤木川左岸) (武田)



「ドロヤナギ」「エゾヤナギ」等ノ森林(とら川、きばり川合流點附近) (小林)



(小林)

河畔ノ「ヤマナギ」林(木流沿岸)



(小林)

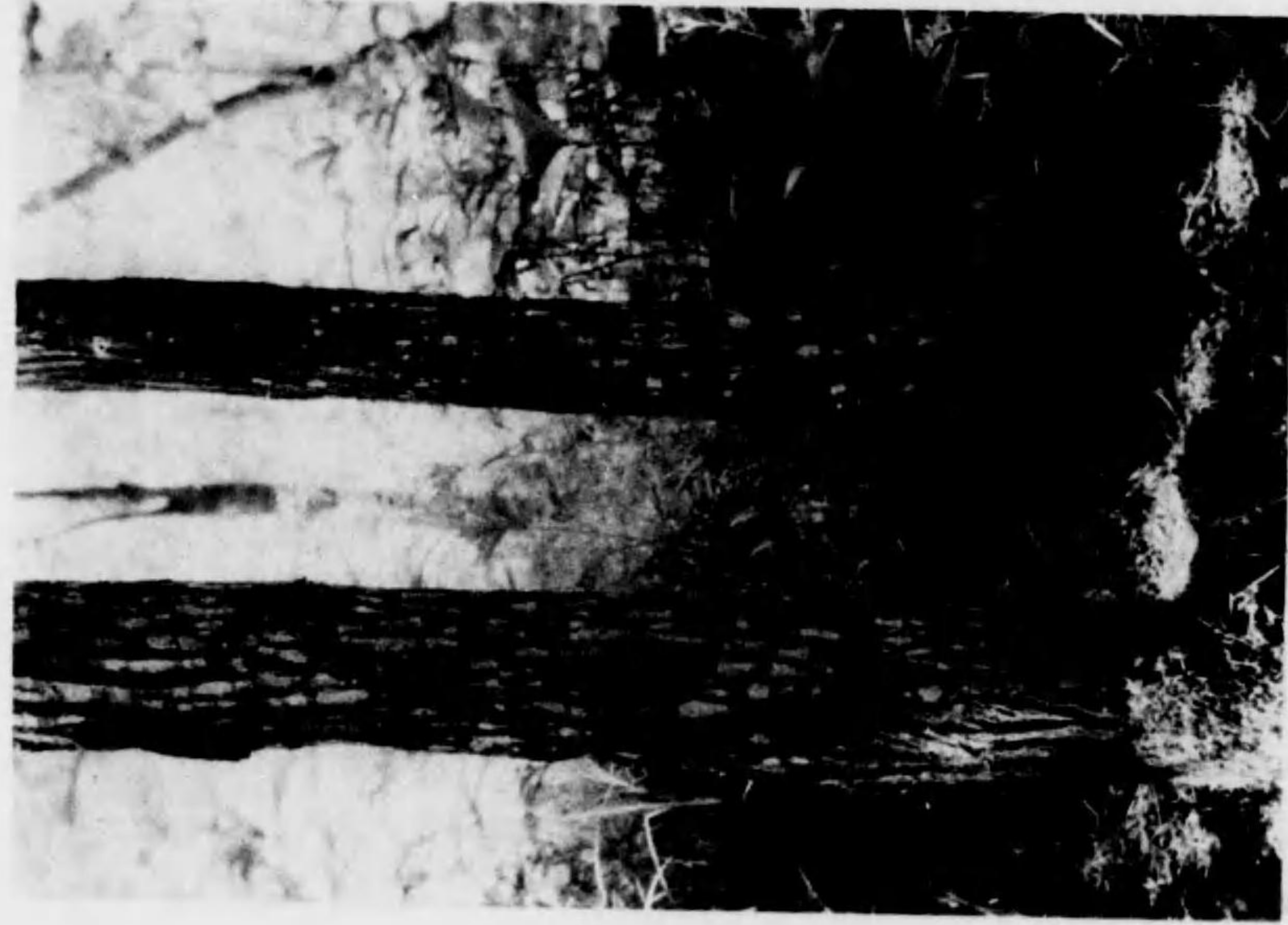
「アロキナギ」(木流右岸) (武田)



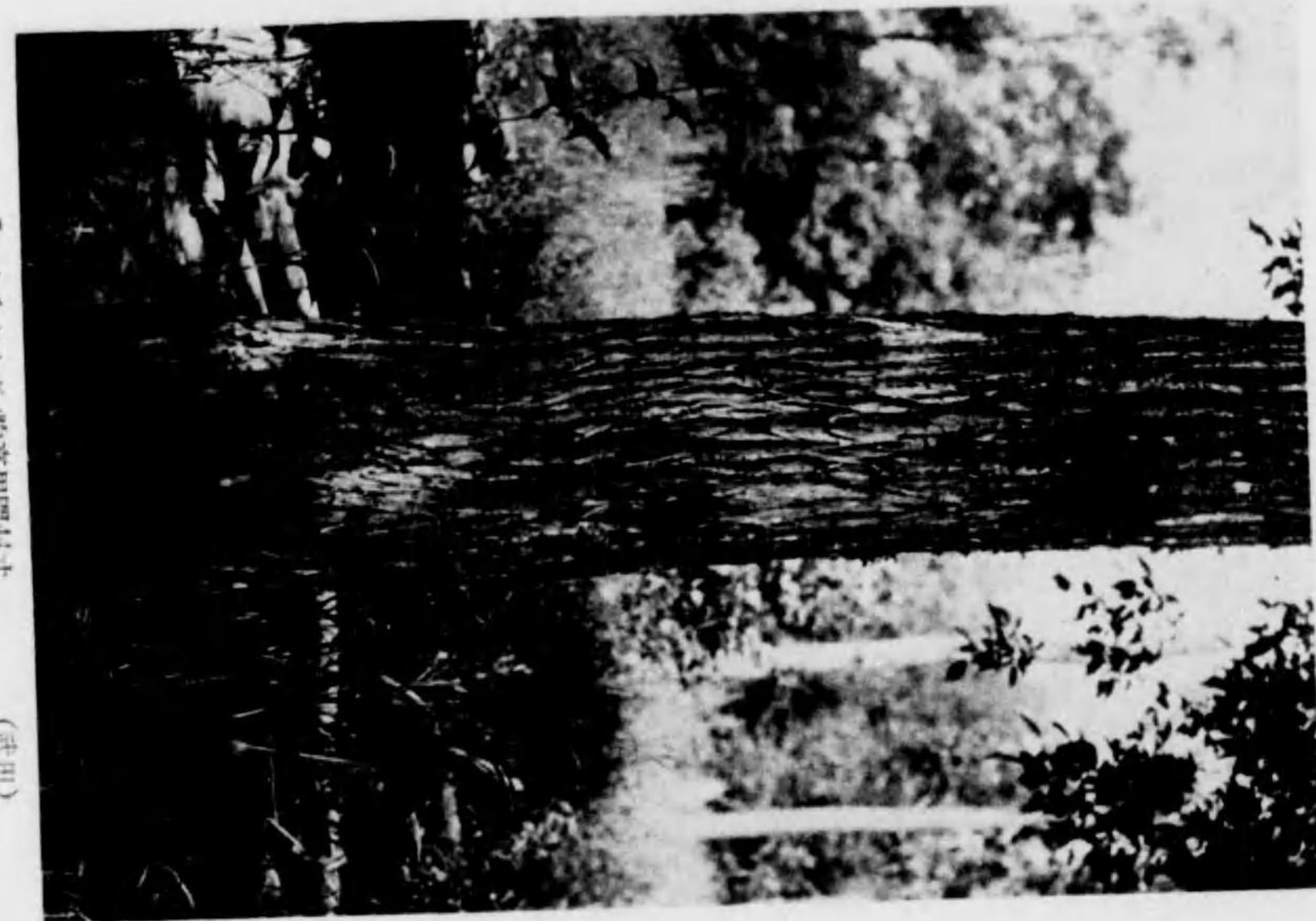
「エゾマツ」ノ巨樹(推定樹齡250年) (武田)



「エゾノクノキ」(樹下ニ在ルハ「エゾイタクサ」) (武田)



「ナガハヤナギ」胸高周囲(左)22寸(右)20寸 (武田)



「トカチヤナギ」の富岡園柱寸

(武田)



「トカチヤナギ」(右)ト「クノヘヤナギ」(左)
(樹下ニ定ルハ「クノヘヤナギ」ノ種樹也)

(武田)



「サウシカンバ」(藤木川左岸)

(武田)



「フロヤナギ」(木流右岸)

(小林)



「トママツ」ノ雄果(標品 No. 1)

(小林)



「トママツ」ノ雄果(標品 No. 2)

(小林)



果實ヲ著ケタル「エゾマツ」ノ梢 (武田)



果實ヲ著ケタル「エゾマツ」ノ梢 (武田)



「アヲト」(左)ト「アカト」(右)トノ樹皮ノ比較(上内蔵之助澤保存林内) (小林)



(小林)

樹皮ノ平滑ナル「エゾマツ」胸高直徑51cm



(小林)

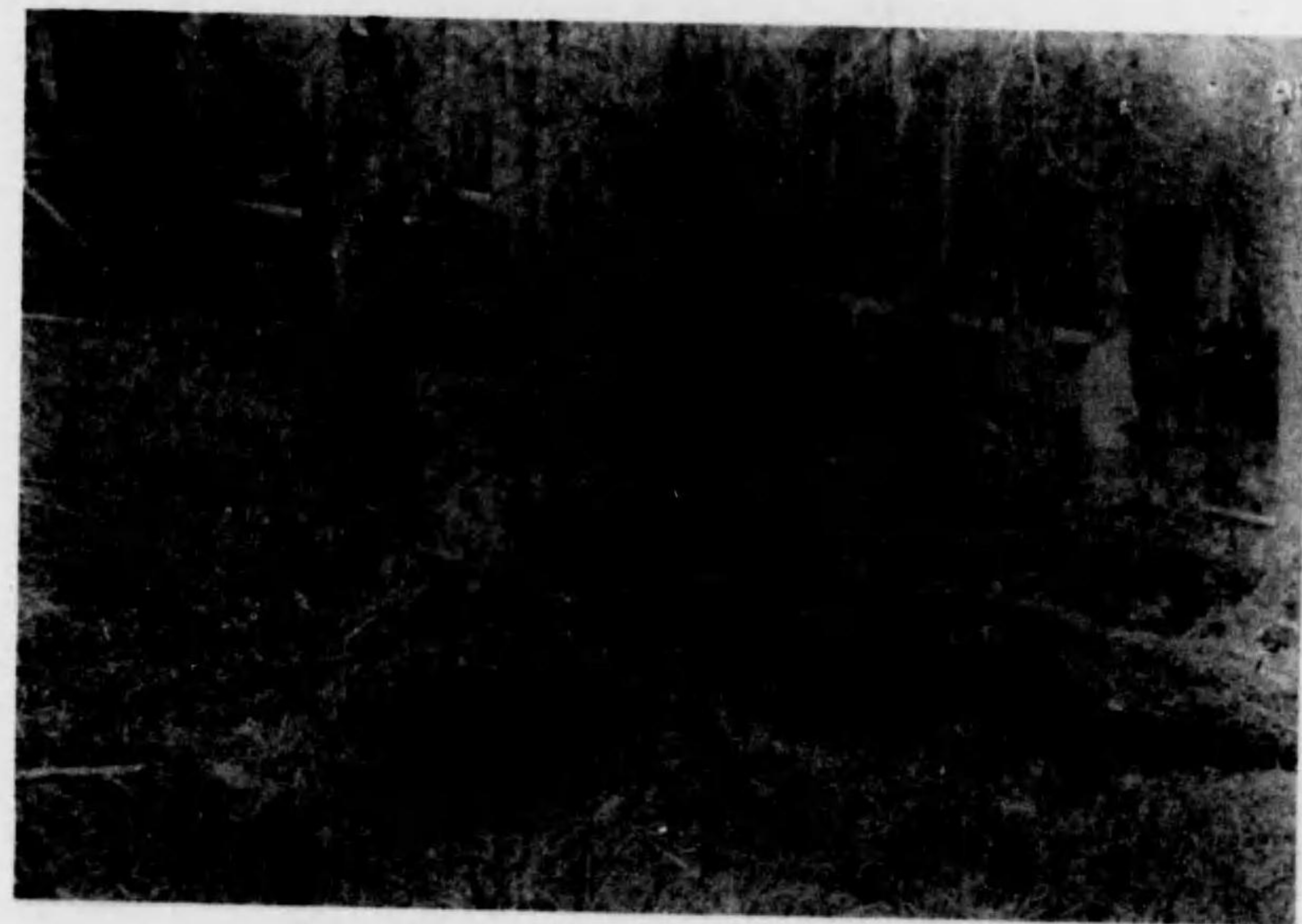
樹皮ノ龜裂多ト「エゾマツ」胸高直徑60cm

(上内蔵之助澤沿岸)



倒木上ニ一列ニ生ジタル稚樹

(山木)

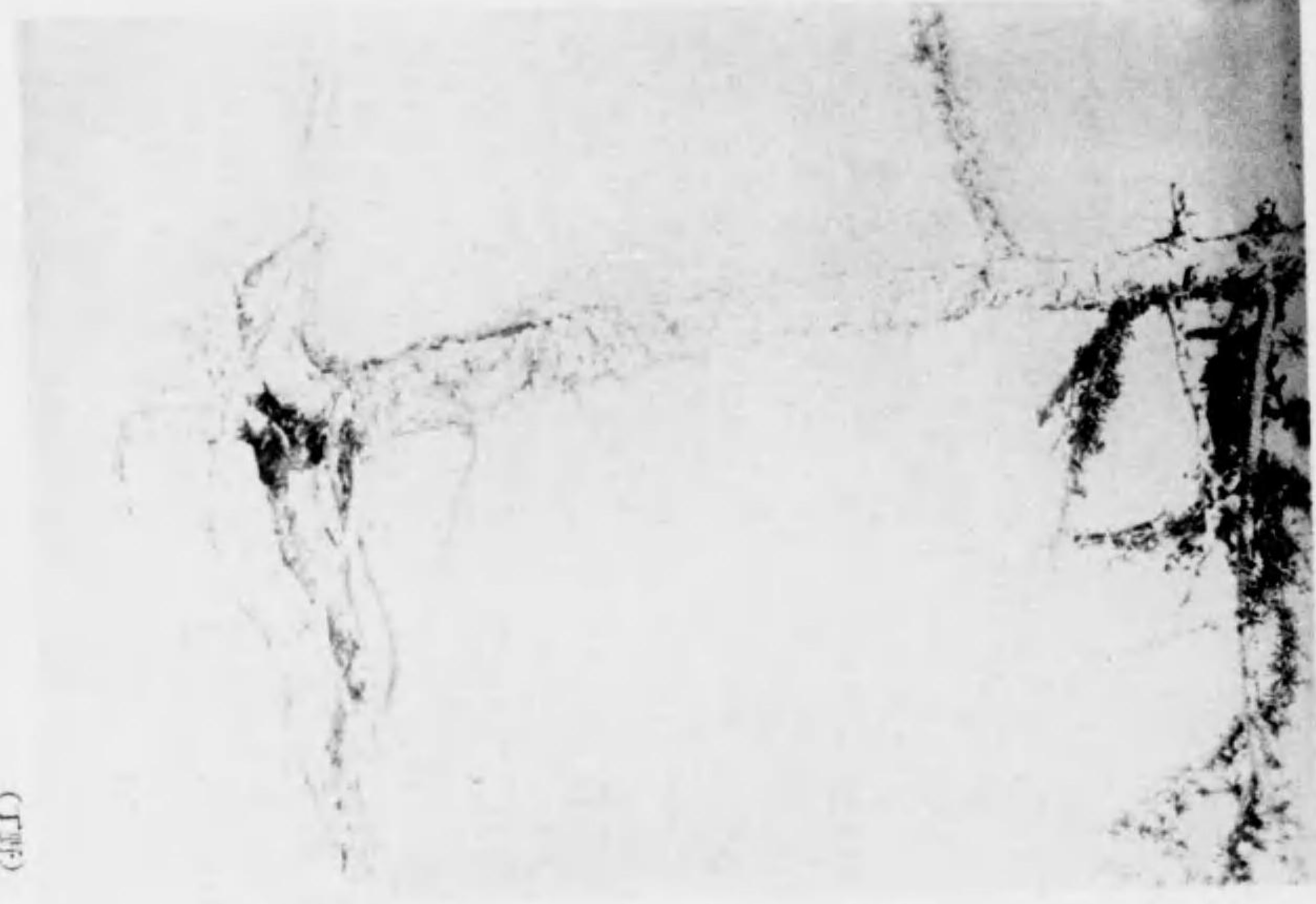


倒木上ニ立テル「エゾマツ」ノ根張

(小林)

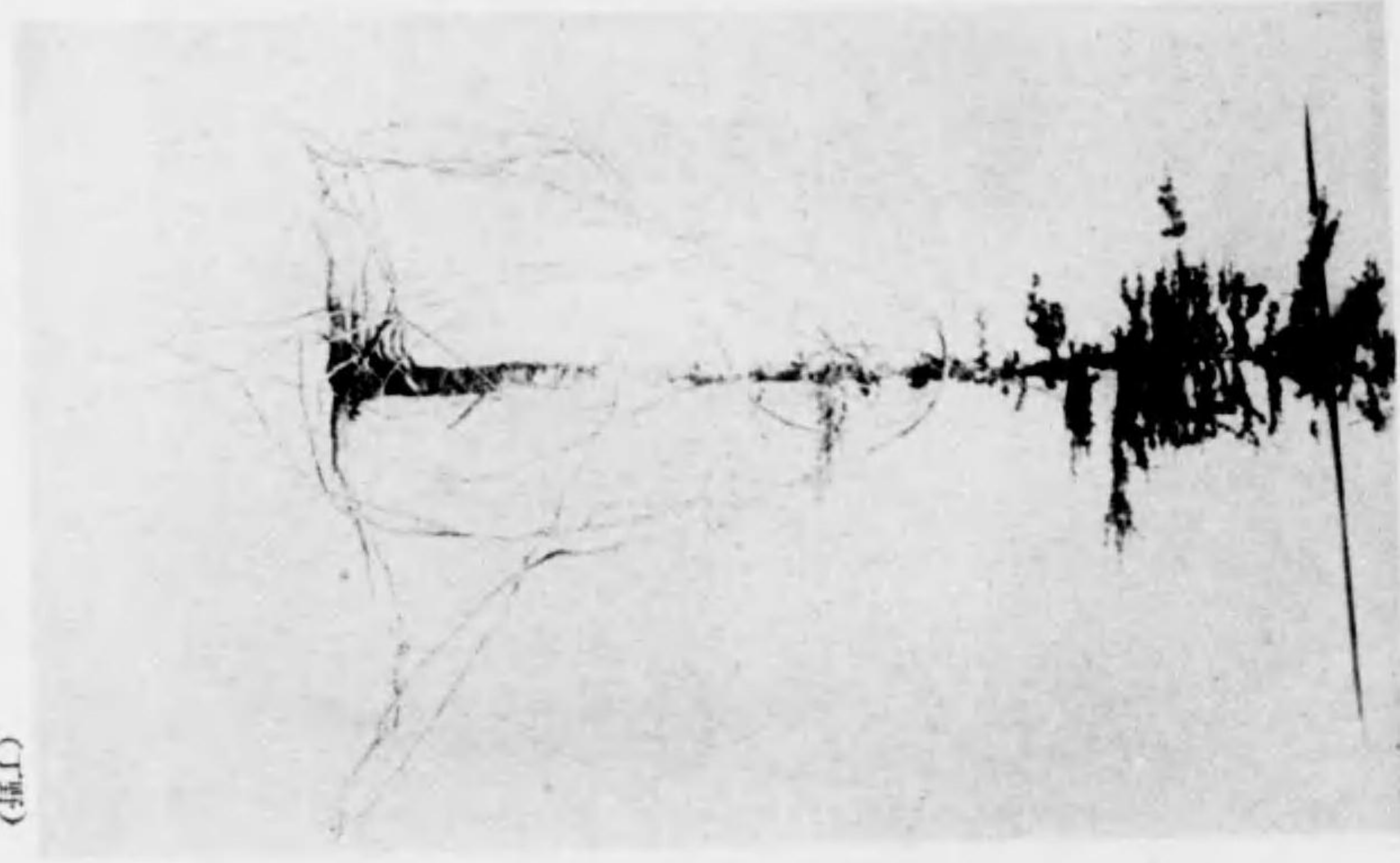
つんどら地帯ニ生セラル「クワイネツ」ノ根ガ側根ハ表ニモ地下
約 20cm 以内ノ水平ニ走り主根モ曲リテ水平ニ走ルヲ示ス

(丁野)



つんどら地帯ニ生セラル「クワイネツ」ノ側根ガ水平ニ約 50cm 走
レルモノヲ撮影ノ都合ニヨリ曲ラセテ示シタリ (幹長 1m 5)

(丁野)



「マツノカハカケ」
Trametes Pini, Fr.

(山本)



「ツガサリノコロシカケ」
Fomes piniicola, Fr.

(山本)



「ウズバシハイカケ」(?)
Irpex lamelliformis, Spegel.

(山本)



本流沿岸潤葉樹林ノ一部：左ニ枝ノミ見ユルハ「ケヤマハンノキ」右ニ叢ヲ爲セルハ「エゾニハト」(武田)
 コ」其前左右ニ「カラフトバラ」アリ、背後ニ立ツハ「ドロヤナギ」中央遠ク「ナガハヤナギ」ト其下
 ニ「オニシモツケ」アリ、「ケヤマハンノキ」ノ背後右寄りニ「エゾクロヤナギ」、草地ニハ「クサソ
 テツ」多ク又「ハナウド」「ヨモギ」等アリ



(武田)

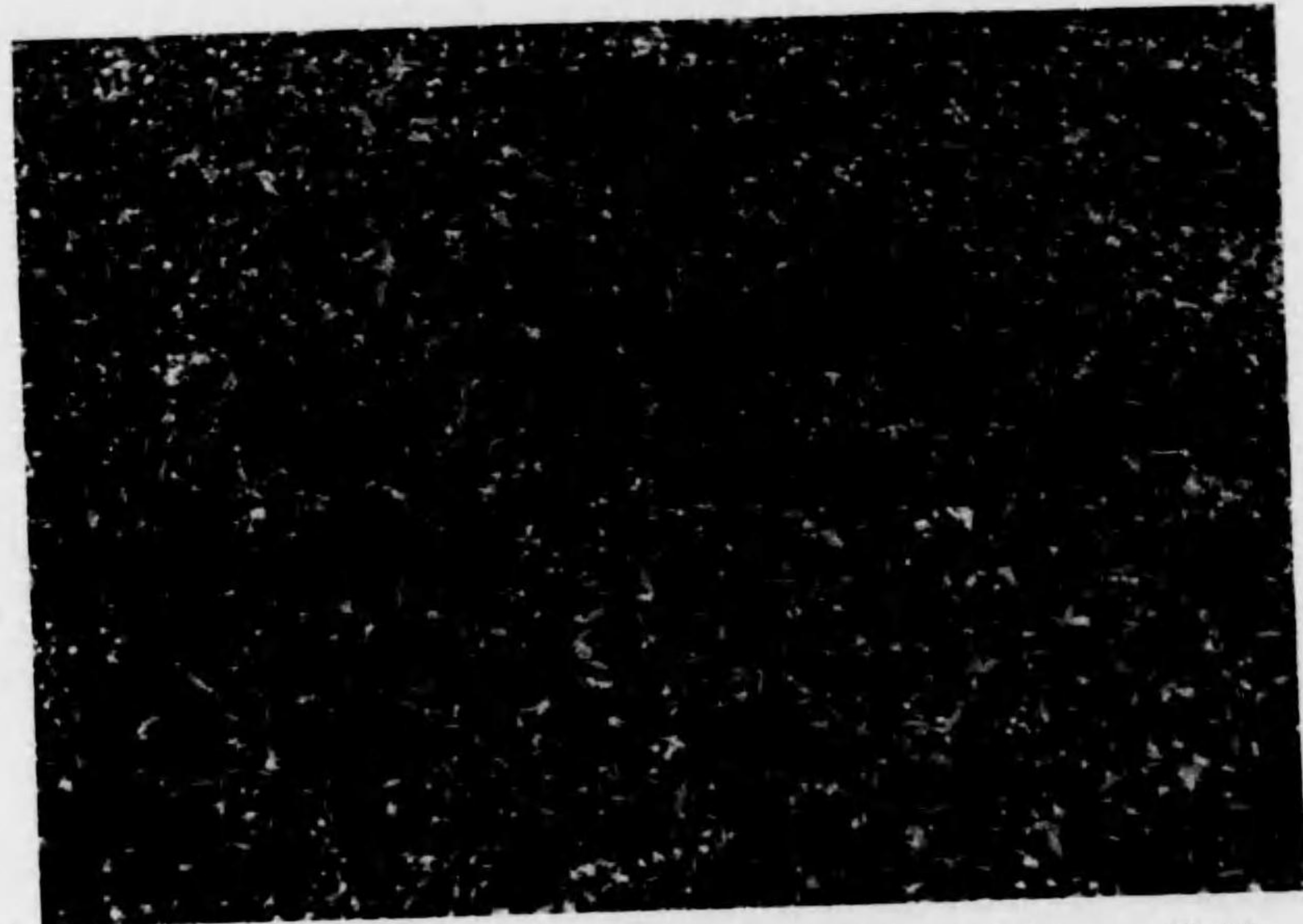
本流沿岸「ドロヤナギ」ノ樹下ニ見ル「カラフトバラ」(左)「ミヤマハンノキ」(中央)ト「カラフト
 スゲリ」(右)



本流河岸ノ「ヲノヘヤナギ」ノ若木 (少数ノ「キノヤナギ」ヲ混ズ) (武田)



上内蔵之助澤岸ノ「トカチヤナギ」「ナガハヤナギ」ノ若木 (小林)



木流河畔ノ沖積土上ニ發芽シタル「キヌヤナギ」(多少ノ「ヲノヘヤナギ」ヲ混ズ)ノ
甲折(點々相交ハル小白斑ハ絹毛ヲ備ヘタル「ドロヤナギ」ノ種子) (武田)



「ホザキシモツケ」(木流下部) (小林)



疎開セル柳林ニ生ゼル「ホザキナ、カマド」ノ群落 (武田)

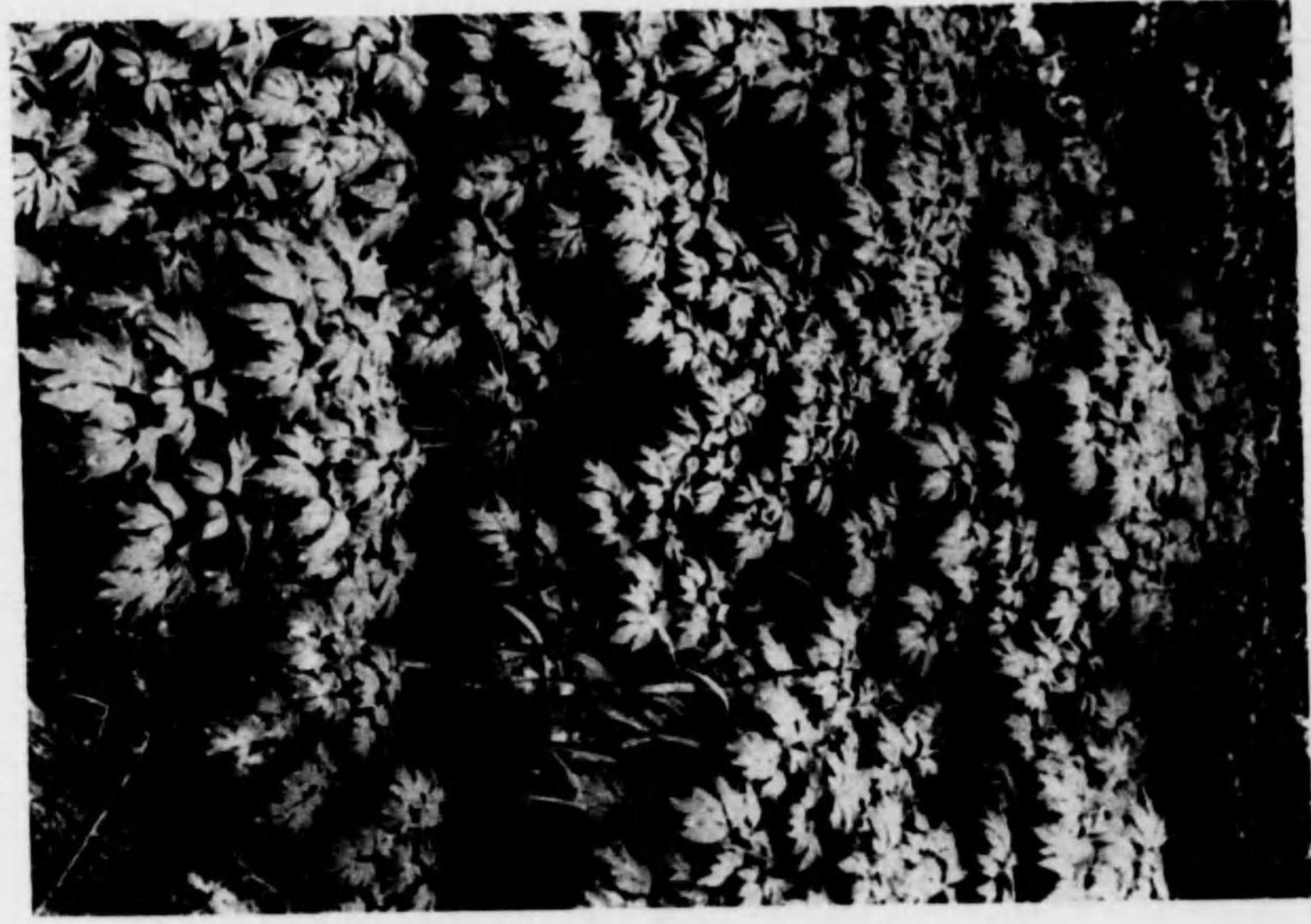


火災跡地ニ生ゼル「ヤナギラン」ノ群落 (武田)

「ホロムイイチエ」(「クイワツ」林内ニテ) (武田)



「カラントネカケマツ」ノ葉落 (武田)



「エゾニウ」ノ枯葉(楠河畔) (武田)



「ツバメオモト」「ゴゼンナチバナ」ト倒木上ニ立テル
「エゾマツ」ノ根樹(楠山附近伐跡地) (小林)



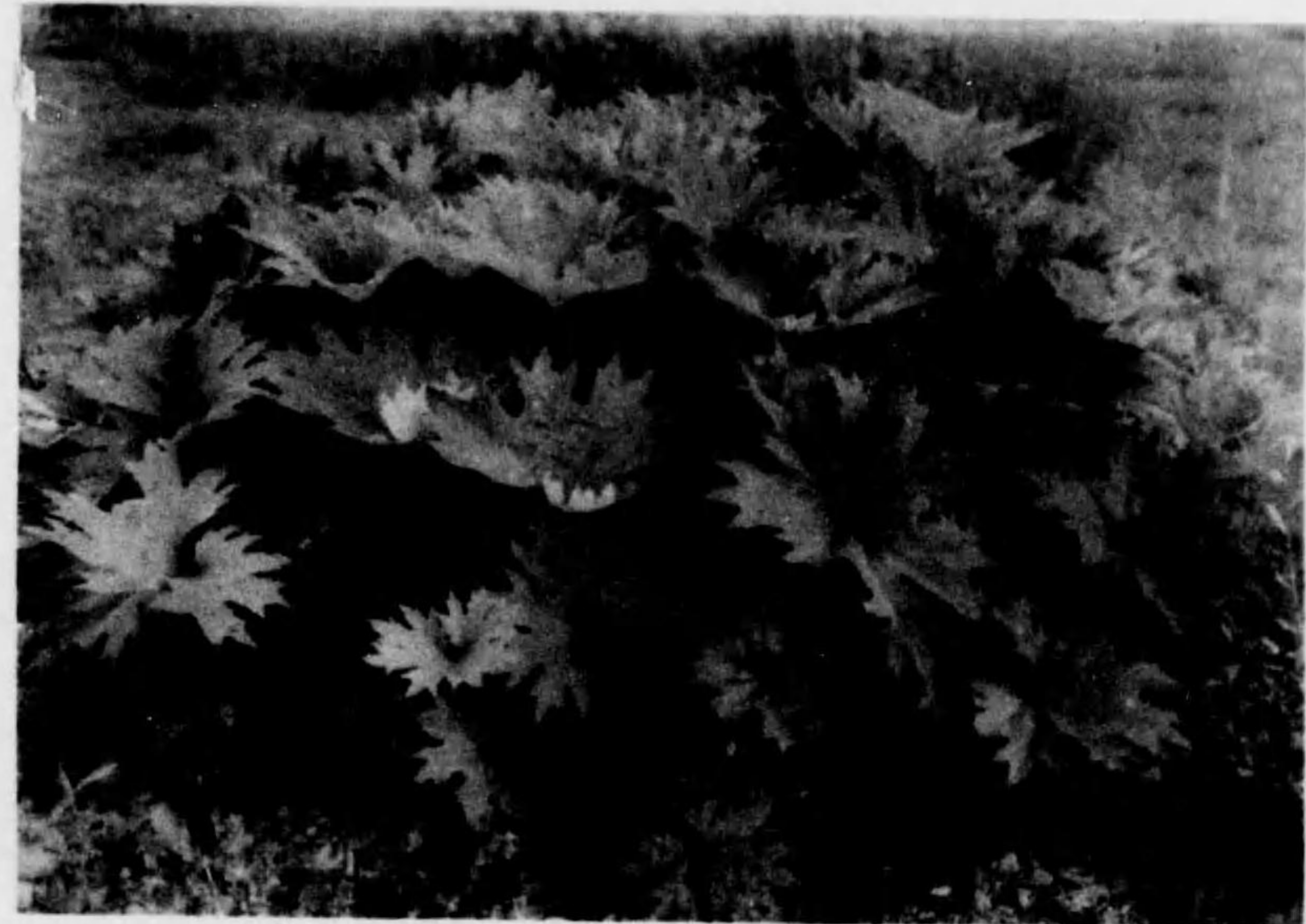
「ゴゼンタチバナ」(「エゾマツ」「トヤマツ」林内ノ疎開地)

(武田)



「トガスグリ」

(武田)



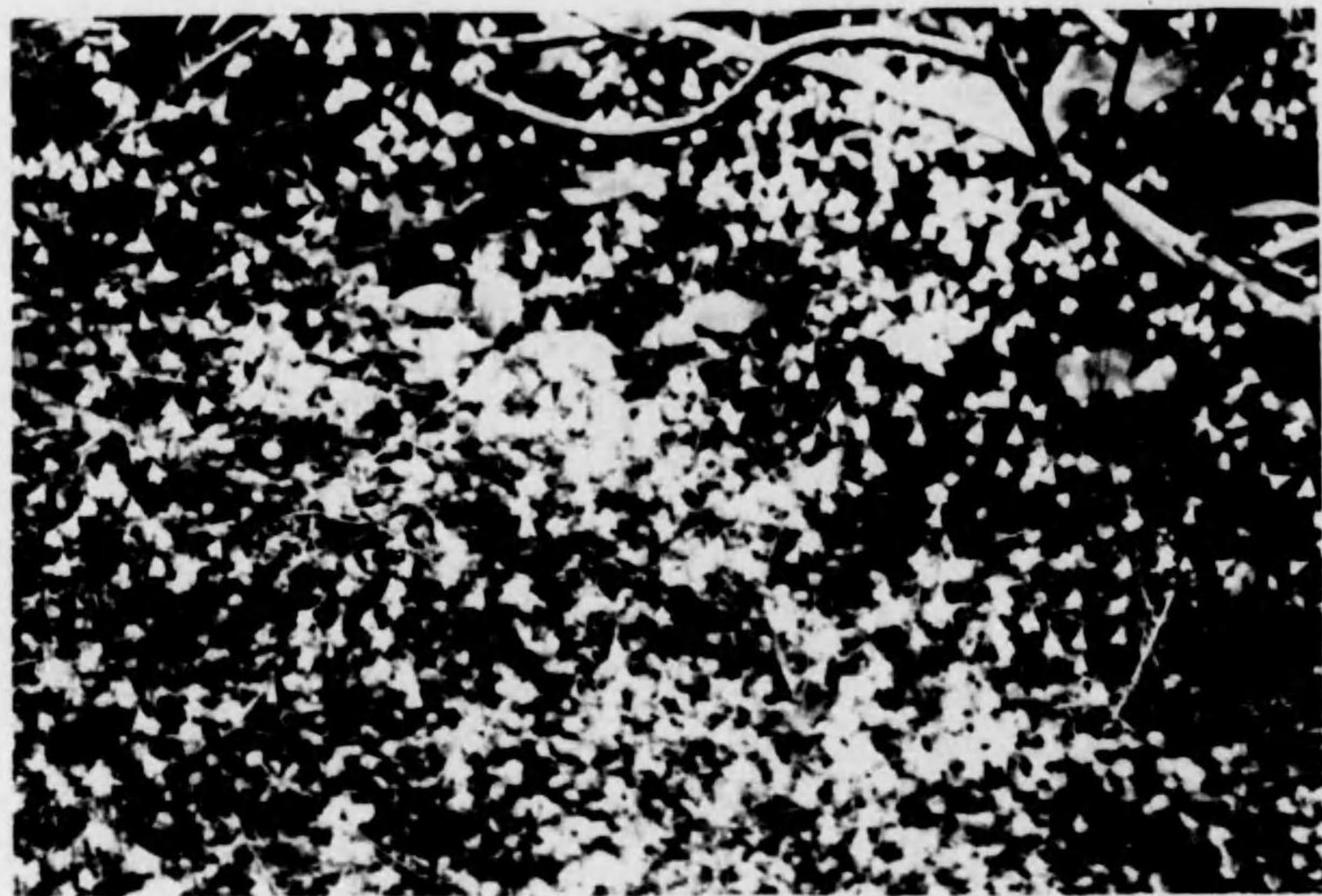
「ボロナイブキ」

(武田)



林内ノ小溪ヲ埋ムル「オニシモツケ」

(武田)



「リシキサウ」

(小林)



「エゾオホヤマハコベ」

(武田)



「トナカイサウ」(熊ノ澤ノ「グイマツ」林内ニテ)

(小林)



「ミヅバセウ」

(武田)



「クサスギナ」「エゾマツ」「トママツ」混交林内ニテ(熊ノ澤) (小林)



「エゾムラサキニガナ」(柿山農耕地) (武田)



山地ノ「エゾマツ、トママツ」林ニ「サウシカンバ」ノ侵入 (小林)



河畔ノ「フノヘヤナギ」「キヌヤナギ」ノ若木(背景ハ「ドロヤナギ」等ノ壯年樹) (武田)

第七篇 樺太演習林

第一章 概 況

京都帝國大學農學部附屬樺太演習林ハ樺太東海岸敷香郡泊岸村大字泊岸所在古丹岸園地 11618.6 ha (小字倍加留、古丹岸、東宗仁、茶吳、泊岸、掛牛、羽牛、久茶、畝富内ニ跨ル) 及同郡敷香村大字保惠及氣屯所在亞屯園地8214.8ha (小字西保惠及氣屯ニ跨ル) ヨリ成リ合計面積 19,833.3ha 外ニ事務所及苗圃敷地トシテ泊岸村大字泊岸區劃外地ニ19,338.3m²ノ附屬地ガアル。

古丹岸園地ハ大正4年12月27日亞屯園地ハ大正5年12月27日樺太廳ヨリ國有林ノ移管ヲ受ケ前者ハ大正5年4月後者ハ大正6年2月孰レモ本學維持資金ニ編入セラレタルモノニシテ泊岸村所在ノ附屬地ハ大正6年4月17日樺太廳ヨリ移管ヲ受ケタルモ後ニ軍用道路開鑿ニ際シテ多少其區域ニ異動ガアツタ。

大正5年ニ初メテ施業案ガ編成セラレタ(編成者ハ囑託市河三綠) 爾後該案ニ據リ施業スルコト1年ニシテ第一期ノ施業ヲ終ヘ大正15年9月ニ第一次ノ檢訂ガ行ハレタ(檢訂者ハ林長市河三綠) 現ニ此檢訂施業案ニ基キ施業シテ居ルノデアルガ檢訂施業案ハ最初ノ施業案ニ比シ著シキ相違ガアル、之周圍ノ環境ノ甚敷變化ト農學部創設ニ伴フ演習林經營方針ノ根本的變化トニ據ルモノデアリ而シテ周圍ノ環境ハ今尙刻々ト著敷變化ヲ爲シツ、アル事ハ到底他地方ニ在ル者ノ想像ノ及バザル處デアツテ僅々一兩年ニシテ人煙絶無ノ地ニ忽然トシテ島内屈指ノ大都會ノ出來ル如キ有様デアリ殊ニ昭和4年ニハ樺太鐵道ガ泊岸ヲ通過シテ敷香迄延長セラル、ニ及ベバ數年前生命ヲ堵シテ十噸級ノ小型發動機船ニヨリ辛フジテ往復シタル事ノ夢ノ如キヲ感ズルデアラウ、斯カル變化ハ施業案ニ影響スル處決シテ駢クナイガ故ニ現行施業案ハ昭和10年度迄有効ナルモ蓋シ昭和11年度ニ至ラザルニ先ダチテ第2次ノ檢訂ヲ要スルニ至ルベキヲ思フ。

本演習林ノ特色ハ概言スレバ其位置ガ林學上ノ所謂寒帶ニ屬スルコトニヨリテ生ズ、抑々北半球北部ノ寒帶針葉樹林ハ世界ノ林學林業ノ中樞ヲ爲ス、獨逸、澳大利等所謂林學ノ先進國ニオケル森林、北米合衆國、加奈陀等現在ニオケル世界的木材供給國ノ森林、歐羅巴露西亞及西比利亞等ニオケル將來ノ木材資源ハ孰レモ林學上ノ所謂寒帶森林又ハ之ニ極メテ近縁ナルモノニシテ即其主林木ヲ「モミ屬」及「タウヒ屬」トシ之ニ混ズルニ數種ノ針葉樹及闊葉樹ヲ以テセルモノデアル、依リテ此種森林ヲ對象トシテ林學及林業ハ與リタリト稱スルモ過言ニ非ズ、外國ニオケル諸般ノ林學林業上ノ研究又ハ實驗ト比較交換スル爲ニ寒帶林ヲ演習林トシテ所有スルコト極メテ必要ニシテ更ニ本邦



第 七 篇 樺 太 演 習 林

森林ノ前途ヲ考察スル時ニ寒帯林ニオケル研究及演習ノ極メテ重要ナルヲ知ル、而シテ本邦此種ノ森林ハ樺太、北海道及北鮮ニ於テノミ之ヲ見ルノデアルガ等シク寒帯森林ト稱スルモ其間自ラ差別アリ例ヘバ北米合衆國北部、加奈陀、西比利亞、歐露、スカンヂナヴィア等ニ見ルモノト北米合衆國、獨逸、澳大利等トニ見ルモノトハ其間大差アリ、而シテ之稍々本邦ニ於テ樺太ト北海道トノ森林ノ間ニ存スル差違ニ相當スル、此故ヲ以テ本邦ニ於テ林學ヲ研究スルモノハ其業績ヲ獨逸等ト交換比較セン爲ニ北海道ニ於テ演習林ヲ要望スルノデアルガ本學未ダ之ヲ得ズ、ソレダケ樺太演習林ハ二重ノ負擔ヲシテ居ル、更ニ進ンデ考フルニ吾人ガ寒帯林ヲ重要視スルハ前記ノ理由ノミデハ無ク暫ク本邦ノ林學林業ニツキテノミ考フルモ對岸一帯帶水ニシテ滿洲、沿海洲、西比利亞ノ大原始林アリ、其面積、蓄積等ハ本邦森林總計ノ數倍、數十倍ニシテ此大原始林ノ特質及經營等ニ關シ吾人ハ到底無關係ナルヲ許サレシテ此大森林ノ一端ガ實ニ鴨綠江及豆滿江ヲ超エテ南下シテ居ルノデ蓋シ各大學ハ北鮮ニ演習林ヲ有セルナランモ本學之ヲ熱望シテ未ダ得ズ、茲ニ於テ樺太演習林ハ實ニ三重ノ負擔ヲシテ居ル譯ニナル。

詳細ニ亘リテ以下逐次述ブル事トスル。

第二章 地 況

第一節 位置、地形、境界及面積

樺太ヲ南北ニ縱貫シテ其背梁ヲ爲セル樺太中央山脈ハ國境附近ニ於テ稍々高峻ナルモ南スルニ從ヒ一時低夷シ再ビ急激ニ起リテ亞屯山、保惠山(1,162m)幌登嶽(1,258m)等ヲ爲シ北緯49°30'附近ニ於テハ邦領樺太中最高峯ノ稱アル敷香嶽(1,375m)アリ南ニ新間嶽(1,034m)更ニ南N49°5'附近ニ惠須取嶽(1,135m)ガアル。新間嶽ト惠須取嶽トノ間ニ源泉シ東南流シテ多來加灣ニ注グ大川ヲ新間川ト稱シ、幌登嶽、敷香嶽ヲ水源トシ東南流シテ幌内川ニ注グ大川ヲ敷香川ト云フ、此兩大川ヲ以テ包擁セルル、區域内ニ著シキ河流ニアリ、北ナルハ内路川、南ナルハ古丹岸川デアリ此二川間ニ細流若干、之ヲ南ヨリ算スレバ羽牛川、久茶川、千歲川、崎川、畝富内川等デアル、樺太演習林古丹岸圍地ハ實ニ古丹岸、羽牛、久茶、千歲、崎川ノ流域及畝富内川ノ右岸一帯ヨリ海岸線ニ添ヒ奥行900間ノ漁業備林ヲ控除シタル殘餘ノ地域ヲ占ム。

敷香川ヨリ北ニ之ニ略々平行シテ東流シ幌内川ニ注グ河川ハ國境迄ノ間ニ十餘流アリ敷香川ヨリ算ヘテ北ニ第五番目カ保惠川、第六カ千輪(ちりん)川、第七カ亞屯川、第八カ氣屯川デアルガ前二者ノ流域ニ九州大學演習林ガアリ之ニ北接シテ亞屯川流域ノ一部、軍用道路以西、亞屯山千輪山ニ

至ル兩岸一帯ノ地ハ京都帝國大學樺太演習林亞屯圍地デアル。

古丹岸圍地ノ西境ハ南北ニ連亘セル山脈デ新間、古丹岸兩川ノ分水嶺デアリ600mヲ超ス峯ニ劍ヶ峯、拙鉢山等ガアル、北境ハ内路、古丹岸兩川ノ分水嶺デアルガ低峯相錯雜ス、南境ハ新間、古丹岸ノ分水嶺ヲ以テ境トスルガ山低クシテ天然境界判明ヲ缺クヲ以テ人工區劃線ヲ設ケタ、東境ハ既述ノ海岸線ニ平行セル全然人工的ノ境界デアルガ大正10年ニ幅員2間ノ伐開ヲ爲シ100間毎ニ木標ヲ置キ其外指導標ノ若干ヲ設ケテ明示シテアル、本圍地ノ東境ニ近ク南ト北トニ分レテニツノ著敷峯アリ北ナルハ別小走(べつこぼしり)山系ニシテ山頂南北ニ延ビ最高峯ヲ別小走山ト稱シ頂上ニ水路部三角標アリ、林内ニ於ケル最秀峯ニシテ全山美林ヲ以テ掩ハル、ヲ以テ演習林内唯一ノ別小走神社ヲ祀ツテ居ル、北ニ急ニ低ク西ニ往々ニシテ斷崖ヲ作り東南漸次低夷シテ泊岸部落背後ノ平野ニ没ス、南ニ存スル小山塊ハ火山岩ニシテ標高128m、頂上ニ水路部三角標アリ海岸ニ屹立シテ好日標ヲ爲ス、防火目的ノ望樓モ此頂上ニ在ル。河川ニ關シテハ詳細ヲ附圖ニ譲リ茲ニ省ク。本圍地ハ南北21km東西15kmニ亘ル。

亞屯圍地ハ其北界ハ亞屯川、氣屯川ノ分水嶺デアリ之ハ中央山脈ヨリ分支シテ北東ニ走り亞屯山(1,071m)ヨリ東ニ漸次低夷シツ、本圍地ノ北界ヲ爲シーノ澤上流ニ至リテ緩斜シ終ニつんどら地帯ニ没ス、南界ハ亞屯川ト千輪川トノ分水嶺デ之亦千輪山以東本圍地境界線ヲ爲スニ及ビテ漸次低夷シ前ノ澤右岸ニ丸山ヲ超シテヨリ後ハ急没シテ平地トナリ分明ヲ缺ク、此部分人工區劃線設定ノ必要アルモ未ダ完成セヌ(隣接地ハ九州大學演習林ナリ)西境ハ亞屯山頂ト七瀧澤口トヲ結ブ一直線及七瀧澤ニヨルモノデアリ後半ハ分明ナルモ前半ハ全然人工區劃デアアル但未ダ完全ナル標示ヲ終ラヌ。東境ハ軍用道路デアル、亞屯川ハ元來其源泉2アリ孰レモ中央山脈ニ發シハ保惠川ノ上流ヲ抱キテ北流シ他ハ氣屯川上流ヲ包ミテ南流シ共ニ流程4kmニシテ相會シ東流スルコト16kmニシテ本圍地ニ入り以後本圍地ヲ二分シツ、東流シ軍用道路ニ出デ、後約25kmニシテ幌内川ニ入ル、本圍地内ニ於テハ幅員20—30m水淺クシテ屈曲甚シ、之ニ注グ細流ニツキテハ茲ニ略ス、而シテ本圍地ハ田粟澤、前ノ澤以西ノ區域ヲ除ク外全部平坦地ト稱スルモ過言ニ非ズシテ就中東境南北約8kmノ間ハ全ク水平ニ近シ但其北半ハ所謂つんどら地帯ニシテ林地トシテノ價值ニ乏シ。本圍地ハ東西7km南北18kmニ亘ル。

面積ハ國有林引渡當時ノ面積ヲ今尙襲用シテ居ル、其後部分的ノ精測及全體ニ亘ル踏査ノ結果古丹岸圍地ニ於テ若干ノ面積増加アリ亞屯圍地ニ於テ若干ノ面積減少アルモノ、如ク想像セルル、モ明白デ無イ、林小班別面積ヲ次ニ掲ゲル。

樺太演習林林班別面積表
〔推測面積 ha〕

事業區		古丹岸園地	亞屯園地	合計
I	施業地	6,748.41	3,930.44	10,678.85
	區劃線	844.81	261.44	1,106.25
	計	7,593.22	4,191.88	11,785.10
II	施業地	4,027.314	4,022.92	8,050.234
總計		11,620.534	8,214.80	19,835.334

但シ苗圃、事務所〔I.34〕面積1.934haヲ含ム

〔林班數〕

事業區		古丹岸園地	亞屯園地	合計
I	施業地	20	7	27
	區劃線	20	6	26
II	施業地	20	14	34
總計	施業地	40	21	61
	區劃線	20	6	26

I 事業區施業地

林班	小班	い	ろ	は	に	合計
古丹岸園地 (1-20)						
1		340.45	59.20	—	—	399.65
2		330.82	36.91	25.96	—	393.69
3		329.16	25.79	44.18	44.93	444.06
4		265.90	4.87	102.35	107.50	480.62
5		72.66	68.77	88.54	—	229.97
6		—	—	—	—	183.15
7		378.27	60.29	—	—	438.56
8		307.44	63.54	—	—	370.98

林班	小班	い	ろ	は	に	合計
9		307.50	65.50	—	—	373.00
10		245.20	29.10	4.02	—	279.22
11		350.47	29.80	—	—	380.27
12		268.92	42.62	1.14	—	312.68
13		317.76	21.83	—	—	339.59
14		265.49	22.81	—	—	288.30
15		242.17	102.86	—	—	345.03
16		368.93	50.60	16.22	—	435.75
17		422.39	32.49	31.29	39.77	525.94
18		115.47	19.66	—	—	135.13
19		108.88	4.41	—	—	113.29
20		247.67	31.86	—	—	279.53

亞屯園地 (21-27)

21		—	—	—	—	479.55
22		984.51	8.58	12.77	—	1005.86
23		512.80	18.02	—	—	530.82
24		—	—	—	—	380.42
25		790.66	7.94	—	—	798.60
26		—	—	—	—	341.58
27		—	—	—	—	393.61

II 事業區區劃線

區劃線	小班	い	ろ	は	に	合計
古丹岸園地 (1-20)						
1		24.22	3.90	—	—	28.12
2		44.70	3.13	8.41	—	56.24
3		40.80	6.00	16.26	—	63.06
4		36.44	10.36	—	—	46.80
5		21.54	13.17	—	—	34.71

區劃線	小班		は	に	合計
	い	ろ			
6	30.36	10.36	—		40.72
7	—	—	—		42.63
8	21.31	3.66	—		24.97
9	30.60	29.31	—		59.91
10	28.60	14.10	—		42.70
11	10.07	69.57	1.82		81.46
12	10.88	8.76	—		19.64
13	7.74	28.19	—		35.93
14	12.84	47.05	1.72		61.61
15	32.21	27.68	—		59.89
16	16.39	2.29	—		18.68
17	7.62	30.26	—		37.88
18	10.20	41.03	—		51.23
19	8.94	12.44	—		21.38
20	8.54	8.71	—		17.25
亞屯圍地(21-26)					
21	—	—	—		26.39
22	25.10	31.86	—		56.96
23	—	—	—		71.99
24	—	—	—		44.20
25	—	—	—		23.71
26	—	—	—		38.19

Ⅰ 事業區施業地。

古丹岸圍地		亞屯圍地		苗圃及事務所地 (古丹岸圍地)	
林班	面積	林班	面積	林班	面積
1	281.76	20	279.47	34	1,934.0
2	429.49	21	607.64		
3	273.97	22	300.71		
4	187.55	23	4.29		

古丹岸圍地		亞屯圍地		苗圃及事務所地 (古丹岸圍地)	
林班	面積	林班	面積	林班	面積
5	363.24	24	6.44		
6	26.12	25	5.36		
7	184.74	26	192.46		
8	118.21	27	187.85		
9	113.92	28	627.91		
10	43.20	29	984.94		
11	131.68	30	9.66		
12	29.00	31	149.01		
13	326.27	32	222.39		
14	110.20	33	444.79		
15	286.73				
16	259.70				
17	228.51				
18	369.04				
19	262.05				

第二節 地質及氣象

古丹岸圍地ノ西部山系ハ樺太中央山脈ト同ジク中世代ノ白堊紀層デ砂岩及堅硬ナル泥岩ヨリ成ル共東ニ此層ニ平行シテ第三紀層ガアリ岩質比較的脆弱、砂礫粘土及泥岩ヨリ成リ東ハ海岸ニ及ビ西ハ白堊紀層ヲ蔽フ、タゞ例外トシテ古丹岸ノ岩塊アリテ安山岩及共集塊岩ヨリ成リ廣漠タル原野中ニ獨リ隆起シ居ル。石炭ハ豊富ニ存スルモ炭質良好ナラズ炭層亦厚カラズ但露頭ハ到ル處ニ之ヲ見ル、例ヘバ寅川ニ於テハ二股ノ上流約2500mニシテ河床ヲ南北ニ横斷スルモノアリ藤本川ニ於テハ内藏之助澤口ヨリ約6000mニシテ兩岸一面約300mノ長キニ亘リテ頻リニ小露頭ヲ見ル、其他畝富内、崎川等ニモ散見シ東海岸鐵道全通ノ曉ニハ多少ノ注意ヲ要スベキモノナルヲ思フ。冷泉ハ藤本川支流湯ノ澤ニ噴出シ微量ノ鹽分ヲ含ミ尙硫化水素臭アルモ飲用ニハ供シ難イ。

亞屯圍地ノ基岩ハ第三紀層ニシテ節理極メテ正シキ粘板岩及砂岩ヨリ成リ山地上部ニ露出スル處多ク殊ニ七瀨ノ澤兩岸ニ於テハ頗ル大ナル砂岩盤ノ露出ヲ見ル、石炭ハ鴨ノ澤、炭ノ澤等ニ露頭ヲ見ルモ炭質不良ニシテ薄層デアル。

氣象ハ古クヨリ其觀測ヲ爲シタルモ當初ハ頗ル不完全ナルモノニ過ギナカツタ故略シ最近三ヶ年

間ニオケル觀測ヲ年表ヲ以テ次表ニ示ス。但觀測所ハ泊岸村所在演習林事務所構内デアル。

第三節 交通 其他

海路ニ就キテ云ハ伏木又ハ函館小樽ヲ起點トシ樺太東海岸諸港ヲ經テ敷香又ハ散江ニ至ル小汽船(500~1000ton)ハ夏季ニ於テハ月數回泊岸ニ寄港シ尙1000ton以上ノ所謂優秀船ヲ以テスル直行便モ稍々不定期ナガラ夏季毎月數回寄港スル、若シ夫レ20~40tonノ小型發動機船ニ至リテハ風雨強カラザル限り毎日數隻宛泊岸ニ出入スル、タゞ良碇泊地乏シキヲ以テ風波起レバ小型船ハ勿論大型ノ汽船ト雖東風ヲ散江ニ避クル以外ハ遠ク大泊邊迄モ避難セザルベカラズ、冬季ニ於テ流氷ノ危險アル爲11月乃至4月海上ノ交通ハ全ク杜絶スル、東海岸ニ良港ノ乏シキハ樺太開發上ヨリ夙ニ遺憾トセラレ居ル處デアリ而シテ元泊以北ニ於テ築港ノ豫定地ヲ求ムルトスレバ泊岸ハ其自然ノ地形上唯一ノ候補地ナルコト識者ノ早クヨリ認ムル處デアル。

陸路交通ニツキ云ハ大正9年以前ニ於テハ榮濱以北全然道無ク僅カニ海岸浪打際ヲ徒歩ニヨリ交通シ得ルニ過ギザリシモ尼港事變後榮濱國境間100里ノ軍用道路忽トシテ開通シ東海岸ノ交通狀態一變シ更ニ昭和2年秋榮濱知取間ニ樺太鐵道株式會社ノ經營ニヨル鐵道開通シ交通狀態ハ再變シタ、現ニ知取泊岸間10里ハ自動車ニヨリ數時間ニテ往復シ得ル、而シテ昭和4年ニハ和取敷香間ノ延長工事モ竣功スルデアラウカラ三度交通狀態改マリ京都泊岸間四晝夜ヲ以テ全ク徒歩ヲ要セズシテ旅行シ得ルコトニナル。

軍道ハ内路ニテ敷香線ト分岐シ國境ニ向フテ北進スル、此道路モ現ニ敷香經由ニテ上敷香迄自動車ノ便アリ、尙少シク進メバ亞屯圍地ニモ至ルヲ得ベク蓋シ近キ將來ニ於テハ内路又ハ敷香ヨリ自動車ヲ以テ亞屯圍地ニ達シ得ルデアラウ、此處ニ鐵道ヲ敷設スル計劃モアル、又幌内川ヨリ船便ニヨル事モ出來ル。

林内交通ニツキ述ブレバ亞屯圍地ニハ殆道路ナシト稱シ得ベク古丹岸圍地ニ於テハ早クヨリ貂捕道ト稱シ林内ニ狩獵スル者ノ歩道アリ立木拂下ヲ開始スルニ及ビ拂受人ニ於テ築設シタル道路ハ幹線4條1ハ泊岸部落ヨリ楠山ニ至ル約1里木軌道ナルガ大正7年築設後殆改修セズ、演習林、部落等ニ於テ屢々補修セルモ腐朽ニ及ベルヲ以テ近ク廢道ノ豫定ナリ。2ハ茶吳ヨリ楠山ヲ通ジテ藤本山ニ至ル軌道ニシテ大正10年ノ築設ニ係リ現ニ物資運搬ニ供ス、3ハ古丹岸河口ヨリ本流ニ沿ヒ楠山ニ至ルモノ、4ハ辨慶川口ヨリ熊ノ澤ニ至ルモノニシテ専ラ伐木事業ニ便スルヲ目的トス。演習林ニ於テハ大正12年以來防火ヲ主眼トスル幅員2間ノ歩道ヲ數線總延長約20,000m、外ニ林内農耕地ノ交通其境界指示ノ爲其他諸種ノ目的ヲ有スル道路ヲ或ハ敷設シ或ハ敷設中ニアルモ孰レモ歩道ノ範圍ヲ脱セズ、交通狀態ノ急變ハ車道ヲ要求スルコト急トナレルニヨリ目下車道工事ノ計劃中ニ屬ス、詳

累年岸太演習林概況 (1925-1927)

種目	月												年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12								
氣	平均	13.5	9.9	2.9	0.6	4.5	11.9	16.1	17.9	14.4	8.8	1.1	8.8	3.4						
	最高	10.0	11.2	1.6	7.2	10.9	16.1	10.7	21.5	17.6	11.2	3.0	0.1	6.7						
	最低	24.3	23.7	14.9	4.0	1.8	5.0	10.4	12.2	7.8	0.9	1.1	14.7	3.2						
	差	13.8	17.4	12.3	12.7	10.8	11.2	9.6	9.2	9.2	9.7	9.2	11.0	10.9						
温 (C)	最大	27.0	24.0	23.0	29.0	24.0	29.0	29.5	18.0	18.0	18.0	19.6	21.0	29.0						
	最小	27	24	27	24	25	29	24	27	4	27	9	24	25						
	日	27	26	21	27	24	25	24	24	12	25	1	27	11						
	極	27	25	28	25	30	25	24	24	12	25	1	27	11						
濕度 (%)	平均	64.3	77.7	87.9	92.8	90.0	84.7	59.8	82.9	58.3	76.6	79.6	51.6	79.5						
	最高	4.0	29.0	50.0	80.0	80.2	46.4	53.0	47.0	46.0	37.0	23.0	6.0	4.0						
	最低	27	10	27	12	26	21	26	25	25	25	10	25	6						
	差	42.0	35.5	34.0	41.5	35.1	35.5	32.0	32.0	27.5	27.0	29.0	40.0	34.0						
地温 (C)	深 0.3m	4.5	4.8	0.3	0.7	1.6	7.2	13.8	15.1	12.9	7.6	2.3	0.4	4.9						
	深 1.2m	2.1	1.3	0.8	0.8	1.2	2.6	6.5	9.4	10.4	8.8	5.8	3.3	4.2						
降水量 (mm)	計	-	-	-	14.0	36.5	61.0	94.1	135.3	350.2	46.2	52.2	2.0	-						
	最大日	-	-	-	10.0	30.1	18.0	37.0	11.0	536.0	40.0	49.5	2.0	536.0						
雲風	量	6	4	6	7	7	6	5	6	6	5	6	6	6						
	向	N	N	NW	E	E	S	S	S	S	E	NE	N	S						
積雪量	深	-	-	-	3.0	0.74	-	-	-	-	-	-	-	3.0						
	最日	-	-	-	26	8	27	5	-	-	-	-	-	26						
天	快晴	8	11	5	5	2	3	6	5	6	5	5	7	101						
	晴	6	11	17	10	8	17	12	10	13	13	13	14	148						
	曇	13	7	10	16	19	13	14	17	12	11	11	12	170						
	降水 ≥ 1mm	-	-	-	-	3	9	8	11	7	8	7	7	82						
	〃 1mm-0.1mm	-	-	-	-	-	-	4	5	2	2	2	2	16						
	霧	-	-	-	2	1	6	5	2	1	-	-	-	13						
	雪	6	4	1	4	2	-	-	-	-	-	4	6	21						
	雹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	電	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	露	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	霜	6	3	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9					
	水	4	2	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12					
降雪季節	平均	初霜	X	31	終霜	V	18	最	〃	〃	218	初霜	X	7	終霜	V	31	〃	〃	258
	〃	初霜	X	14	終霜	V	18	〃	〃	〃	218	初霜	X	7	終霜	V	31	〃	〃	258

演習林事務所構内デアル。
 港ヲ經テ敷香又ハ散江ニ至ル小汽
 船ノ所謂優秀船ヲ以テスル直行便
 大型發動機船ニ至リテハ風雨強カ
 風波起レバ小型船ハ勿論大型ノ
 ラズ、冬季ニ於テ流水ノ危険ア
 ハ權太開發上ヨリ夙ニ遺憾トセ
 レバ泊岸ハ其自然ノ地形上唯一
 僅カニ海岸浪打際ヲ徒歩ニヨリ
 急トシテ開通シ東海岸ノ交通狀
 態鐵道開通シ交通状態ハ再變シ
 シテ昭和4年ニハ和取敷香間ノ延
 夜ヲ以テ全ク徒歩ヲ要セズシテ
 現ニ敷香經由ニテ上敷香迄自動
 車來ニ於テハ内路又ハ敷香ヨリ自
 割モアル、又幌内川ヨリ船便ニ
 丹岸團地ニ於テハ早クヨリ貂捕
 受人ニ於テ築設シタル道路ハ幹
 線始改修セス、演習林、部落等ニ
 茶吳ヨリ楠山ヲ通ジテ藤本山ニ
 岸河口ヨリ本流ニ沿ヒ楠山ニ至
 便スルヲ目的トス。演習林ニ於
 20,000m、外ニ林内農耕地ノ交通
 中ニアルモ穀レモ歩道ノ範圍ヲ
 下車道工事ノ計劃中ニ屬ス、詳

